

二反田遺跡

— 株式会社群馬プレスカントリークラブ
ゴルフ場建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

1998

安中市埋蔵文化財発掘調査団

二反田遺跡

— 株式会社群馬プレスカントリークラブ
ゴルフ場建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

1998

安中市埋蔵文化財発掘調査団



二反田遺跡遠景



二反田遺跡全景



K-1号窟出土遺物



K-2号窟出土遺物



K-3号窟出土遺物



K-4号窟出土遺物



K-5号窟出土遺物



K-6号窟出土遺物

序

安中市は群馬県の西南部に位置し、上毛三山に囲まれた田園都市です。二反田遺跡は市の北方に位置する秋間丘陵の東端、浸食谷中に立地します。秋間丘陵には、7世紀から9世紀にかけて、県内最大の面積を誇る秋間古窯跡群が存在し、その中に約50の支群が確認されていて、二反田遺跡もその一支群にあたります。

今回の発掘調査は、株式会社群馬プレスカントリークラブが行うゴルフ場建設事業に先立ち実施したものです。調査により、8世紀から9世紀の須恵器窯6基、壑穴状遺構1基が確認されました。秋間古窯跡群の発掘調査は安中市教育委員会としては今回が初めてで、その構造の解明に大きな成果を得ることができました。

発掘調査は、このような遺跡の様子を後世の人々に伝えてゆくために記録保存の措置を講ずるものです。

こうした、埋蔵文化財はかけがえのない郷土の遺産であります。市民の皆様にも郷土の歴史を学習していただけるよう、社会教育、学校教育の場で広く活用を図り、文化財愛護の精神を広く普及するよう努めてゆく所存であります。

終わりに、発掘調査に御協力していただいた地元の皆様や、調査に従事していただいた大勢の方々にはこの場を借り厚く御礼を申し上げます。

平成10年12月

安中市埋蔵文化財発掘調査団

団 長 山 中 誠 次

例 言

- 1 本書は、株式会社群馬プレスカントリークラブが行うゴルフ場建設事業に伴う二反田遺跡（略称B2）の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は平成2年度に実施し、遺物整理は平成3年度より実施した。なお、調査及び整理は株式会社群馬プレスカントリークラブからの委託金により実施した。
- 3 調査主体は安中市埋蔵文化財発掘調査団であり、調査は安中市教育委員会社会教育課文化財係主任千田茂雄が発掘調査員として担当した。
- 4 遺物整理及び本書の編集、執筆は千田が行った。報告書掲載の土器の選択、観察は飯田陽一（群馬県埋蔵文化財調査事業団）の指導・協力の基に行った。また融着遺物、窯の構造について陶芸家青木界（自性寺焼）の格別なるご助言をいただいた。
- 5 遺構の写真撮影は主に千田が行った。航空写真は樹青高館に委託して行った。また遺物の写真撮影は、写真家小川忠博に委託して行った。
- 6 遺構の版組は、千田、氏家芳子、稲葉恵美子、須藤明子、庭山美子、高橋佳子、伊藤佳奈子、鬼形敦子、高沢周示が行った。
遺物の実測・トレース版組、写真図版の作成は、千田、高沢周示、小島友子、佐藤すみ子、廣上良枝が行った。
遺物観察表は高橋佳子が行った。
- 7 調査区の国家座標取付及び、測量基準杭の設置は群馬プレスカントリークラブが実施した。
- 8 今回の調査における記録、出土遺物は安中市教育委員会が保管している。
- 9 発掘調査及び遺物整理の期間中多くの方々には有益な指導、助言、協力を行っていただいた。また発掘調査及び遺物整理に従事していただいた方に厚くお礼申し上げます。（敬称略・50音順）

青木 昇 飯田陽一 池上 悟 大江正行 大西雅広 神谷佳明 株式会社群馬プレスカントリークラブ 唐沢五郎 川原嘉久治 木津博明 栗原 清 桜岡正信 関 晴彦 出村晃一 津金沢吉茂 田口正美 外山政子 新倉明彦 三浦京子 右島和夫 綿貫邦夫 中沢 悟 若狭 徹 渡辺 一

凡 例

- 1 二反田遺跡全体図の縮尺は1/68である。
- 2 遺構実測図の縮尺は版の都合上統一できていない。
- 3 遺物実測図の縮尺は次のとおりである
土器：1/4
- 4 土層説明中での記号、略称は次の通りである。
色調く：より明るい方向を示す（例1<2：1より2の方が明るい）
しまり、粘性 ◎：あり、○：ややあり、△：あまりない、×：なし
混入物 ◎：大量、○：多量、△：少量、*：若干、×：なし
As-B：浅間B軽石、WP：白色粒子
- 5 遺物観察表中の器形・技術等の特徴中の●は、須恵器蓋のつまみ貼付外周部分にヘラまたは竹管状の工具による押さえ痕を有するものを示す。
- 6 遺物観察表中の胎土中のA、B、Cは、秋間産の須恵器の特徴である胎土中への黒色粒子の混入率を示す。
A：少量 B：中量 C：多量
- 7 挿図中のスクリントーンは以下のとおりである。



本文目次

序

例 言

凡 例

本文目次

挿図目次

表 目 次

図版目次

I 調査に至る経過	1
II 調査の方法と経過	2
III 遺跡の地理的・歴史的環境	3
IV 層 序	7
V 遺跡概要	8
VI 遺構と遺物	11
VII 成果と問題点	85
VIII 秋間古窯跡群分布図	93

挿図目次

第1図	二反田遺跡と周辺遺跡	4	第21図	K-5号窯	53
第2図	二反田遺跡位置図	5	第22図	K-5号窯出土遺物(1)	54
第3図	二反田遺跡調査区設定図	6	第23図	K-5号窯出土遺物(2)	55
第4図	基本層序柱状図	7	第24図	K-5号窯出土遺物(3)	56
第5図	二反田遺跡全体図	9	第25図	K-5号窯出土遺物(4)	57
第6図	K-1号・K-4号窯	12	第26図	K-6号窯	66
第7図	K-1号窯出土遺物	13	第27図	K-6号窯出土遺物(1)	67
第8図	K-4号窯出土遺物(1)	15	第28図	K-6号窯出土遺物(2)	68
第9図	K-4号窯出土遺物(2)	16	第29図	K-6号窯出土遺物(3)	69
第10図	K-4号窯出土遺物(3)	17	第30図	竪穴状遺構出土遺物	75
第11図	K-4号窯出土遺物(4)	18	第31図	二反田遺跡出土の瓦(1)	76
第12図	K-2号窯	27	第32図	二反田遺跡出土の瓦(2)	77
第13図	K-2号窯出土遺物(1)	28	第33図	二反田遺跡出土の瓦(3)	78
第14図	K-2号窯出土遺物(2)	29	第34図	法量分布図(1)	81
第15図	K-3号窯	35	第35図	法量分布図(2)	82
第16図	K-3号窯出土遺物(1)	36	第36図	法量分布図(3)	83
第17図	K-3号窯出土遺物(2)	37	第37図	法量分布図(4)	84
第18図	K-3号窯出土遺物(3)	38	第38図	土器融着分類	88
第19図	K-3号窯出土遺物(4)	39	第39図	重ね焼き痕分類	90
第20図	K-3号窯出土遺物(5)	40			

表目次

第1表	K-1号窯遺物観察表	14	第13表	K-2号窯遺物観察表(5)	34
第2表	K-4号窯遺物観察表(1)	19	第14表	K-3号窯遺物観察表(1)	41
第3表	K-4号窯遺物観察表(2)	20	第15表	K-3号窯遺物観察表(2)	42
第4表	K-4号窯遺物観察表(3)	21	第16表	K-3号窯遺物観察表(3)	43
第5表	K-4号窯遺物観察表(4)	22	第17表	K-3号窯遺物観察表(4)	44
第6表	K-4号窯遺物観察表(5)	23	第18表	K-3号窯遺物観察表(5)	45
第7表	K-4号窯遺物観察表(6)	24	第19表	K-3号窯遺物観察表(6)	46
第8表	K-4号窯遺物観察表(7)	25	第20表	K-3号窯遺物観察表(7)	47
第9表	K-2号窯遺物観察表(1)	30	第21表	K-3号窯遺物観察表(8)	48
第10表	K-2号窯遺物観察表(2)	31	第22表	K-3号窯遺物観察表(9)	49
第11表	K-2号窯遺物観察表(3)	32	第23表	K-3号窯遺物観察表(10)	50
第12表	K-2号窯遺物観察表(4)	33	第24表	K-3号窯遺物観察表(11)	51

第25表	K 3号窯遺物観察表(2)	52	第33表	K-5号窯遺物観察表(8)	65
第26表	K-5号窯遺物観察表(1)	58	第34表	K-6号窯遺物観察表(1)	70
第27表	K-5号窯遺物観察表(2)	59	第35表	K 6号窯遺物観察表(2)	71
第28表	K 5号窯遺物観察表(3)	60	第36表	K-6号窯遺物観察表(3)	72
第29表	K-5号窯遺物観察表(4)	61	第37表	K-6号窯遺物観察表(4)	73
第30表	K-5号窯遺物観察表(5)	62	第38表	竪穴状遺構出土の遺物	74
第31表	K 5号窯遺物観察表(6)	63	第39表	二反田遺跡出土瓦観察表(1)	79
第32表	K-5号窯遺物観察表(7)	64	第40表	二反田遺跡出土瓦観察表(2)	80

図版目次

図版1	二反田遺跡全景	図版7	K-2号窯出土遺物
図版2	K-2号窯全景		K 3号窯出土遺物
	K-3号窯全景	図版8	K-3号窯出土遺物
	K-4号窯全景	図版9	K-3号窯出土遺物
	K-5号窯全景		K 4号窯出土遺物
図版3	K-6号窯全景	図版10	K-4号窯出土遺物
	K-4号窯遺物出土状態		K-5号窯出土遺物
	K-6号窯遺物出土状態	図版11	K-5号窯出土遺物
図版4	K 3号窯土層断面		K-6号窯出土遺物
	K-4号窯土層断面	図版12	K-6号窯出土遺物
	K-5号窯土層断面	図版13	K-6号窯出土遺物
	K 6号窯土層断面		竪穴状遺構出土遺物
図版5	調査前スナップ		K-1号窯出土遺物
	調査スナップ		K-4号窯出土遺物
図版6	K-1号窯出土遺物	図版14	K 4号窯出土遺物
	K-2号窯出土遺物		

I 調査に至る経過

昭和61年4月、群馬ブレスカントリークラブゴルフ場造成事業計画について、地域開発対策委員会が開催された。該当地域内は、秋間古窯跡群の存在が周知されている場所のため、後日現地踏査を実施した。この時点で特に埋蔵文化財の確認はできなかったため「造成工事の段階で万一埋蔵文化財が発見されたときは、速やかに当教育委員会に連絡し、その指示に従うよう願います。」と、地域開発対策委員会を通じ検討結果の回答を行った。

昭和63年度の冬期に市教委による詳細分布調査が行われ、当該地域についても再度踏査を行った。現状に於いては埋蔵文化財、特に窯体の確認はできなかったが、谷筋に須恵器片を確認しており、窯跡の存在の可能性が高い所としてマーキングされた。

平成元年10月、群馬ブレスカントリークラブより造成工事中に窯体が露出した旨の連絡を受け、再度現地の踏査確認を行った。露出した窯体は工事用道路に伴う部分で、今後斜面を被覆してこれ以上掘削は及ばないとのことであった。窯体は犬井がつぶれることもなく遺存状態は良好であった。つまり天井の崩落がないために、斜面のくぼみなどを手がかりにしての視覚的な窯体確認が困難と言うことである。このことにより、詳細分布調査により沢筋に於いて須恵器片を確認し窯跡存在の可能性を指摘した部分について、その可能性はさらに高まった。そのため造成計画を再検討し、破壊される可能性の高い部分（1ヶ所）について、群馬ブレスカントリークラブ、県教委、市教委3者で再度現地踏査を行った。しかし、その後の協議に於いて、計画変更、工法変更等を含めても遺跡地を回避することは難しいとのこととなり、発掘調査を実施し、記録保存の措置を講ずることとなった。

II 調査の方法と経過

調査はまず、造成により影響が及ぶと思われる谷に、確認のための試掘トレンチを設定して行った。調査対象地区はかなりの傾斜地のため掘削時に重機等の使用が困難で、総て人力により行った。試掘の結果、当初予測していなかった谷の上部、尾根線近くに窠体を確認した。

本調査は、試掘調査により窠体を確認した部分を中心に、造成により影響を受ける部分を対象として行った。調査区全体に4m×4mのグリッドを設定した。グリッドの呼称は北西隅を基点として北から南へアルファベットでA、B、C…、西から東へ算用数字で1、2、3…と4進法(m)で呼ぶことにした。

座標値は国家座標に取り付けた。E-5グリッドはX=39182.548、Y=-83234.895、G-11グリッドはX=39174.869、Y=-83224.904である。

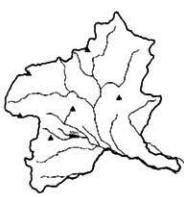
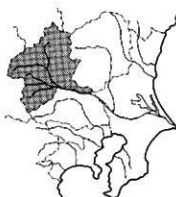
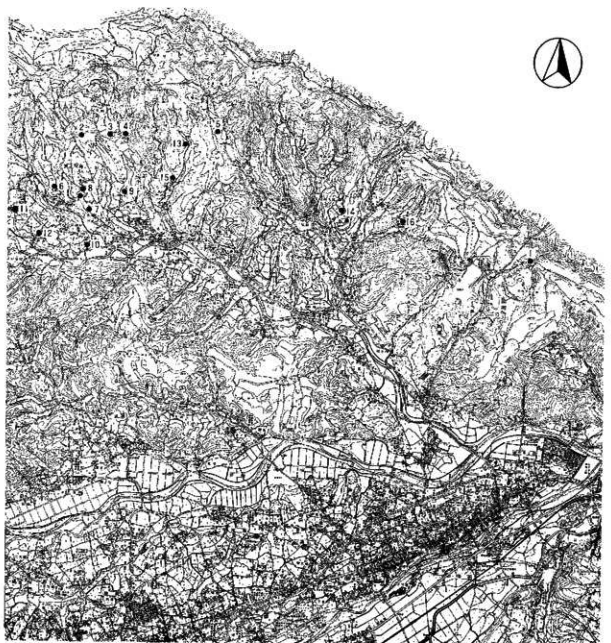
発掘調査は、平成2年4月16日から平成2年7月20日までの間行われた。調査は表土の掘削から総て人力により行い、遺構、遺物の確認作業を実施した。また確認された遺構は順次精査を行い、その後、航空写真測量を併用して実測を行った。遺物の取り上げは基本的に各遺構ごとに行った。

遺物整理は、本調査終了後断続的に行った。作業は、遺物の水洗・注記→実測・拓本→トレース・写真撮影の順で行い、並行して遺構図面の整理、写真整理を行った。

III 遺跡の地理的・歴史的環境

本遺跡のある秋間地区は、安中市の北部榛名火山の南に位置し、東流する烏川と秋間川に挟まれた秋間丘陵の南面にある。秋間丘陵の中をほぼ東西に稜線が連なり、南を秋間川が支流の般若沢川、久保川、神水川、苧稻川、日向川などを集めて東流している。支流の多くは秋間川の左岸にあって、秋間丘陵を浸食していくもの舌状地形を形成している。秋間川流域には、小規模な砂礫堆積物からなる沖積低地が河川にへばりつくように分布し、主に水田として耕作されている。集落の多くは標高150m～300mのところにあつて、秋間川流域近くに分布している。本遺跡はこの秋間丘陵の東端、浸食谷中に位置し、秋間丘陵に広がる秋間古窯跡群の1支群にあたる。秋間古窯跡群は7世紀から9世紀にかけて、県内最大の面積を誇り、詳細分布調査により約50の支群からなることが確認されている。

次に、本遺跡の周辺の遺跡を概観してみたい。本遺跡の周辺には北陸新幹線建設に伴い群馬県埋蔵文化財調査事業団が神水遺跡、笹田遺跡、稲貝戸遺跡、中島遺跡、中秋間甲木ノ果谷津1遺跡の5遺跡を発掘調査している。これらの遺跡からは、近世前半から後半の水田と思われる遺構や炭窯が検出されている。また、JR東日本が行う安中榛名駅周辺住宅開発に伴い、市教委で北原遺跡、内出城、野村遺跡を調査している。野村遺跡からは、縄文時代前期環状集落、縄文時代中期後半の環状列石が発見されている。このほか安中榛名駅へのアクセス県道建設に伴い北原遺跡、上久保遺跡が調査されている。また市道建設に伴い調査された下受地・十二遺跡があり、縄文時代前期、中期、後期、古墳時代前期、奈良・平安時代の遺構と遺物が確認されている。このほか周辺には二軒茶屋古墳、磯貝塚古墳、旧秋間村7号墳、万福原古墳など、7世紀から8世紀にかけての古墳が多く存在している。本遺跡を含む秋間古窯跡群では、苧稻遺跡や瓦窯址の八重沓窯址が過去に調査されている。さらにこの地域には中世城館址が数多く存在している。

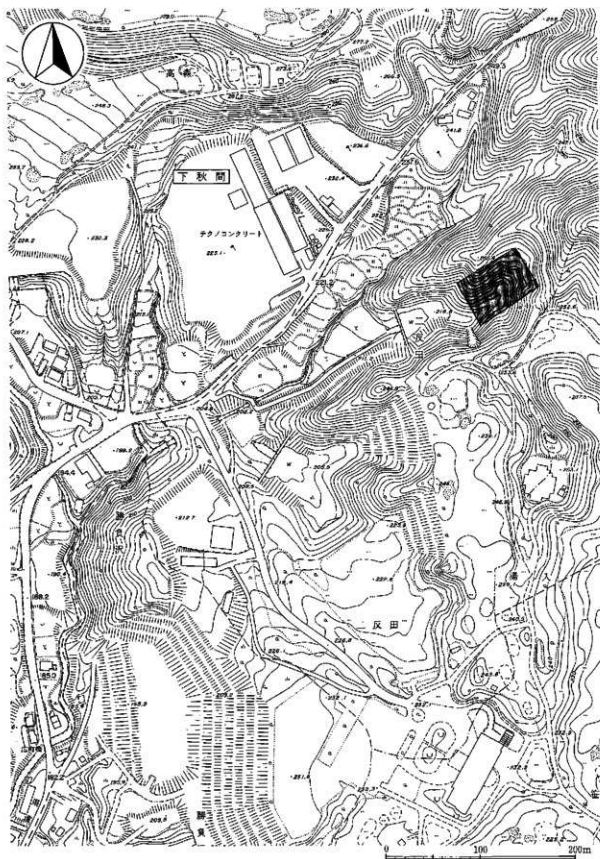


1. 二反田遺跡
2. 神木遺跡
3. 笹田遺跡
4. 船具戸遺跡
5. 中倉遺跡
6. 北原・上久保遺跡
7. 内出城
8. 北原川遺跡
9. 野村遺跡
10. 下泉地・十二遺跡
11. 二軒茶屋古墳
12. 隠岐塚古墳
13. 出羽町7号古墳
14. 万福庵古墳
15. 羽輪遺跡
16. 八重巻竈址

第1図 二反田遺跡と周辺遺跡



第2図 二反田遺跡位置図 (1:10,000)

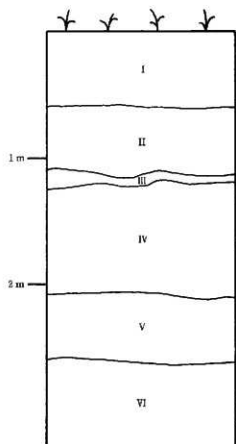


第3図 二反田遺跡調査区設定図

IV 層 序

二反田遺跡の基本層序は第4図のとおりである。

- I層 暗褐色土層 (表土層 遺構の土層観察表中表土層に該当)
- II層 黒褐色土層 (As B を多く含む 遺構の土層観察表中1層に該当)
- III層 灰白色軽石層 (As-B 純層 遺構の土層観察表中1'層に該当)
- IV層 黄褐色粘質土 (遺構の土層観察表中3層～7層に該当)
- V層 黄褐色粘質土 (鉄分凝縮層が細い带状に混入)
- VI層 青灰色粘質土 (砂礫を含む 下部に行くほど砂礫が多く混入する)



第4図 基本層序柱状図

V 遺跡概要

調査に至る経過に於いて述べたとおり、当初谷筋の下流において須恵器の散布が確認されていて、上部に窯体の存在する可能性が高いため試掘調査に入ったのだが、最初に見込んでいた部分には炭窯しか確認されず、念のため尾根筋近くまで試掘を入れたところ、窯体が検出された。

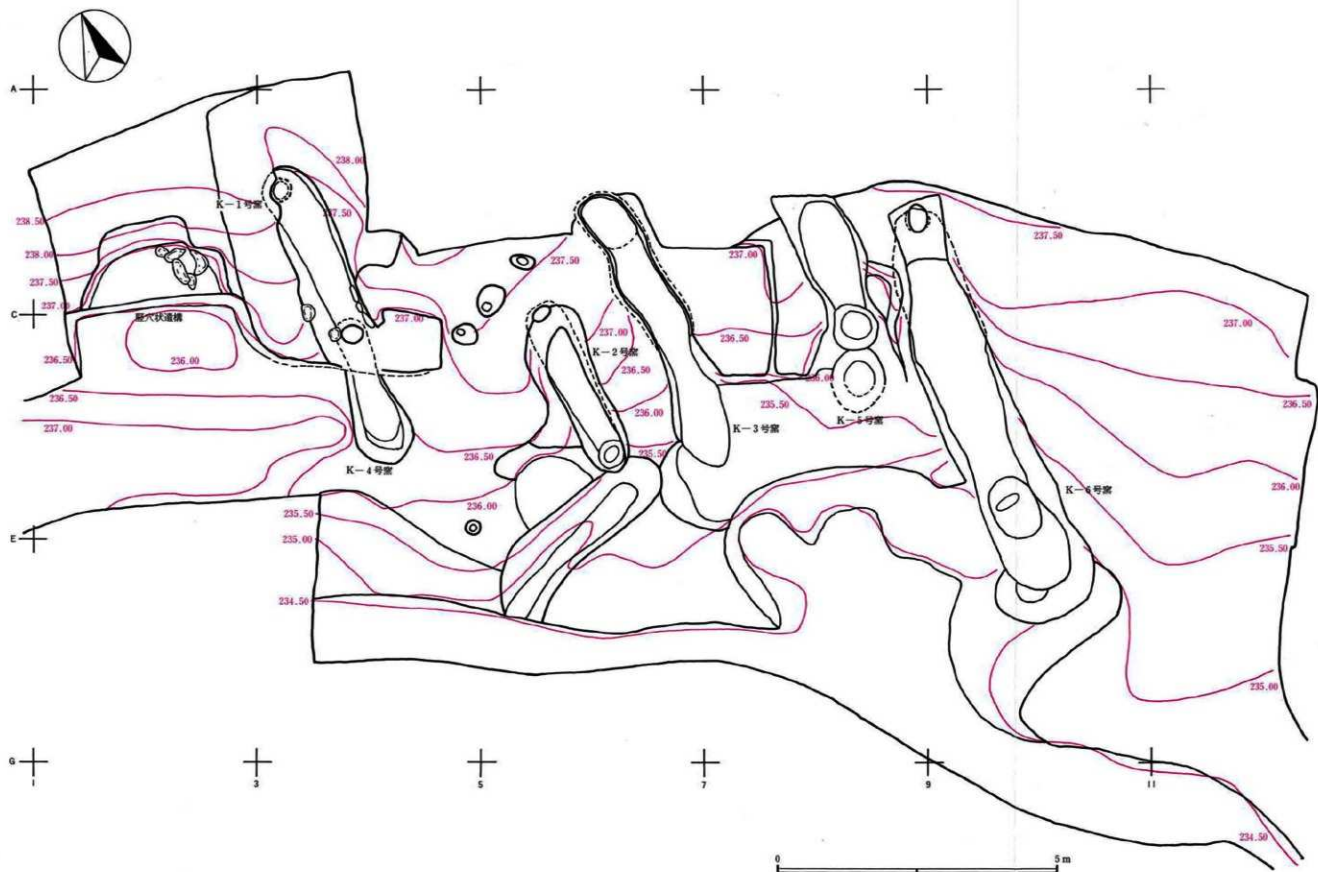
窯体の検出場所は尾根に近い谷の上部で、天井崩落などによる斜面のくぼみもなく、斜面の状態のみで確認することは困難であった。しかし、窯体が確認されてみると、窯体の下部に多少不自然な平場が形成されていて、それが灰原であることがわかる。

窯体は、斜面の一部分にまとまって6基確認された。この谷筋の他の部分にも試掘を入れたが遺構は確認されず、地形を見ると窯体を確認されたのはこの谷の終わりの部分で、南向きの比較的傾斜の緩い所であることがわかる。窯体の他には、これに隣接して竅穴状の遺構が確認されている。斜面に掘り込み、平らな床面を作り、東側には竈状の施設も持っている。

谷の底の部分にはどこからともなく湧き出る伏流水が集まり、小規模な沢状の流れを形成している。そしてこの流れの中からも須恵器片を採集することができる。

秋岡古窯跡群は詳細分布調査によって約50の支群がある事が確認されているが、実際に窯体のくぼみ等、確実な裏付けによるもの他に、谷底や、沢等の遺物の採集のみで、窯体の確認が出来ていないものも多い。その点に於いて、今回の調査により確認された窯体の立地条件は、窯の存在の可能性を考えると大きな意味を持つものと思われる。

遺物は、それぞれの窯体内や灰原部分から大量の須恵器片が出土している。窯体内については、焼き台に使用したと思われるものや、窯壁や自然釉がかかり一回りになってしまった製品などが多く、焼成時の製品の列べ方、重ね方を推察できる資料が得られた。灰原の遺物については、その部分が総て造成による影響を受けるわけではないため、影響を受ける部分のみ遺物の取り上げを行ったが、その数量は膨大なものとなった。



第5図 二反田遺跡全体図

VI 遺構と遺物

K-1号窯(第6・7図)

規模は、長軸2.75m、最大幅1.0mを計り、方位は、N-2.5°-Eである。本案の北側上部にはK-4号窯があり、K-1号窯の煙道部分にK-4号窯の燃焼部が構築され、K-1号窯→K-4号窯という新旧関係が成り立つ。煙道部分には天井が残存している。遺物は坏、高台付碗、蓋、円面硯、鉢等が出土した。

窯体の構造

燃焼部 燃焼部の規模は、長軸0.85m、最大幅1.0mを計る。床面は焼成部に向かって緩やかな傾斜を持ち、青灰色に還元化され、部分的に灰層の堆積を確認した。鞆面も青灰色に還元化され、平面形は燃焼部において本案の最大幅を計り、焼成部に向かい幅を狭めてゆく形態となる。

焼成部 焼成部の規模は、長軸1.95m、最大幅0.6mを計る。燃焼部から緩やかな傾斜を見せた床面は燃焼部に至りその角度を変え、傾斜を増しながら奥壁へと至る。床面、壁面共に青灰色に還元化され、燃焼部から幅を狭めた壁面はほぼ同じ幅を持って奥壁に至る。

奥壁・煙道部 奥壁の平面形は、やや丸味を持っている。煙道部は天井が残っており、煙道部の状態が良くわかる良好な資料である。煙道は、長径0.46m、短径0.4mの楕円状の平面形を呈している。奥壁は内傾しながら立ち上がり、確認面から0.45mを計る。

遺物出土状態

K-1号窯からは、坏、高台付碗、蓋、円面硯、鉢等が出土している。図示した遺物は全て燃焼部、焼成部からの出土である。図示した以外に、坏・碗系2点、壺・甕系57点の遺物が窯体内から出土している。

K-2号窯(第12・13・14図)

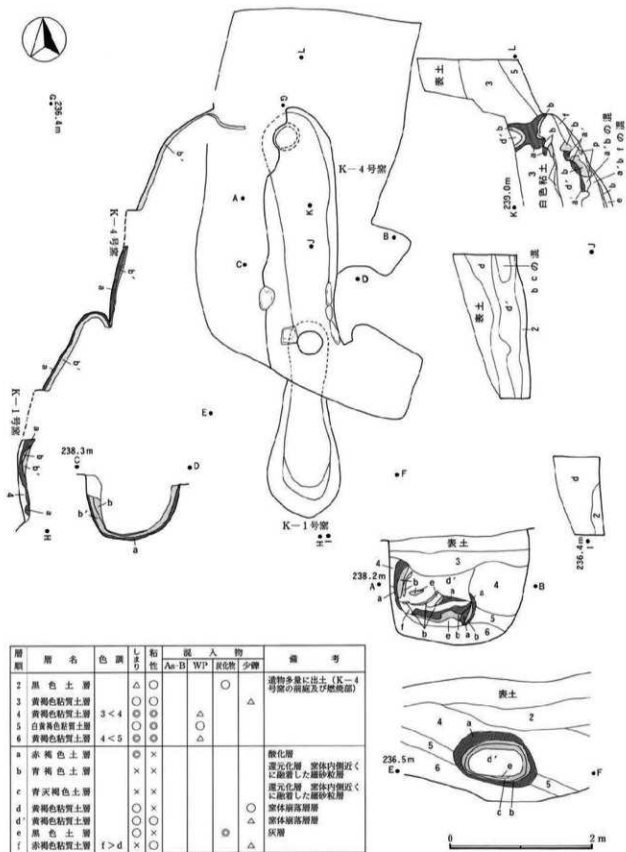
規模は、長軸3.35m、最大幅0.95mを計り、方位は、N-1°-Eである。本案は灰原付近まで依存し、灰原下には東西方向に溝が走っている。天井は沿道付近に一部分残存している。遺物は坏、高台付碗、蓋等が、焼き台とともに出土した。

窯体の構造

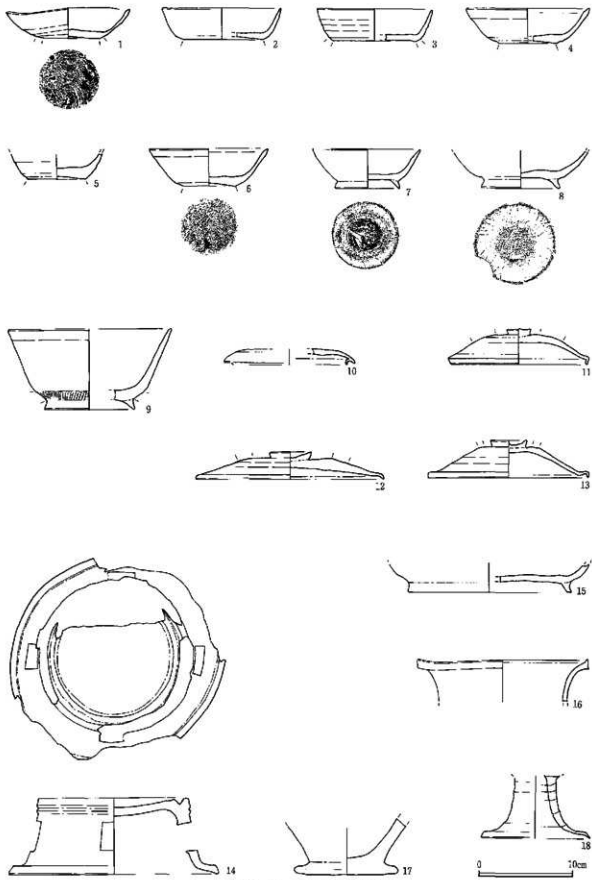
前庭 前庭部には、直径0.5mの円形ピットが存在する。前庭部ピット内には、灰層が堆積していた。

燃焼部 燃焼部の規模は、長軸1.1m、最大幅0.8mを計る。床面は緩やかに傾斜し、青灰色に還元化されている。壁面も青灰色に還元化され、平面形は燃焼部、奥壁に向かって開き気味の形態となる。

焼成部 焼成部の規模は、長軸1.55m、最大幅0.95mを計る。燃焼部で緩やかな傾斜を見せた床面は、焼成部に至りその角度を増して奥壁へと至る。床面、壁面共に青灰色に還元化され、部分的に赤褐色に



第6図 K-1号・K-4号家

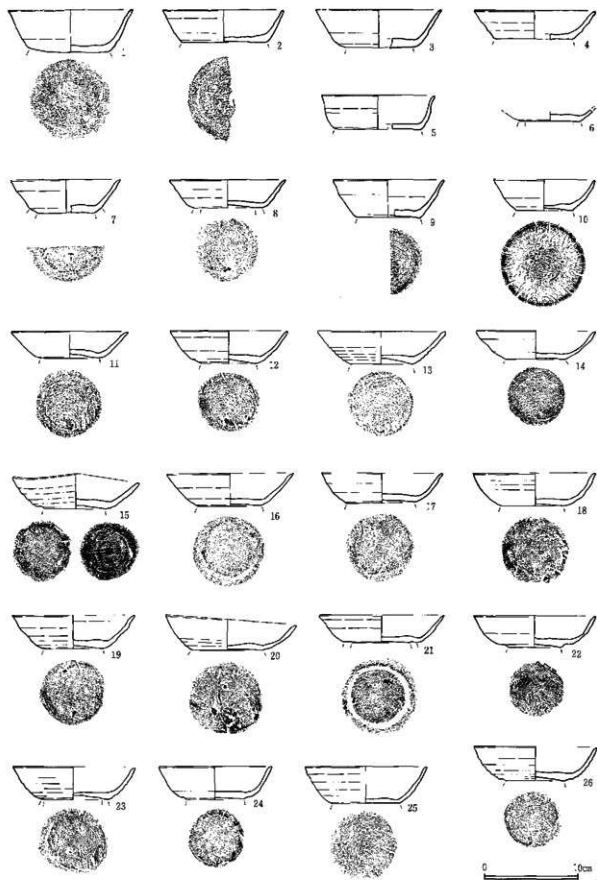


第7圖 K-1号窯出土遺物

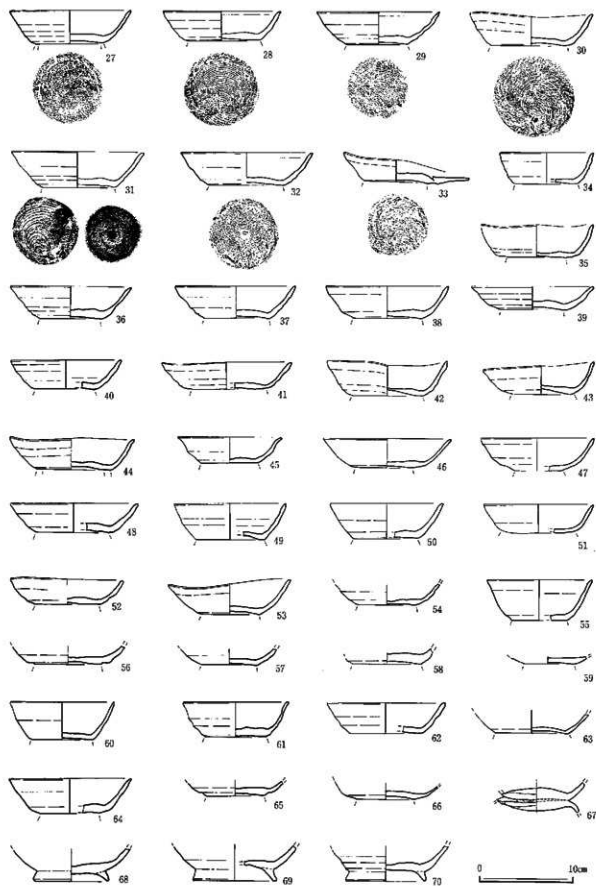
K-1号窯

No	器種	法	量	器形・技法等の特徴	胎土・色別・焼成	残存状態・備考
1	須恵器 坏	口底高	12.8	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り 底辺ヘラ削り	胎色 砂粒少量含む 灰色 焼良	4/5
			6.0			
			3.2			
2	須恵器 坏	口底高	12.6	内外面共同転横ナデ	胎色 砂粒少量含む 灰色 焼良	
			8.8			
			3.3			
3	須恵器 坏	口底高	12.2	内外面共同転横ナデ 底部回転ヘラ削り後手持ちヘラ削り 周辺ヘラ削り	胎色 砂粒少量含むB 灰色 焼良	1/7
			8.5			
			3.4			
4	須恵器 坏	口底高	12.9	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒少量含むA 灰色 焼良	1/3
			6.1			
			3.7			
5	須恵器 坏	口底高	6.0	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒含むB 黄灰色 焼良	1/2 内外面自然灰軸付着
			—			
			—			
6	須恵器 坏	口底高	12.6	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り 内面溝溝き	胎色 砂粒少量含むA 灰色 焼良	1/4
			5.7			
			3.9			
7	須恵器 高台付椀	口底高	11.5	内外面共同転横ナデ 底部回転ヘラ削り後付高台	胎色 砂粒少量含むA 黄灰色 焼良	1/3
			6.8			
			4.2			
8	須恵器 高台付椀	口底高	8.2	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り後付高台	胎色 砂粒少量含むA 灰色 焼良	底部へ体底部1/2
			—			
			—			
9	須恵器 高台付椀	口底高	17.2	内外面共同転横ナデ 外面高台上部ヘラ削り	胎色 砂粒少量含む 灰色 焼良	2/5
			—			
			8.5			
10	須恵器 蓋	口ツマミ高	14.0	内外面共同転横ナデ	胎色 砂粒含むA 灰褐色 焼良	
			—			
			1.7			
11	須恵器 蓋	口ツマミ高	15.0	内外面共同転横ナデ 大井部回転ヘラ削り ボタン状つまみ貼付 ●	胎色 砂粒少量含む 灰色 焼良	1/3 内外面自然灰軸付着 内面重ね焼き痕
			2.4			
			3.8			
12	須恵器 蓋	口ツマミ高	19.9	内外面共同転横ナデ 天井部回転ヘラ削り リング状つまみ貼付 ●	胎色 砂粒含むA 灰色 焼良	1/2
			4.4			
			2.9			
13	須恵器 蓋	口ツマミ高	16.9	内外面共同転横ナデ 天井部回転ヘラ削り 中央突出リング状つまみ貼付 ●	胎色 砂粒少量含む 灰色 焼良	4/5
			3.8			
			4.0			
14	須恵器 内面縄	口底高	16.0	内外面共同転横ナデ 胴部4カ所方形穿孔	胎色 砂粒少量含む 灰色 焼良	6/7 内外面自然灰軸付着
			22.3			
			8.1			
15	須恵器 高台付盤	口底高	17.3	内外面共同転横ナデ 底部ヘラ削り後付高台	胎色 砂粒含むA 灰色 焼良	底部1/5 内外面自然灰軸付着
			3.1			
			—			
16	須恵器 蓋	口底高	18.0	内外面共同転横ナデ	胎色 砂粒含む 灰色 焼良	口辺部のみ1/5 内外面自然灰軸付着
			—			
			—			
17	須恵器 鉢	口底高	—	内外面共同転横ナデ	胎色 砂粒含むB 灰色 焼良	底部へ胴下半部
			11.1			
			—			
18	須恵器 高	口底高	11.3	内外面共同転横ナデ	胎色 砂粒少量含むA 灰色 焼良	胴部1/2
			—			
			—			

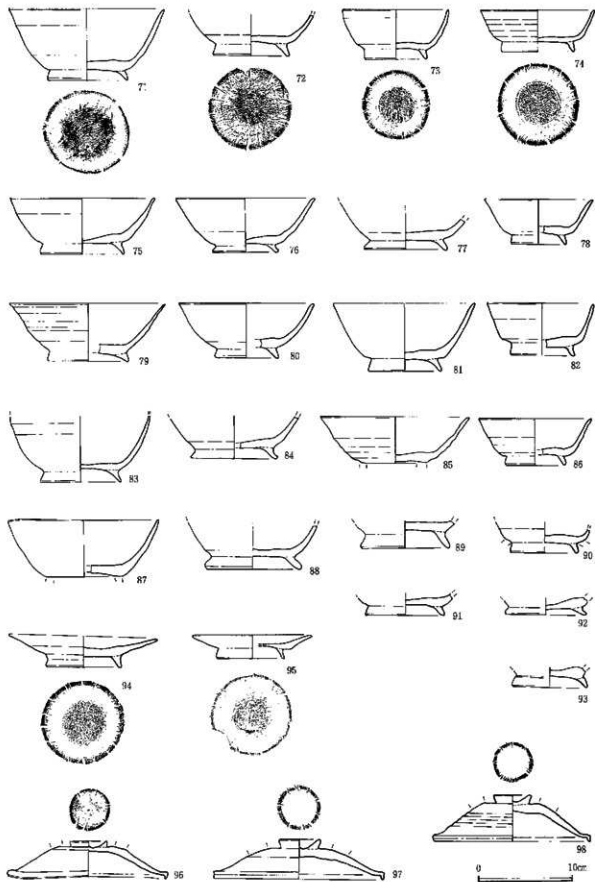
第1表 K-1号窯遺物観察表



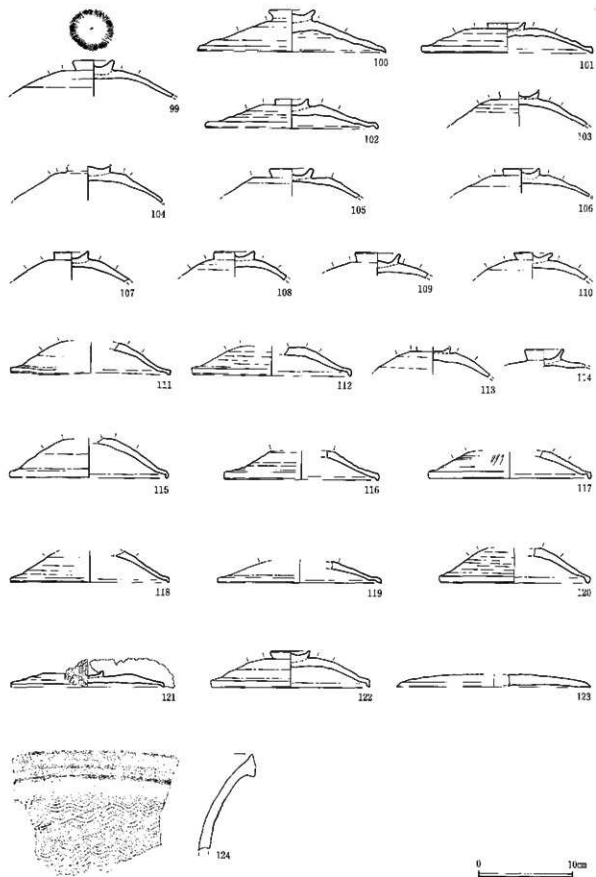
第8圖 K-4号窯出土遺物(1)



第9图 K 4号窑出土文物(2)



第10図 K-4号窯出土遺物(3)



第11图 K-4号窑出土遗物(4)

K-4号窯

No	器種	法	電	器形・技法等の特徴	胎土・色紙・焼成	残存状態・備考	
1	須恵器 坏	口 底	12.9	内外面共回転横ナデ 底部回転ヘラ切り後手持ヘラ削り	胎 色	砂粒含むA 灰白色 焼 良	2/3
			8.5				
			4.5				
2	須恵器 坏	口 底	12.7	内外面共回転横ナデ 底部回転ヘラ切り	胎 色	砂粒含むA 黄灰色 焼 良	1/2 内外面重ね焼き痕
			9.0				
			3.4				
3	須恵器 坏	口 底	13.3	内外面共回転横ナデ 底部ヘラ切り	胎 色	砂粒含む 暗灰色 焼 良	1/3
			7.0				
			4.1				
4	須恵器 坏	口 底	12.6	内外面共回転横ナデ 底部回転ヘラ切り	胎 色	砂粒少量含むC 灰黄色 焼 良	1/4 内外面自然灰釉付着
			8.6				
			3.0				
5	須恵器 坏	口 底	12.0	内外面共回転横ナデ 底部回転ヘラ切り	胎 色	砂粒少量含むB 灰白色 焼 やや不良	1/4
			8.0				
			3.6				
6	須恵器 坏	口 底	6.5	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 色	砂粒含む 灰色 焼 良	底部のみ 内面重ね焼き痕
			1.1				
7	須恵器 坏	口 底	11.5	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り後外縁ヘラ削り	胎 色	砂粒含む 暗灰色 焼 良	1/3 外面自然灰釉付着
			6.0				
			3.5				
8	須恵器 坏	口 底	12.2	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り後底辺ヘラ削り	胎 色	砂粒含むA 灰色 焼 良	1/3
			7.0				
			3.0				
9	須恵器 坏	口 底	11.6	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 色	砂粒含む 灰色 焼 良	1/3 内外面重ね焼き痕
			6.6				
			4.0				
10	須恵器 坏	口 底	10.7	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 色	砂粒含むA 灰色 焼 良	1/2
			6.0				
			3.3				
11	須恵器 坏	口 底	12.5	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 色	砂粒少量含むA 灰色 焼 良	4/5 内外面重ね焼き痕
			6.5				
			2.8				
12	須恵器 坏	口 底	12.4	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 色	砂粒少量含むB 灰色 焼 良	ほぼ完形 内外面自然灰釉付着 外面重ね焼き痕
			5.8				
			3.4				
13	須恵器 坏	口 底	13.6	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 色	砂粒含むB 灰色 焼 良	1/2 内外面重ね焼き痕
			6.7				
			2.8~4.2				
14	須恵器 坏	口 底	12.6	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り 内面渦巻き	胎 色	砂粒少量含むA 灰白色 焼 やや不良	3/5
			6.3				
			3.0				
15	須恵器 坏	口 底	13.2	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り 内面渦巻き	胎 色	砂粒少量含むA 灰色 焼 良	7/8 内外面重ね焼き痕
			6.2				
			2.6~3.8				
16	須恵器 坏	口 底	13.2	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り 内面渦巻き	胎 色	砂粒含むA 灰白色 焼 やや不良	3/4
			7.0				
			3.4				
17	須恵器 坏	口 底	12.6	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り 内面渦巻き	胎 色	砂粒少量含むA 灰白色 焼 やや不良	2/3
			7.0				
			3.1				
18	須恵器 坏	口 底	12.8	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り 底部圧痕	胎 色	砂粒少量含む 灰色 焼 良	1/2 内外面重ね焼き痕
			6.6				
			3.7				

第2表 K-4号窯遺物観察表(1)

K-4号窯

No.	器種	法	量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
19	須恵器 坏	L 底高	12.9	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒・石粒含む 灰白色 やや不良	3/5 内外面重ね焼き痕
			6.6 3.5			
20	須恵器 坏	L 底高	14.1	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒含む 灰白色 やや不良	4/5
			7.3 3.7			
21	須恵器 坏	L 底高	13.0	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒含むB 灰白色 やや不良	2/3
			7.6 2.9			
22	須恵器 坏	L 底高	12.9	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒少量含む 灰白色 やや不良	1/2
			5.7 3.3			
23	須恵器 坏	L 底高	12.8	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒少量含む 灰白色 良	2/3
			7.0 3.5			
24	須恵器 坏	L 底高	11.9	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒少量含むB 灰白色 良	1/2 内外面自然灰胎付着
			6.2 3.5			
25	須恵器 坏	L 底高	12.8	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り 底部任痕	胎色 砂粒含む 灰白色 やや不良	1/2
			7.0 3.5~4.0			
26	須恵器 坏	L 底高	12.9	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒少量含む 灰白色 良	1/2
			6.3 3.6			
27	須恵器 坏	L 底高	12.6	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒少量含む 灰白色 やや不良	2/3 内外面重ね焼き痕
			6.4~7.2 3.5			
28	須恵器 坏	L 底高	12.3	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒少量含む 灰白色 良	3/4 外面重ね焼き痕
			7.5 3.2			
29	須恵器 坏	L 底高	12.8	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒少量含む 灰白色 やや不良	2/3 外面重ね焼き痕
			6.4 3.5			
30	須恵器 坏	L 底高	12.7	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り 内面浅巻き	胎色 砂粒含む 灰白色 やや不良	2/3
			8.2 3.4			
31	須恵器 坏	L 底高	13.8	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り 内面浅巻き	胎色 砂粒少量含むA 灰白色 やや不良	2/3
			7.5 3.8			
32	須恵器 坏	L 底高	13.8	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り 内面浅巻き	胎色 砂粒含む 灰白色 やや不良	3/5
			7.7 3.5			
33	須恵器 坏	L 底高	13.7	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒少量含むA 灰白色 やや不良	3/4 外面重ね焼き痕
			6.6 0.6~3.0			
34	須恵器 坏	L 底高	10.0	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒含むA 灰白色 良	1/3
			6.6 3.2			
35	須恵器 坏	L 底高	11.9	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒少量含む 暗灰色 良	1/2
			7.6 3.4			
36	須恵器 坏	L 底高	12.7	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒少量含む 灰白色 やや不良	1/2
			6.5 3.4			

第3表 K-4号窯遺物観察表(2)

K-4号窯

No	器 種	法 量	器形・技法等の特徴	胎土・色質・焼成	残存状態・備考
37	須恵器 坏	口底高 13.6 7.0 3.4	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 胎粒含む 灰白色 焼良	2/5
38	須恵器 坏	口底高 12.8 7.2 3.4	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 胎粒含む 灰白色 焼不良	1/2
39	須恵器 坏	口底高 12.8 6.5 2.4	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒少量含む 灰白色 焼やや不良	2/5
40	須恵器 坏	口底高 11.6 6.3 3.1	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り 底部凹痕	胎色 小石含むB 灰白色 焼良	3/5 内外面自然灰釉少量付着
41	須恵器 坏	口底高 13.8 6.6 3.0~3.5	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒少量含むA 灰白色 焼やや不良	1/4
42	須恵器 坏	口底高 12.8 7.4 3.7	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り 内面渦巻き	胎色 胎粒含む 灰白色 焼良	1/3 外面重ね焼き痕
43	須恵器 坏	口底高 11.7 6.3 2.6~3.5	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り 底部凹痕	胎色 胎粒少量含むA 灰白色 焼良	1/2 内外面自然灰釉付着
44	須恵器 坏	口底高 13.0 6.5~7.7 3.3	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒少量含む 灰白色 焼良	1/2 外面自然灰釉付着
45	須恵器 坏	口底高 11.0 6.0 2.8	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 胎粒含む 灰白色 焼良	1/4
46	須恵器 坏	口底高 13.4 6.0 3.1	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り 内面渦巻き	胎色 胎粒含む 灰白色 焼やや不良	1/2
47	須恵器 坏	口底高 12.0 5.0 3.4	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒少量含む 灰白色 焼良	1/3 外面重ね焼き痕
48	須恵器 坏	口底高 13.4 7.6 3.0	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 胎粒含む 灰白色 焼やや不良	1/4
49	須恵器 坏	口底高 11.8 7.2 3.9	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒少量含む 暗灰色 焼良	1/5 内外面重ね焼き痕
50	須恵器 坏	口底高 11.7 6.6 3.7	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 胎粒含む 灰白色 焼良	2/5 内面重ね焼き痕
51	須恵器 坏	口底高 11.5 6.0 3.1	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 胎粒含むB 暗灰色 焼良	3/5 内外面自然灰釉少量付着
52	須恵器 坏	口底高 — 7.0 2.7~3.0	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り 内面渦巻き	胎色 胎粒含むC 灰白色 焼やや良	底部1/4 内外面重ね焼き痕
53	須恵器 坏	口底高 12.2 6.0 3.7	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 胎粒含むA 灰白色 焼やや不良	1/3 外面重ね焼き痕
54	須恵器 坏	口底高 — 6.3	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り 内面渦巻き	胎色 砂粒少量含むA 灰白色 焼良	底部4/5 外面重ね焼き痕

第4表 K-4号窯遺物観察表(3)

K-4号窯

No.	器種	法	量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
55	須恵器 坏	口底高	11.0	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 粗砂粒含む 灰色 良	1/5
			6.0			
56	須恵器 坏	口底高	11.2	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 細砂粒含む 灰色 良	底部1/4
			7.0			
57	須恵器 坏	口底高	—	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒含む 灰色 良	底部2/3
			5.6			
58	須恵器 坏	口底高	—	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り 内面渦巻き	胎色 砂粒含む 灰白色 やや不良	底部のみ
			7.2			
59	須恵器 坏	口底高	—	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 粗砂粒含む 灰白色 良	底部3/5
			7.2			
60	須恵器 坏	口底高	11.0	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒含むB 暗灰色 良	2/5
			5.5			
61	須恵器 坏	口底高	11.0	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 粗砂粒含むA 灰色 やや不良	1/2 内外面自然灰釉付着 外面重ね焼き痕
			6.2			
62	須恵器 坏	口底高	12.8	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 粗砂粒含むB 灰色 良	1/3 内外面重ね焼き痕
			8.0			
63	須恵器 坏	口底高	—	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒含むC 灰色 良	1/3
			8.0			
64	須恵器 坏	口底高	13.0	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒含むB 暗灰色 良	1/3 内外面自然灰釉少量付着
			6.0			
65	須恵器 坏	口底高	—	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒含むA 灰色 良	1/4 外面自然灰釉付着
			6.2			
66	須恵器 坏	口底高	—	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 粗砂粒含むA 暗灰色 良	底部完形 内面重ね焼き痕
			6.0			
67	須恵器 坏	口底高	共 7.0	内外面共同転横ナデ	胎色 砂粒含むB 灰色 良	坏底部と器部で融着
			—			
68	須恵器 高台付碗	口底高	—	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り後付高台	胎色 砂粒少量含む 灰色 良	器部～体部1/2
			8.0			
69	須恵器 高台付碗	口底高	—	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り後付高台	胎色 砂粒少量含む 灰色 良	体部中位～底部1/2
			9.0			
70	須恵器 高台付碗	口底高	—	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り後付高台 内面渦巻き	胎色 砂粒含む 灰色 良	体底部～胴部ほぼ完形
			8.2			
71	須恵器 高台付碗	口底高	16.3	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り後付高台	胎色 砂粒含む 灰黄色 やや不良	1/3
			8.4			
72	須恵器 高台付碗	口底高	—	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り後付高台	胎色 砂粒含むA 灰色 良	底部と体部の一部 外面自然灰釉付着 外面重ね焼き痕
			8.0			

第5表 K-4号窯遺物観察表(4)

K-4号窯

No.	器種	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
73	須恵器 高台付碗	口径 11.2	内外面共同転漉ナデ 底部回転糸切り後付高台	胎色 砂粒含むB	1/2 内外面自然灰釉付着 外面重ね焼き痕
		口径高 6.3		胎色 灰色	
		口径高 5.3		焼良	
74	須恵器 高台付碗	口径 12.0	内外面共同転漉ナデ 底部回転糸切り後付高台	胎色 砂粒含む	3/5
		口径高 7.6		胎色 灰白色	
		口径高 4.4		焼 やや不良	
75	須恵器 高台付碗	口径 15.4	内外面共同転漉ナデ 底部回転糸切り後付高台 内面底部中央へこみ	胎色 砂粒少量含む	1/3
		口径高 8.8		胎色 灰色	
		口径高 6.0		焼良	
76	須恵器 高台付碗	口径 14.8	内外面共同転漉ナデ 底部回転糸切り後付高台	胎色 砂粒含むB	1/4 外面自然灰釉付着
		口径高 7.0		胎色 灰色	
		口径高 5.8		焼良	
77	須恵器 高台付碗	口径 —	内外面共同転漉ナデ 底部回転糸切り後付高台	胎色 砂粒少量含む	1/2
		口径高 8.8		胎色 灰色	
78	須恵器 高台付碗	口径 11.3	内外面共同転漉ナデ 底部回転糸切り後付高台	胎色 砂粒少量含む	1/3
		口径高 5.8		胎色 灰白色	
		口径高 4.8		焼良	
79	須恵器 高台付碗	口径 16.4	内外面共同転漉ナデ 底部回転糸切り後付高台	胎色 砂粒少量含む	1/5
		口径高 8.4		胎色 灰色	
		口径高 6.2		焼良	
80	須恵器 高台付碗	口径 14.1	内外面共同転漉ナデ 底部回転糸切り後付高台	胎色 砂粒含むA	1/4
		口径高 6.5		胎色 灰青色	
		口径高 5.8		焼良	
81	須恵器 高台付碗	口径 15.0	内外面共同転漉ナデ 底部回転糸切り後付高台	胎色 砂粒含む	2/5
		口径高 7.8		胎色 灰色	
		口径高 7.2		焼 やや不良	
82	須恵器 高台付碗	口径 11.2	内外面共同転漉ナデ 底部回転糸切り後付高台	胎色 砂粒含む	1/3
		口径高 6.8		胎色 灰色	
		口径高 5.5		焼良	
83	須恵器 高台付碗	口径 8.5	内外面共同転漉ナデ 底部回転糸切り後付高台	胎色 砂粒含む	1/4 内外面自然灰釉少量付着
		口径高 —		胎色 灰色	
84	須恵器 高台付碗	口径 —	内外面共同転漉ナデ 底部回転糸切り後付高台 高台広狭	胎色 砂粒含む	1/5
		口径高 9.2		胎色 灰色	
85	須恵器 高台付碗	口径 15.6	内外面共同転漉ナデ 底部回転糸切り後付高台	胎色 砂粒含む	1/4
		口径高 6.5		胎色 灰青色	
		口径高 4.9		焼 やや不良	
86	須恵器 高台付碗	口径 11.7	内外面共同転漉ナデ 底部回転糸切り後付高台	胎色 砂粒少量含むA	1/3
		口径高 6.2		胎色 灰白色	
		口径高 5.0		焼良	
87	須恵器 高台付碗	口径 —	内外面共同転漉ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒少量含むC	1/5
		口径高 —		胎色 灰色	
		口径高 6.0		焼良	
88	須恵器 高台付碗	口径 10.0	内外面共同転漉ナデ 底部回転糸切り後付高台	胎色 砂粒含む	1/4 内外面自然灰釉付着
		口径高 —		胎色 灰色	
89	須恵器 高台付碗	口径 —	内外面共同転漉ナデ 底部回転糸切り後付高台	胎色 砂粒含むA	底部のみ
		口径高 9.4		胎色 灰色	
		口径高 —		焼良	
90	須恵器 高台付碗	口径 —	内外面共同転漉ナデ 底部回転糸切り後付高台	胎色 砂粒少量含むA	底部～脚部2/3
		口径高 7.0		胎色 灰色	
		口径高 —		焼良	

第6表 K-4号窯遺物観察表(5)

K-4号窯

No.	器 種	法 量	器形・技法等の特徴	胎土・色割・焼成	残存状態・番号
91	須恵器 高台付碗	口 底 高 8.4	内外面共同転横ナデ 底面回転糸切り後付高台	胎色 砂粒含むC 灰色 焼 良	底面1/2
92	須恵器 高台付碗	口 底 高 8.5	内外面共同転横ナデ 底面回転糸切り後付高台	胎色 砂粒少量含むB 灰色 焼 良	底面1/2 内外面自然灰釉付着
93	須恵器 高台付碗	口 底 高 7.8	内外面共同転横ナデ 底面回転糸切り後付高台	胎色 砂粒含むB 灰色 焼 良	底面1/2
94	須恵器 皿	口 底 高 15.7 7.9 3.3	内外面共同転横ナデ 底面回転糸切り後付高台	胎色 砂粒含む 灰色 焼 良	4/5 外面自然灰釉付着 内外面重ね焼き痕
95	須恵器 皿	口 底 高 12.7 7.0 2.5	内外面共同転横ナデ 底面回転糸切り後付高台	胎色 砂粒少量含む 灰色 焼 良	1/2 内面重ね焼き痕
96	須恵器 蓋	口 ツマミ 底 高 16.7 3.8 4.0	内外面共同転横ナデ 天井部へラ削り リング状つまみ貼付	胎色 砂粒少量含むA 灰色 焼 良	1/2
97	須恵器 蓋	口 ツマミ 底 高 17.8 4.2 4.2	内外面共同転横ナデ 天井部へラ削り リング状つまみ貼付	胎色 砂粒少量含む 灰色 焼 良	1/4
98	須恵器 蓋	口 ツマミ 高 16.7 3.7 4.9	内外面共同転横ナデ 天井部へラ削り リング状つまみ貼付	胎色 砂粒少量含む 灰色 焼 良	2/5
99	須恵器 蓋	口 ツマミ 高 — 4.3 —	内外面共同転横ナデ 天井部へラ削り リング状つまみ貼付 ●	胎色 砂粒含む 灰白色 焼 やや不良	1/2
100	須恵器 蓋	口 ツマミ 高 20.0 4.7 4.4	内外面共同転横ナデ 天井部へラ削り 中央突出リング状つまみ貼付	胎色 砂粒少量含む 灰黄色 焼 良	1/4
101	須恵器 蓋	口 ツマミ 高 18.0 4.0 3.2	内外面共同転横ナデ 天井部へラ削り リング状つまみ貼付 ●	胎色 砂粒含むA 灰色 焼 不良	1/3
102	須恵器 蓋	口 ツマミ 高 18.0 3.5 3.1	内外面共同転横ナデ 天井部へラ削り リング状つまみ貼付 ●	胎色 砂粒含むA 灰色 焼 良	1/6
103	須恵器 蓋	口 ツマミ 高 — 4.2 —	内外面共同転横ナデ 中央突出リング状つまみ貼付	胎色 砂粒含むA 灰白色 焼 や不良	1/4 外面自然灰釉付着
104	須恵器 蓋	口 ツマミ 高 — 6.6 3.9	内外面共同転横ナデ 天井部へラ削り 中央突出ボタン状つまみ貼付 ●	胎色 砂粒少量含むA 灰白色 焼 良	1/3
105	須恵器 蓋	口 ツマミ 高 — 4.5 —	内外面共同転横ナデ 天井部へラ削り リング状つまみ貼付 ●	胎色 砂粒含む 灰白色 焼 やや不良	1/4
106	須恵器 蓋	口 ツマミ 高 — 3.8 —	内外面共同転横ナデ 天井部へラ削り 中央突出リング状つまみ貼付 ●	胎色 細砂粒含む 灰白色 焼 やや不良	1/3
107	須恵器 蓋	口 ツマミ 高 — 3.6 —	内外面共同転横ナデ 天井部へラ削り リング状つまみ貼付	胎色 砂粒含むB 灰白色 焼 良	1/5
108	須恵器 蓋	口 ツマミ 高 — 4.4 —	内外面共同転横ナデ 天井部へラ削り 中央突出リング状つまみ貼付 ●	胎色 砂粒含むA 灰白色 焼 良	1/2

第7表 K-4号窯遺物観察表(6)

K-4号窯

No.	器種	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
109	須恵器蓋	□ ツマミ 4.8 高 4.8	内外面共回転横ナデ 天井部回転ヘラ削り 中央突出リング状つまみ貼付 ●	胎色 砂粒含む 灰白色 焼 やや不良	天井部のみ
	須恵器蓋	□ ツマミ 4.2 高 —			
110	須恵器蓋	□ ツマミ 17.0 高 3.4	内外面共回転横ナデ 天井部回転ヘラ削り	胎色 砂粒少量含む 灰白色 焼 やや不良	1/2
	須恵器蓋	□ ツマミ 17.0 高 3.0			
111	須恵器蓋	□ ツマミ 17.0 高 3.4	内外面共回転横ナデ 天井部回転ヘラ削り	胎色 砂粒少量含むA 灰白色 焼 良	1/2
	須恵器蓋	□ ツマミ 17.0 高 3.0			
112	須恵器蓋	□ ツマミ 17.0 高 3.0	内外面共回転横ナデ 天井部回転ヘラ削り	胎色 砂粒少量含むA 灰白色 焼 良	1/5
	須恵器蓋	□ ツマミ 17.0 高 3.0			
113	須恵器蓋	□ ツマミ 3.3 高 —	内外面共回転横ナデ リング状つまみ貼付	胎色 砂粒含む 灰白色 焼 やや不良	1/4
	須恵器蓋	□ ツマミ 3.3 高 —			
114	須恵器蓋	□ ツマミ 4.0 高 —	内外面共回転横ナデ 中央突出リング状つまみ貼付	胎色 砂粒含むB 灰白色 焼 良	つまみ部のみ
	須恵器蓋	□ ツマミ 17.0 高 4.1			
115	須恵器蓋	□ ツマミ 17.0 高 4.1	内外面共回転横ナデ	胎色 砂粒少量含む 灰白色 焼 良	1/4
	須恵器蓋	□ ツマミ 16.4 高 —			
116	須恵器蓋	□ ツマミ 16.4 高 —	内外面共回転横ナデ	胎色 砂粒少量含む 灰白色 焼 良	1/4
	須恵器蓋	□ ツマミ 17.0 高 2.9			
117	須恵器蓋	□ ツマミ 17.0 高 2.9	内外面共回転横ナデ	胎色 砂粒含む 灰白色 焼 良	1/5
	須恵器蓋	□ ツマミ 16.8 高 3.3			
118	須恵器蓋	□ ツマミ 16.8 高 3.3	内外面共回転横ナデ	胎色 砂粒少量含む 灰白色 焼 良	1/5
	須恵器蓋	□ ツマミ 17.4 高 —			
119	須恵器蓋	□ ツマミ 17.4 高 —	内外面共回転横ナデ	胎色 砂粒少量含む 灰白色 焼 やや不良	口縁部～肩部1/3
	須恵器蓋	□ ツマミ 15.4 高 3.7			
120	須恵器蓋	□ ツマミ 15.4 高 3.7	内外面共回転横ナデ	胎色 砂粒少量含むA 灰白色 焼 良	1/5
	須恵器蓋	□ ツマミ 16.2 高 1.7			
121	須恵器蓋	□ ツマミ 16.2 高 1.7	内外面共回転横ナデ リング状つまみ貼付	胎色 砂粒含む 灰黄色 焼 やや不良	1/2 外面砂粒付着
	須恵器蓋	□ ツマミ 15.6 高 4.4			
122	須恵器蓋	□ ツマミ 4.4 高 4.9	内外面共回転横ナデ 天井部回転ヘラ削り 中央突出リング状つまみ貼付 ●	胎色 砂粒含む 灰白色 焼 良	1/3 内外面自然灰胎付着
	須恵器蓋	□ ツマミ 20.6 高 1.4			
123	須恵器蓋	□ ツマミ 20.6 高 1.4	内外面共回転横ナデ 天井部ヘラ削り	胎色 砂粒含む 灰黄色 焼 良	1/4
	須恵器蓋	□ 底高 10.0			
124	須恵器蓋	□ 底高 10.0	外面波状紋 内回転ナデ	胎色 砂粒含む 暗灰色 焼 良	破片

第8表 K-4号窯遺物観察表(7)

酸化された所も見られた。

奥壁・煙道部 奥壁の平面形は、やや丸味を持っている。煙道部は天井が残っており、煙道の状態が良くわかる良好な資料である。煙道は、長径0.35m、短径0.25mの楕円状の平面形を呈し、地上から確認することができた。奥壁は多少内傾気味に立ち上がり、地上から0.4mを計る。

遺物出土状態

K-2号窯からは、坏、高台付碗、蓋、壺等が出土している。刃がした遺物は全て燃焼部、焼成部からの出土である。図示した以外に、坏・碗系1,134点、蓋123点、壺・皿系14点、壺・甕系42点の遺物が窯体内から出土している。

K 3号窯（第15・16・17・18・19・20図）

規模は、長軸5.35m、最大幅1.0mを計り、方位は、N-1°-Wである。窯体軸は、他の窯体と異なり直線ではなく、西側に多少湾曲する特徴を持つ。本窯は燃焼部まではっきりと確認することができたが、前庭部については灰原と一緒になってしまい明確に確認することはできなかった。天井部は崩落してしまっているが、土層断面において崩落した天井が確認できる。遺物は坏、高台付碗、蓋等が焼成時の重ね焼きの状態を良く残し、焼き台等と併に出土した。

窯体の構造

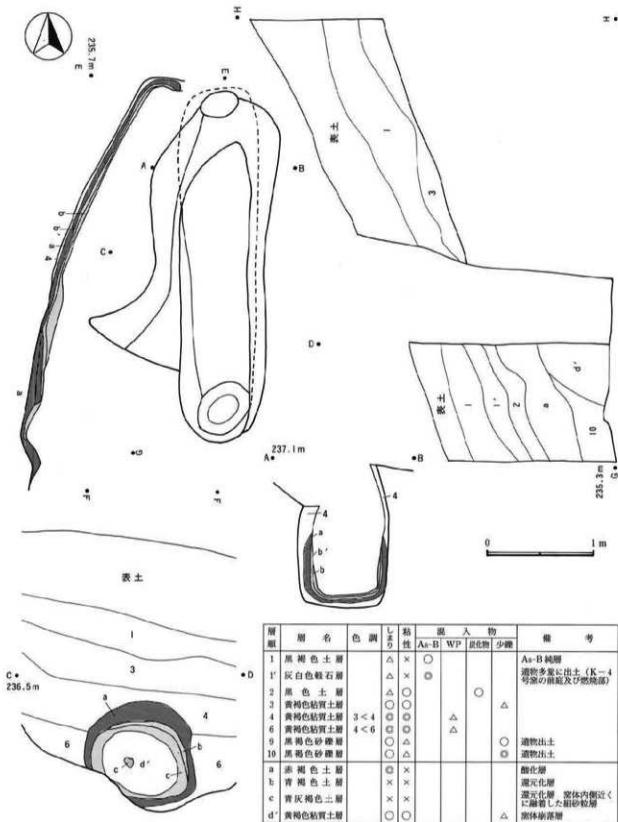
燃焼部 燃焼部の規模は、長軸1.55m、最大幅0.85mを計る。床面は青灰色に還元化されており、ほぼ水平に延びている。床面直上には灰層が堆積している。壁面も青灰色に還元化され、平面形は燃焼部中央に最大幅を有し、焼成部に向かって狭くくびれを持つ形態となる。

焼成部 焼成部の規模は、長軸3.75m、最大幅1.0mを計る。燃焼部と焼成部の境は段差を有し、焼成部が1段高くなる。床面、壁面共に青灰色に還元化され、燃焼部との段差を境に徐々に傾斜角度を増し奥壁へと至る。煙道付近において、ほぼ現状をとどめていると思われる天井部を上層断面において確認した。しかし、部分的な残存で側壁にまで延びていないため、調査段階で天井を残すことはできなかった。この他の部分の天井は、土層断面において崩落した状態を確認した。

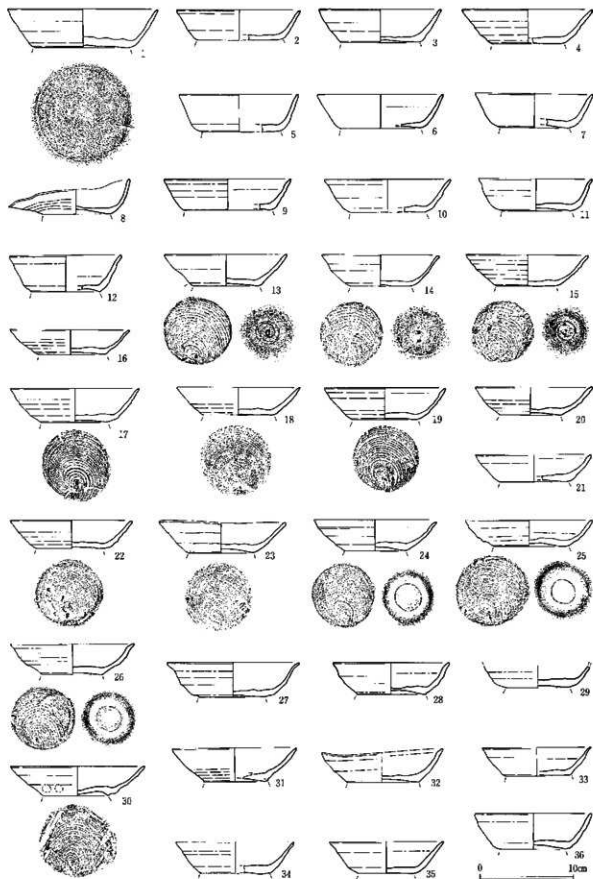
奥壁・煙道部 奥壁の平面形はやや丸味を有し、確認面の地表からは、深さ1.0mを計り、多少内傾気味に立ち上がる。

遺物出土状態

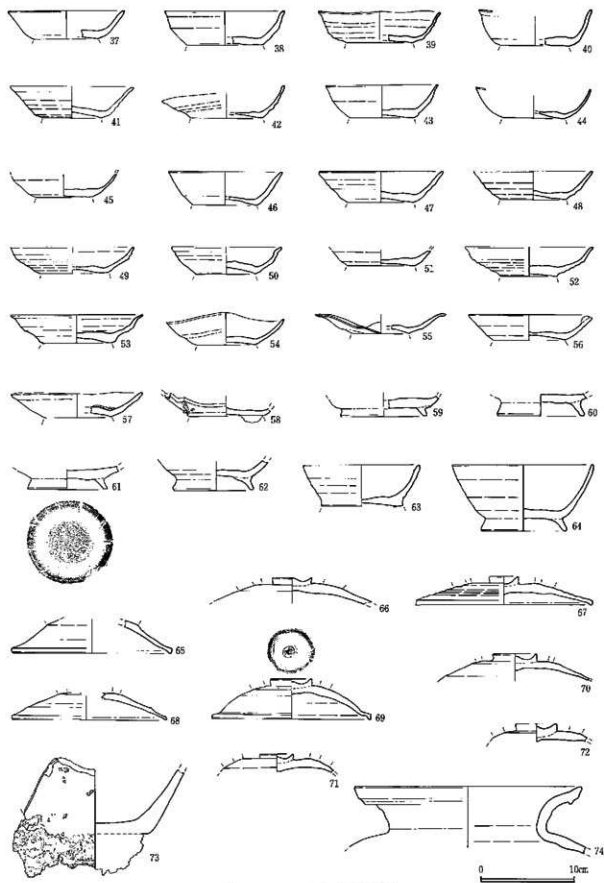
K-3号窯からは、坏、高台付碗、蓋等が出土している。図示した遺物は全て燃焼部、焼成部からの出土である。今回調査した中で遺物出土数は最も多く、自然灰軸や窯壁の融着により、焼成時の重ね焼き状態を知ることができる資料を多く得ることができた。図示した以外に、坏・碗系5,344点、蓋461点、壺・皿系5点、壺・甕系22点の遺物が窯体内から出土している。



第12図 K-2号室



第13图 K-2号墓出土文物(1)



第14图 K-2号窟出土遗物(2)

K-2号窯

No	器種	法	量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考	
1	須恵器 坏	口底 高	15.7	内外面共回転横ナデ 底部回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り	胎色 焼	砂粒多量含むA 灰黄色 やや不良	完形
			10.2				
			4.1				
2	須恵器 坏	口底 高	13.0	内外面共回転横ナデ 底部回転ヘラ切り	胎色 焼	砂粒多量含むA 灰黄色 やや不良	1/5
			8.6				
			3.2				
3	須恵器 坏	口底 高	12.7	内外面共回転横ナデ 底部回転ヘラ切り	胎色 焼	砂粒少量含むA 良	1/4
			8.3				
			3.5				
4	須恵器 坏	口底 高	13.7	内外面共回転横ナデ 底部ヘラ削り	胎色 焼	砂粒少量含むA 灰黄色 やや不良	1/4
			7.5				
			3.6				
5	須恵器 坏	口底 高	12.5	内外面共回転横ナデ	胎色 焼	砂粒多量含むA 灰白色 不良	1/6
			7.6				
			4.0				
6	須恵器 坏	口底 高	13.3	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 焼	砂粒含む 黄灰色 良	1/6
			8.3				
			3.6				
7	須恵器 坏	口底 高	12.4	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 焼	砂粒少量含む 灰色 良	1/5
			7.3				
			3.6				
8	須恵器 坏	口底 高	13.2	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り 底部圧痕	胎色 焼	砂粒少量含むA 灰色 良	1/2
			7.2				
			0.8~3.7				
9	須恵器 坏	口底 高	13.4	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 焼	砂粒少量含むA 灰黄色 やや不良	破片
			8.9				
			3.2				
10	須恵器 坏	口底 高	13.4	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り 底部圧痕	胎色 焼	砂粒少量含むA 灰色 良	1/6
			8.0				
			3.5				
11	須恵器 坏	口底 高	12.0	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 焼	砂粒少量含むA 灰色 良	1/3
			7.2				
			3.4				
12	須恵器 坏	口底 高	12.0	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 焼	細砂粒少量含 灰黄色 やや不良	1/5
			7.5				
			3.8				
13	須恵器 坏	口底 高	13.0	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り後外周ヘラ削り 内面溝巻き	胎色 焼	細砂粒含む 灰白色 良	1/2
			7.0				
			3.0				
14	須恵器 坏	口底 高	12.2	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り 底部止痕 内面溝巻き	胎色 焼	砂粒少量含むC 灰色 良	2/3
			6.5				
			3.3				
15	須恵器 坏	口底 高	12.8	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り 底部圧痕 内面溝巻き	胎色 焼	砂粒含む 灰色 良	2/3
			6.3				
			3.3				
16	須恵器 坏	口底 高	12.5		胎色 焼		1/4
			6.9				
			2.6				
17	須恵器 坏	口底 高	13.6	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り 内面溝巻き 底部止痕	胎色 焼	砂粒含む 灰白色 良	2/3
			7.2				
			3.6				
18	須恵器 坏	口底 高	12.9	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り 内面溝巻き	胎色 焼	砂粒含むA 灰黄色 良	1/2
			7.3				
			3.1				

第9表 K-2号窯遺物観察表(1)

K-2号窯

No	型 種	法 量	器形・技法等の特徴	胎上・色調・焼成	残存状態・備考
19	須恵器 坏	口径 12.8	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り 高部圧痕	胎色 紺砂粒含む 灰白色 焼 良	2/3
		口径 7.0			
		口径 3.4			
20	須恵器 坏	口径 12.4	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り 内面渦巻き	胎色 砂粒少量含むA 灰色 焼 良	3/5
		口径 6.5			
		口径 2.9			
21	須恵器 坏	口径 12.4	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒含む 灰色 焼 良	1/3
		口径 7.5			
22	須恵器 坏	口径 12.9	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 紺砂粒含む 灰白色 焼 良	4/5
		口径 7.0			
23	須恵器 坏	口径 13.5	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り 内面渦巻き	胎色 砂粒少量含む 灰白色 焼 良	2/3
		口径 7.0			
		口径 2.9~3.5			
24	須恵器 坏	口径 12.9	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り 内面渦巻き	胎色 紺砂粒含むA 灰白色 焼 良	2/3
		口径 6.6			
		口径 3.3			
25	須恵器 坏	口径 13.3	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り 内面渦巻き	胎色 砂粒少量含む 灰白色 焼 良	1/2
		口径 7.4			
		口径 2.8			
26	須恵器 坏	口径 12.9	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り 内面渦巻き	胎色 砂粒少量含むA 灰白色 焼 良	1/2
		口径 6.5			
		口径 3.2			
27	須恵器 坏	口径 13.8	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り 内面渦巻き	胎色 砂粒少量含むA 灰色 焼 良	1/2
		口径 7.2			
		口径 3.6			
28	須恵器 坏	口径 12.2	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り 内面渦巻き	胎色 砂粒含む 灰黄色 焼 良	1/3
		口径 7.4			
		口径 3.3			
29	須恵器 坏	口径 11.2	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒少量含むA 灰白色 焼 やや不良	2/3
		口径 7.0			
		口径 2.2			
30	須恵器 坏	口径 14.4	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒含む 灰色 焼 不良	1/3
		口径 7.0			
31	須恵器 坏	口径 13.2	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒含むA 灰白色 焼 良	1/5
		口径 6.8			
		口径 3.6			
32	須恵器 坏	口径 14.0	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒含む 暗灰色 焼 良	2/5
		口径 7.6			
		口径 3.0~3.5			
33	須恵器 坏	口径 11.6	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒含むA 暗灰色 焼 良	1/5
		口径 6.6			
		口径 3.0			
34	須恵器 坏	口径 12.6	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 紺砂粒含む 若灰色 焼 良	1/3
		口径 7.2			
		口径 3.3			
35	須恵器 坏	口径 12.0	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り 底部圧痕	胎色 砂粒少量含むA 灰色 焼 良	1/4
		口径 6.2			
		口径 3.3			
36	須恵器 坏	口径 12.3	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒含むA 灰色 焼 良	1/4 内面重ね焼き痕
		口径 7.0			
		口径 3.9			

第10表 K 2号窯遺物観察表(2)

K-2号窯

No.	器種	法	量	器形・技法等の特徴	胎・色調・焼成	残存状態・備考
37	須恵器 環	□底高	12.4	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒多量含むA 灰黄色 やや不良	1/4
			6.5			
38	須恵器 環	□底高	12.6	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒少量含むA 灰色 良	1/4
			8.0			
39	須恵器 環	□底高	12.8	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒多量含む にぶい褐色 不良	1/3
			7.2			
40	須恵器 環	□底高	7.2	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒少量含むA 灰色 やや良	1/5
			3.8			
41	須恵器 環	□底高	12.8	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 細砂粒含む 灰色 良	2/5
			6.3			
42	須恵器 環	□底高	12.0	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒少量含む 灰色 良	1/4
			7.6			
43	須恵器 環	□底高	12.0	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒含むC 灰色 良	1/2 内外面自然灰釉付着 重ね焼き痕
			6.8			
44	須恵器 環	□底高	12.2	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒含む 灰色 良	1/4 内面自然灰釉付着
			6.6			
45	須恵器 環	□底高	6.0	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒含むA 灰色 良	1/3 内外面重ね焼き痕
			6.0			
46	須恵器 環	□底高	6.9	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒含むB 暗灰色 やや不良	1/5 内面自然灰釉付着
			3.5			
47	須恵器 環	□底高	13.0	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 細砂粒含む 灰色 良	1/2
			7.0			
48	須恵器 環	□底高	12.6	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒含むB 灰色 良	1/4 内外面自然灰釉少量付着
			7.0			
49	須恵器 環	□底高	13.0	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒含む 暗灰色 良	1/5
			7.0			
50	須恵器 環	□底高	11.7	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒少量含むB 灰色 良	1/2 外面自然灰釉付着
			6.5			
51	須恵器 環	□底高	7.3	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒含むA 暗灰色 良	1/3 外面重ね焼き痕
			7.3			
52	須恵器 環	□底高	13.6	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒含む 暗灰色 良	1/3 内外面砂粒付着 窯壁融着
			6.0			
53	須恵器 環	□底高	14.0	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒含む 灰色 良	3/7
			7.4			
54	須恵器 環	□底高	12.8	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒含むB 灰色 不良	2/3 内面砂粒付着
			6.7			
			2.7~3.5			

第11表 K-2号窯遺物観察表(3)

K-2号窯

No.	器 種	法 量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
55	須恵器 坏	口 14.0	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 砂粒含むA	1/5 内外面自然灰釉付着 重ね焼き痕
		口径 6.0		色 灰色	
56	須恵器 坏	口 12.8	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 砂粒少量含むB	3/5 内外面重ね焼き痕
		口径 7.7		色 暗灰色	
57	須恵器 坏	口 14.0	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 砂粒含むA	1/6 内外面一部砂粒付着 重ね焼き痕
		口径 2.5		色 灰色	
58	須恵器 坏	口径 7.8	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒含む	底部劣形 外面自然灰釉付着 窯壁附着
		口径 7.0		色 灰色	
59	須恵器 高台付碗	口径 9.0	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り後付高台	胎 砂粒含むB	高台と底部1/2 底部砂粒付着
		口径 2.3		色 灰色	
60	須恵器 高台付碗	口径 9.3	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り後付高台	胎 砂粒少量含む	底部のみ
		口径 2.3		色 灰色	
61	須恵器 高台付碗	口径 8.4	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り後付高台	胎 砂粒少量含むA	底部のみ
		口径 2.6		色 灰白色	
62	須恵器 高台付碗	口径 8.4	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り後付高台	胎 砂粒含む	高台と底部1/3
		口径 3.1		色 におい褐色	
63	須恵器 坏	口径 12.3	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 砂粒少量含む	1/4 内外面重ね焼き痕
		口径 4.4		色 灰色	
64	須恵器 高台付碗	口径 15.0	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り後付高台	胎 砂粒少量含むA	1/4 外面砂粒付着重ね焼き 痕
		口径 9.0		色 灰色	
65	須恵器 蓋	口径 17.0	内外面共回転横ナデ 天井部回転ヘラ削り	胎 砂粒含むA	1/5
		口径 3.5		色 灰白色	
66	須恵器 蓋	口径 4.0	内外面共回転横ナデ 中央突出リング状つまみ貼付	胎 砂粒含む	1/4 内外面自然灰釉付着 外面重ね焼き痕
		口径 2.0		色 灰色	
67	須恵器 蓋	口径 18.8	内外面共回転横ナデ 天井部回転糸切り	胎 砂粒少量含む	1/5
		口径 3.2		色 灰色	
68	須恵器 蓋	口径 16.5	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒少量含む	1/3 外面砂粒付着
		口径 2.5		色 灰色	
69	須恵器 蓋	口径 16.7	内外面共回転横ナデ 天井部ヘラ削り	胎 砂粒少量含む	1/4
		口径 4.5		色 灰色	
70	須恵器 蓋	口径 16.0	内外面共回転横ナデ 中央突出リング状つまみ貼付 ●	胎 砂粒含む	1/6
		口径 4.2		色 褐色	
71	須恵器 蓋	口径 3.5	内外面共回転横ナデ 中央突出リング状つまみ貼付 ●	胎 細砂粒含む	つまみ部～肩部の一部
		口径 2.0		色 暗灰色	
72	須恵器 蓋	口径 4.2	内外面共回転横ナデ 天井部糸切り後回転ヘラ削り	胎 砂粒含む	1/2
		口径 2.0		色 におい褐色	

第12表 K-2号窯遺物観察表(4)

K-2号窯

No	器種	法	量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
73	須恵器 甕	口底高	— 11.5 6.7	内外面共叩き後ヘラナデ	胎 砂粒多量含むC 色 灰褐色 焼	1/2 外面自然灰釉付着 外面底部窯壁融着
74	須恵器 甕	口底高	24.4 —	内外面共円転横ナデ	胎 細砂粒少量含む 色 暗灰色 焼 良	口縁部～胴上部1/4

第13表 K-2号窯遺物観察表(5)

K-4号窯(第6・8・9・10・11図)

規模は、長軸3.0m、最大幅1.05mを計り、方位は、N-4°-Wである。本窯は前記したようにK-1号窯→K-4号窯という新旧関係にあり、前庭部分と燃焼部分の1部をK-1号窯により切られているものと考えられる。天井は、煙道の西側部分にかろうじて一部残存しているだけで崩落してしまっているが、土層断面において崩落した天井部分を確認することができる。遺物は坏、高台付椀、皿、蓋等が焼き台と共に出土した。

窯体の構造

燃焼部 燃焼部と焼成部について、明確な境を示すことは難しいが、緩い傾斜の変換点をもって境界とした。燃焼部は一部K-1号窯によって切られてしまっているが、残存部の規模は、長軸0.4m、最大幅1.05mを計る。床面は青灰色に還元化され、灰層も堆積している。壁面も青灰色に還元化され、内壁面に礫がおかれる特徴を持つ。平面形は焼成部、奥壁にかけて緩やかに開く形態を呈する。

焼成部 焼成部の規模は、長軸2.5m、最大幅1.0mを計る。燃焼部からの緩やかな傾斜変換点を経て、徐々に角度を増しながら奥壁へと至る。床面は青灰色に還元化されている部分と、灰褐色や黒色の灰層部分がみられる。壁面は、青灰色に還元化されている部分と、赤褐色に酸化されている部分がみられる。煙道付近になると、崩落した天井部分を土層断面において確認することができた。

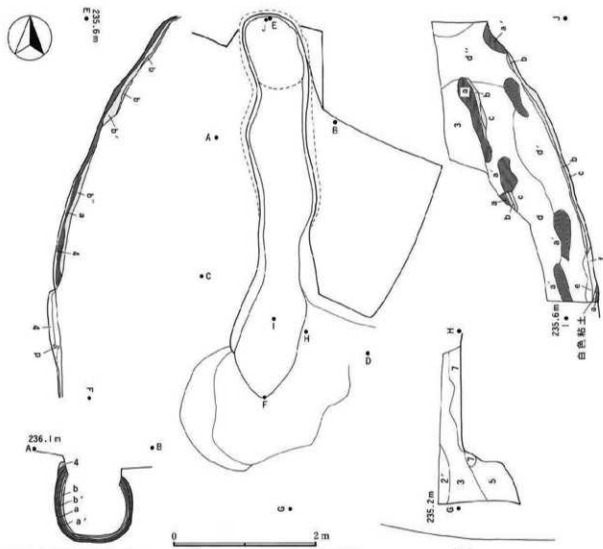
奥壁・煙道部 奥壁の平面形は、丸味を持っている。煙道部は階割にかろうじて1部分天井が残っており、直径約0.4mの煙道が存在していたことが推測される。奥壁は内傾しながら立ち上がり、地上から1mを計る。

遺物出土状態

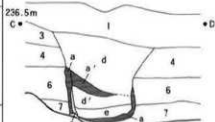
K-4号窯からは、坏、高台付椀、皿、蓋等が出土している。図示した遺物は全て燃焼部、焼成部からの出土である。図示した以外に、坏・椀系361点、蓋81点、盤・皿系1点、壺・甕系11点の遺物が窯体内から出土している。

K-5号窯(第21・22・23・24・25図)

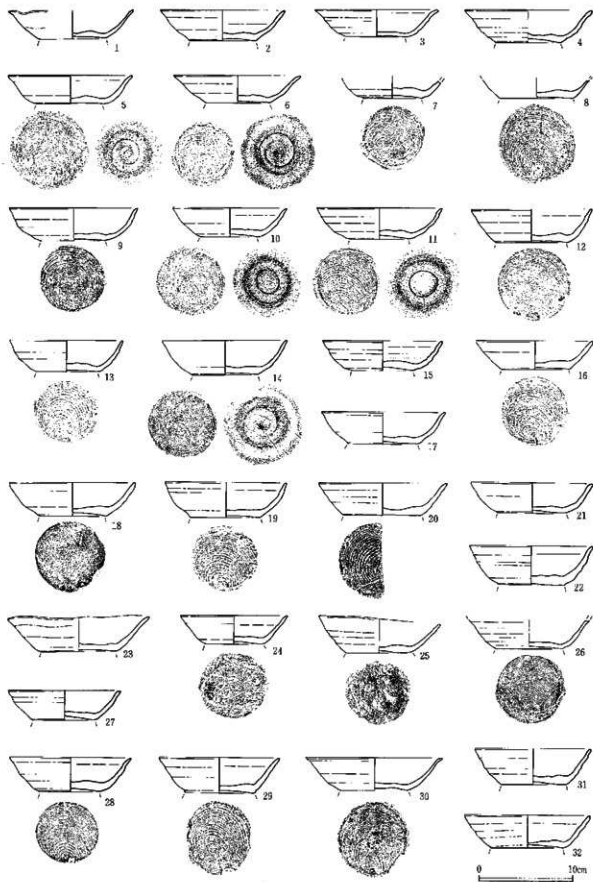
規模は、長軸 3.95m、最大幅1.15mを計り、方位は、N-6.5°-Eである。本窯は、前庭部付近まで依存しているが灰原は不明である。天井は崩落してしまっている。ほとんどの部分が赤褐色に酸化され



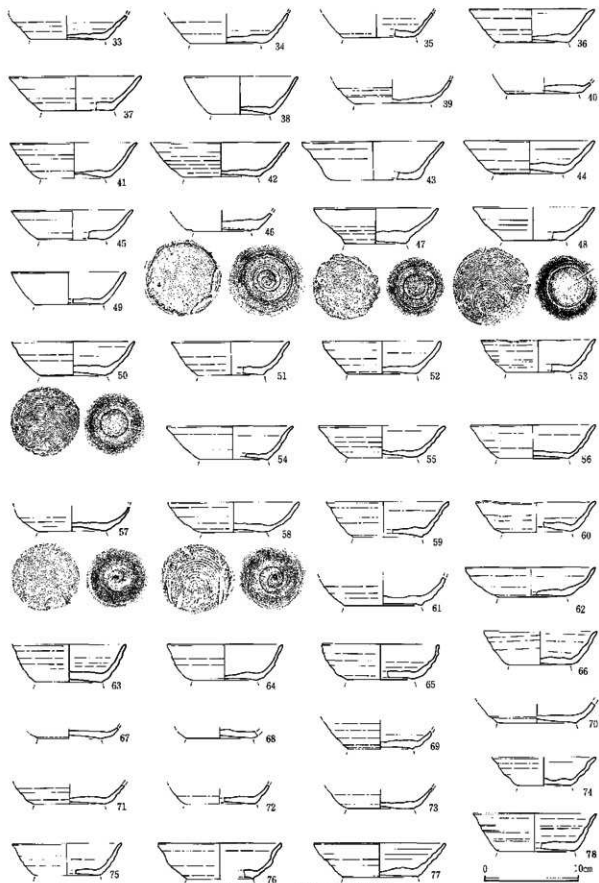
層 号	層 名	色 調	し じ り	粘 性	遺 入 物				備 考
					As-B	WP	炭化物	少 礎	
1	黒褐色土層		×	×	○				As-B純層 遺物多量出土 (K-4 号室の前庭及び惣堀部)
2	黒色土層		△	○			○		
3	黄褐色粘土層		○	○				△	
3'	黄褐色粘質土層		○	○				○	
4	黄褐色粘質土層	3 < 4	○	○		△			
6	黄褐色粘質土層	4 < 6	○	○		△			
7	黄褐色粘質土層	6 < 7	○	○		○			
a	赤褐色土層		○	×					酸化層 酸化層 還元化層 窒体内側近く に融着した細砂粘層 還元化層 窒体内側近く に融着した細砂粘層 窒体崩落層 窒体崩落層 窒体崩落層 反層
a'	赤褐色土層		○	×					
b	青褐色土層		×	×					
c	青灰褐色土層		×	×					
d	黄褐色粘質土層		○	○				○	
d'	黄褐色粘質土層		○	○				△	
d''	黄褐色粘質土層		×	×				○	
e	黄褐色粘質土層		○	×			○		
f	黄褐色粘質土層	f > d	×	×				△	



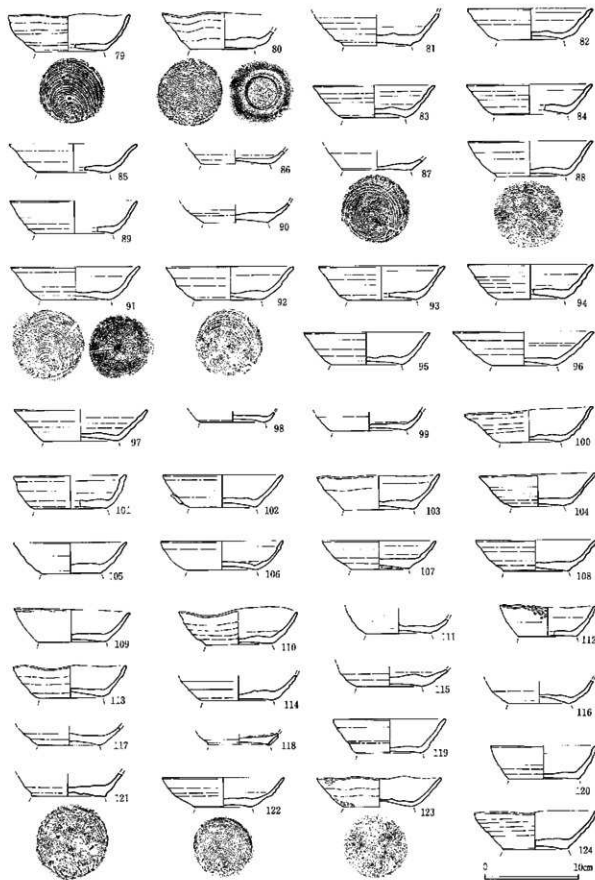
第15図 K-3号室



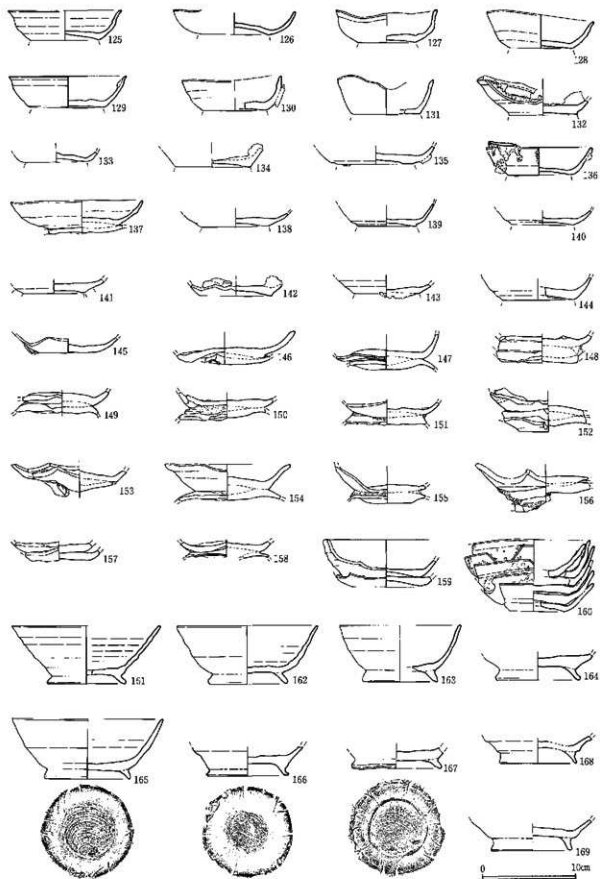
第16图 K-3号墓出土文物(1)



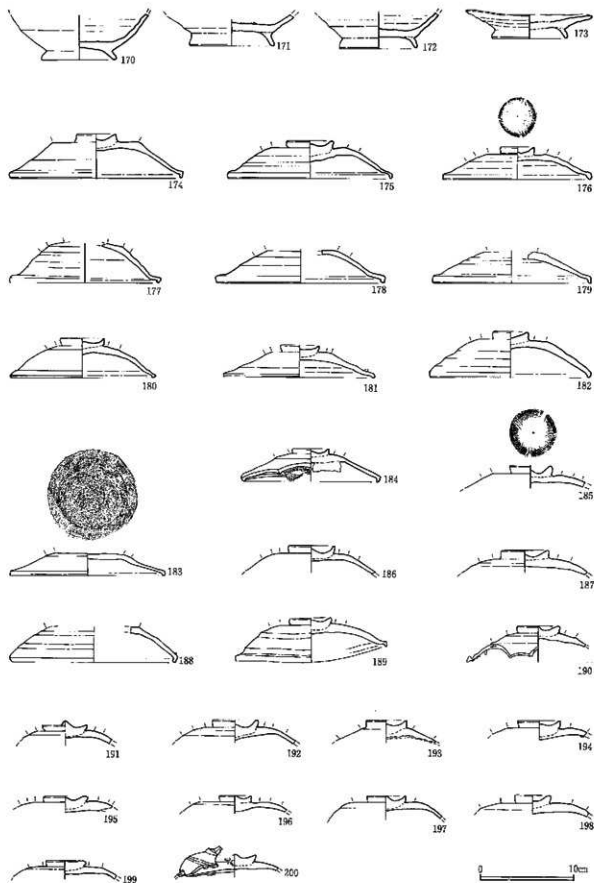
第17图 K-3号窑出土遗物(2)



第18图 K-3号窑出土遗物(3)



第19圖 K-3号出土遺物(4)



第20图 K-3号窑出土遗物(5)

K-3号窯

No	器種	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・施成	残存状態・備考
1	須恵器 坏	口径 13.2	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り 内面渦巻き	胎色 砂粒少量含むA 灰色 焼 やや不良	1/3
		口径高 7.2			
		口径高 3.0			
2	須恵器 坏	口径 13.1	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り 内面渦巻き	胎色 砂粒少量含む 灰色 焼 良	1/3
		口径高 6.9			
		口径高 3.2			
3	須恵器 坏	口径 12.9	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り 内面渦巻き	胎色 砂粒を含む 黄灰色 焼 良	3/5
		口径高 6.4			
		口径高 3.0			
4	須恵器 坏	口径 13.2	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒少量含む 灰色 焼 良	1/3
		口径高 6.9			
		口径高 3.4			
5	須恵器 坏	口径 13.1	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り 内面渦巻き	胎色 砂粒少量含むA 灰色 焼 良	3/5
		口径高 7.0			
		口径高 3.0			
6	須恵器 坏	口径 13.5	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り 内面渦巻き	胎色 砂粒含むA 暗灰色 焼 良	1/2
		口径高 6.6			
		口径高 2.9			
7	須恵器 坏	口径 —	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒少量含む 灰色 焼 良	底部～体底部
		口径高 6.3			
		口径高 1.9			
8	須恵器 坏	口径 —	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り 内面渦巻き	胎色 砂粒含むB 暗灰色 焼 良	1/2
		口径高 7.8			
		口径高 1.8			
9	須恵器 坏	口径 13.4	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り 内面渦巻き	胎色 砂粒含む 灰色 焼 良	1/2
		口径高 6.7			
		口径高 3.5			
10	須恵器 坏	口径 12.0	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り 内面渦巻き	胎色 砂粒少量含む 暗灰色 焼 良	3/5
		口径高 6.0			
		口径高 3.1			
11	須恵器 坏	口径 13.1	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り 内面渦巻き	胎色 砂粒含むA 灰色 焼 良	1/2
		口径高 7.0			
		口径高 3.2			
12	須恵器 坏	口径 12.7	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒含む 暗灰色 焼 良	4/5 外面自然灰釉付着
		口径高 7.5			
		口径高 3.5			
13	須恵器 坏	口径 12.0	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒含む 灰色 焼 良	1/2 外面黄ね焼き痕
		口径高 6.5			
		口径高 3.3			
14	須恵器 坏	口径 13.2	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り 内面渦巻き	胎色 砂粒少量含む 灰色 焼 良	2/3
		口径高 7.0			
		口径高 3.7			
15	須恵器 坏	口径 12.6	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒含む 灰色 焼 良	2/5
		口径高 6.6			
		口径高 3.2			
16	須恵器 坏	口径 13.0	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒少量含む 灰色 焼 良	4/5
		口径高 7.1			
		口径高 3.0			
17	須恵器 坏	口径 13.0	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り 内面渦巻き	胎色 砂粒少量含む 黄灰色 焼 良	1/2
		口径高 7.5			
		口径高 3.3			
18	須恵器 坏	口径 13.2	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒少量含むA 灰色 焼 良	3/5
		口径高 7.0			
		口径高 3.5			

第14表 K 3号窯遺物観察表(1)

K-3号窯

No	器種	法	量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・施成	残存状態・備考
19	須恵器 坏	口底高	12.9	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒少量含む 灰白色 やや不良	1/3
			7.5			
			3.7			
20	須恵器 坏	口底高	13.5	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒少量含むA 黄灰色 良	1/3
			8.0			
			3.4			
21	須恵器 坏	口底高	12.8	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒少量含む 灰黄色 良	1/2
			7.5			
			3.2			
22	須恵器 坏	口底高	12.9	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒少量含む 灰色 良	1/3
			7.0			
			4.1			
23	須恵器 坏	口底高	15.0	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒含む 黄灰色 不良	1/2
			8.0			
			3.6			
24	須恵器 坏	口底高	11.4	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り 底面止痕	胎色 砂粒少量含む 灰色 良	1/2
			6.2			
			3.0			
25	須恵器 坏	口底高	12.8	内外面共同転横ナデ 底部ヘラ切り後手持ちヘラ直り	胎色 砂粒含むA 灰白色 やや不良	3/5
			7.1			
			3.1~4.2			
26	須恵器 坏	口底高	—	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒含む 灰色 良	1/2
			7.1			
			3.1			
27	須恵器 坏	口底高	11.7	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒含む 灰黄色 良	1/4
			6.4			
			3.1			
28	須恵器 坏	口底高	12.8	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒含む 灰黄色 良	1/3
			6.4			
			3.6			
29	須恵器 坏	口底高	13.3	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒少量含む 灰色 良	1/2 内外面重ね焼き痕
			7.5			
			3.7			
30	須恵器 坏	口底高	14.5	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒含むA 灰白色 やや不良	1/3
			7.3			
			3.4			
31	須恵器 坏	口底高	12.2	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒少量含むA 灰黄色 良	1/4
			7.0			
			3.8			
32	須恵器 坏	口底高	13.3	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り 内面渦巻き	胎色 砂粒少量含む 灰白色 良	2/5
			7.5			
			3.5			
33	須恵器 坏	口底高	—	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り 内面渦巻き	胎色 砂粒少量含む 灰白色 良	1/3
			8.0			
			2.5			
34	須恵器 坏	口底高	7.8	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り 底面研磨	胎色 砂粒少量含む 灰白色 良	1/3
			7.8			
			3.2			
35	須恵器 坏	口底高	—	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒少量含む 灰白色 良	1/5
			7.2			
			2.5			
36	須恵器 坏	口底高	13.2	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒少量含む 灰色 良	2/3
			7.6			
			3.6			

第15表 K-3号窯遺物観察表(2)

K-3号窯

No.	器種	法	量	器形・技法等の特徴	胎土・色張・焼成	残存状態・備考	
37	須恵器 坏	□ 底高	13.8	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 焼	砂粒少量含むA 灰黄色 やや不良	1/4
			7.5				
			3.6				
38	須恵器 坏	□ 底高	12.0	内外面共回転横ナデ 底部平痕	胎色 焼	砂粒含む 灰色 良	1/5
			6.0				
			4.0				
39	須恵器 坏	□ 底高	12.0	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 焼	砂粒少量含む 灰白色 良	1/3
			8.0				
			2.4				
40	須恵器 坏	□ 底高	—	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 焼	細砂粒含む 灰白色 良	底部1/2
			7.6				
			1.6				
41	須恵器 坏	□ 底高	13.4	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 焼	砂粒少量含む 灰白色 良	1/2
			6.7				
			3.7				
42	須恵器 坏	□ 底高	14.7	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 焼	細砂粒含む 灰黄色 やや不良	1/2
			7.8				
			3.6				
43	須恵器 坏	□ 底高	15.0	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 焼	砂粒少量含むA 灰色 良	1/6
			9.0				
			4.0				
44	須恵器 坏	□ 底高	14.0	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 焼	砂粒少量含む 灰色 良	1/2
			7.2				
			3.5				
45	須恵器 坏	□ 底高	12.8	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 焼	細砂粒含む 黄灰色 やや不良	1/3
			6.8				
			3.2				
46	須恵器 坏	□ 底高	—	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 焼	砂粒含む 灰黄色 不良	3/5
			7.6				
			2.0				
47	須恵器 坏	□ 底高	13.2	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 焼	砂粒少量含むA 灰白色 良	1/2
			6.6				
			3.7				
48	須恵器 坏	□ 底高	13.0	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 焼	細砂粒含む 灰色 良	1/5
			7.0				
			3.5				
49	須恵器 坏	□ 底高	12.0	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 焼	砂粒含む 灰白色 良	1/4
			7.1				
			3.4				
50	須恵器 坏	□ 底高	13.0	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 焼	砂粒多量含むB 暗灰色 良	1/2 外面重ね焼き痕
			7.2				
			3.6				
51	須恵器 坏	□ 底高	12.5	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 焼	砂粒少量含む 灰白色 良	1/6
			7.0				
			3.5				
52	須恵器 坏	□ 底高	12.6	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 焼	砂粒少量含むB 暗灰色 良	2/5
			7.3				
			3.5				
53	須恵器 坏	□ 底高	12.2	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 焼	粗砂粒含む 灰白色 良	1/3 外面重ね焼き痕
			6.8				
			3.4				
54	須恵器 坏	□ 底高	14.0	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 焼	砂粒含む 灰白色 良	1/3
			7.4				
			3.0~3.5				

第16表 K-3号窯遺物観察表(3)

K-3号窯

No	器種	法	量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考	
55	須惠器 坏	口底 高	13.4	内外面共同転横ナデ 底部巨転糸切り 内面渦巻き	胎色 焼	砂粒含む 灰白色 やや不良	1/3
			7.2				
			3.4				
56	須惠器 坏	口底 高	13.2	内外面共同転横ナデ 底部巨転糸切り 内面渦巻き	胎色 焼	砂粒含むB 灰色 良	3/5
			7.6				
			3.4				
57	須惠器 坏	口底 高	—	内外面共同転横ナデ 底部巨転糸切り 内面渦巻き	胎色 焼	砂粒を含むA 灰色 良	1/2
			7.2				
			2.5				
58	須惠器 坏	口底 高	14.0	内外面共同転横ナデ 底部巨転糸切り 内面渦巻き 底部正梳	胎色 焼	砂粒含む 灰色 良	1/2
			6.8				
			3.2				
59	須惠器 坏	口底 高	13.0	内外面共同転横ナデ 底部巨転糸切り	胎色 焼	砂粒少量含むA 灰色 良	1/4
			7.5				
			3.7				
60	須惠器 坏	口底 高	12.5	内外面共同転横ナデ 底部巨転糸切り	胎色 焼	砂粒少量含む 灰色 良	1/3 内外面重ね焼き痕
			7.5				
			3.2				
61	須惠器 坏	口底 高	—	内外面共同転横ナデ 底部巨転糸切り 内面渦巻き	胎色 焼	砂粒少量含む 灰白色 良	1/4
			8.0				
			3.2				
62	須惠器 坏	口底 高	13.8	内外面共同転横ナデ 底部巨転糸切り	胎色 焼	砂粒少量含む 灰色 良	1/5
			7.3				
			3.1				
63	須惠器 坏	口底 高	12.1	内外面共同転横ナデ 底部巨転糸切り	胎色 焼	砂粒含む 灰色 良	1/3 内外面自然灰釉付着
			7.0				
			4.0				
64	須惠器 坏	口底 高	12.2	内外面共同転横ナデ 底部巨転糸切り 内面渦巻き	胎色 焼	砂粒含む 灰白色 良	1/4
			6.8				
			3.7				
65	須惠器 坏	口底 高	12.2	内外面共同転横ナデ 底部巨転糸切り 内面渦巻き	胎色 焼	砂粒少量含む 灰色 良	1/3
			7.0				
			3.7				
66	須惠器 坏	口底 高	12.8	内外面共同転横ナデ 底部巨転糸切り	胎色 焼	砂粒含む 灰色 良	1/4
			7.2				
			3.9				
67	須惠器 坏	口底 高	—	内外面共同転横ナデ 底部巨転糸切り	胎色 焼	砂粒少量含むA 灰色 良	底部2/3
			6.8				
			1.0				
68	須惠器 坏	口底 高	—	内外面共同転横ナデ 底部巨転糸切り 内面渦巻き	胎色 焼	砂粒少量含む 灰色 良	底部4/5
			7.0				
			0.3				
69	須惠器 坏	口底 高	—	内外面共同転横ナデ 底部巨転糸切り	胎色 焼	細砂粒含む 灰色 良	1/3
			7.0				
			3.0				
70	須惠器 坏	口底 高	—	内外面共同転横ナデ 底部巨転糸切り 内面渦巻き	胎色 焼	砂粒含む 灰色 良	1/4
			8.4				
			2.0				
71	須惠器 坏	口底 高	—	内外面共同転横ナデ 底部巨転糸切り	胎色 焼	細砂粒少量含む 灰色 良	1/3
			7.0				
			2.0				
72	須惠器 坏	口底 高	—	内外面共同転横ナデ 底部巨転糸切り 底部正梳	胎色 焼	砂粒含む 灰色 良	体底部1/3
			7.5				
			1.9				

第17表 K-3号窯遺物観察表(4)

K-3号窯

No	器種	法	量	器形・技法等の特徴	胎土・色紙・焼成	残存状態・備考
73	須恵壺 不	口底 高	—	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り 内面渦巻き	胎色 砂粒少量含む 灰色 焼良	底部1/2
			7.0			
			2.0			
74	須恵壺 坏	口底 高	11.0	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒少量含むA 灰白色 焼良	1/5
			8.0			
			3.0			
75	須恵壺 坏	口底 高	11.6	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒含むA 灰白色 焼良	1/5
			6.6			
			3.4			
76	須恵壺 坏	口底 高	13.0	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒少量含む 灰色 焼良	1/5
			7.0			
			3.8			
77	須恵壺 坏	口底 高	13.8	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り 内面渦巻き	胎色 砂粒少量含む 灰白色 焼やや不良	1/2
			8.0			
			3.6			
78	須恵壺 坏	口底 高	13.0	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒含む 灰白色 焼やや不良	1/4 内面砂粒付着
			8.2			
			4.0			
79	須恵壺 坏	口底 高	11.9	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒少量含む 灰色 焼良	1/2
			6.4			
			3.5			
80	須恵壺 坏	口底 高	—	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り 内面渦巻き	胎色 砂粒含む 灰黄色 焼良	3/5
			6.7			
			3.4~4.1			
81	須恵壺 坏	口底 高	12.8	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り 内面渦巻き	胎色 砂粒含む 灰色 焼良	1/4 内外面自然炭軸付着
			7.2			
			3.4			
82	須恵壺 坏	口底 高	13.3	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒少量含む 灰色 焼良	1/3
			7.0			
			3.2			
83	須恵壺 坏	口底 高	12.7	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒少量含む 黄灰色 焼やや不良	1/3
			6.4			
			3.4			
84	須恵壺 坏	口底 高	13.3	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒少量含む 灰色 焼やや不良	1/4
			7.6			
			3.1			
85	須恵壺 坏	口底 高	13.5	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒含む 黄灰色 不良	1/5
			7.6			
			3.0			
86	須恵壺 坏	口底 高	—	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒少量含む 灰白色 焼やや不良	底部1/4
			7.4			
			1.2			
87	須恵壺 坏	口底 高	—	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒少量含む 灰色 焼やや不良	1/2
			7.0			
			2.5			
88	須恵壺 坏	口底 高	13.3	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒含む にぶい橙黄色 不良	1/3
			7.4			
			3.7			
89	須恵壺 坏	口底 高	13.3	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒含む 灰黄色 焼やや不良	1/7
			8.1			
			3.4			
90	須恵壺 坏	口底 高	—	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒少量含む 灰白色 焼良	底部のみ
			6.8			
			2.0			

第18表 K-3号窯遺物観察表(5)

K-3号窯

No.	器種	法	量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考	
91	須恵器 坏	口底高	13.5	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り 底部汗痕	胎色 焼	砂粒少量含む 灰白色 良	3/5
			7.3				
			3.4				
92	須恵器 坏	口底高	13.5	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 焼	砂粒含む にぶい橙色 良	2/3
			7.5				
			3.5				
93	須恵器 坏	口底高	13.3	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り 底部汗痕	胎色 焼	砂粒少量含む 灰黄色 良	1/4
			7.4				
			3.6				
94	須恵器 坏	口底高	13.3	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 焼	砂粒含む にぶい黄橙色 不良	1/3
			7.0				
			3.7				
95	須恵器 坏	口底高	13.4	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り 内面渦巻き	胎色 焼	細砂粒含む 橙色 不良	2/5 外面底部重ね焼き痕
			7.7				
			3.4				
96	須恵器 坏	口底高	15.0	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 焼	砂粒含む にぶい橙色 やや不良	1/5 内外面重ね焼き痕
			7.0				
			3.5				
97	須恵器 坏	口底高	14.0	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 焼	砂粒含む にぶい橙色 不良	2/3 内外面重ね焼き痕
			8.0				
			3.4				
98	須恵器 坏	口底高	—	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 焼	細砂粒含む 橙色 不良	底部のみ
			6.8				
			1.1				
99	須恵器 坏	口底高	—	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り 底部汗痕	胎色 焼	細砂粒含む 橙色 不良	底部3/4
			7.8				
			1.8				
100	須恵器 坏	口底高	13.6	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り 内面渦巻き	胎色 焼	砂粒少量含むA 灰黄色 良	1/3
			6.4				
			2.9~3.6				
101	須恵器 坏	口底高	12.0	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 焼	砂粒少量含む 褐色 やや不良	1/4
			7.0				
			3.5				
102	須恵器 坏	口底高	12.8	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 焼	砂粒少量含むA 灰色 良	1/4 外面自然灰胎付着 坏破片附着
			7.2				
			3.4				
103	須恵器 坏	口底高	13.0	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り 底部汗痕	胎色 焼	砂粒含むA 灰色 良	1/2
			7.5				
			3.6				
104	須恵器 坏	口底高	12.5	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り 内面渦巻き	胎色 焼	砂粒少量含む 灰色 良	2/3
			5.5				
			3.2~3.5				
105	須恵器 坏	口底高	12.0	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り 内面渦巻き	胎色 焼	砂粒少量含む 暗灰色 良	1/2
			6.5				
			3.3				
106	須恵器 坏	口底高	13.0	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 焼	砂粒含むA 灰色 良	1/2 内外面重ね焼き痕
			7.4				
			3.1				
107	須恵器 坏	口底高	12.0	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 焼	砂粒少量含む 灰色 良	1/2 外面自然灰胎付着 外面底部坏破片附着
			6.2				
			3.0				
108	須恵器 坏	口底高	12.8	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 焼	砂粒少量含む 灰色 良	1/2 外面自然灰胎付着
			6.8				
			3.3				

第19表 K-3号窯遺物観察表(6)

K-3号窯

No.	器種	法	量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
109	須恵器 坏	口底高	12.4	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒含む 灰色 焼良	1/2 内外面自然灰釉付着
			7.0 3.0~3.6			
110	須恵器 坏	口底高	12.6	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り 内面減巻き	胎色 砂粒少量含む 暗灰色 焼良	3/4
			7.0 2.8~3.7			
111	須恵器 坏	口底高	—	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒含む 灰色 焼良	底部のみ 内面自然灰釉付着
			7.0 2.7			
112	須恵器 坏	口底高	10.0	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒含む 灰色 焼良	1/2 内面自然灰釉付着 外面一部砂粒付着
			6.3 3.0~3.7			
113	須恵器 坏	口底高	12.0	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒少量含むA 灰色 焼やや不良	1/2 内面及底部灰釉付着 内外面歪ね焼き痕
			6.6 2.9~3.3			
114	須恵器 坏	口底高	—	内外面共回転横ナデ	胎色 砂粒含むB 色 灰黄褐色 やや不良	1/3
			7.5 2.6			
115	須恵器 坏	口底高	7.0	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒含む 暗灰色 やや不良	2/3 外面自然灰釉付着
			2.4			
116	須恵器 坏	口底高	—	内外面共回転横ナデ	胎色 砂粒含むB 暗灰色 焼良	底部のみ 外面砂粒自然灰釉付着
			6.6 2.4			
117	須恵器 坏	口底高	—	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 細砂粒含むA 灰色 焼良	底部のみ
			6.5 1.7			
118	須恵器 坏	口底高	—	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒含む 灰黄色 焼良	底部のみ 内面窯壁融着 外面自然灰釉付着 坏破片黏着
			6.4 1.1			
119	須恵器 坏	口底高	11.7	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り 底面汗痕	胎色 砂粒少量含む 灰黄褐色 やや不良	1/2 内外面自然灰釉付着 重ね焼き痕
			6.6 3.6			
120	須恵器 坏	口底高	11.2	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り 内面減巻き	胎色 紅砂粒含む 暗灰色 焼良	2/3
			7.6 3.5			
121	須恵器 坏	口底高	—	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り 底部汗痕	胎色 砂粒少量含むA 暗灰色 焼良	底部~体底部
			7.8 2.5			
122	須恵器 坏	口底高	12.8	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒少量含む 暗灰色 焼良	2/3 内外面自然灰釉付着
			6.0 3.1			
123	須恵器 坏	口底高	13.0	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り 内面減巻き	胎色 砂粒含む 灰色 焼良	3/5 外面自然灰釉付着
			6.8 3.1			
124	須恵器 坏	口底高	12.8	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り 内面減巻き	胎色 砂粒少量含むA 暗灰色 焼良	1/2 外面歪ね焼き痕
			7.0 4.0			
125	須恵器 坏	口底高	12.0	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒含むA 灰色 焼やや不良	2/5 内外面自然灰釉付着 砂粒付着 重ね焼き痕
			7.2 3.2			
126	須恵器 坏	口底高	13.0	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒含むB 灰色 焼良	1/2 内外面自然灰釉付着 重ね焼き痕
			7.4 2.5~2.7			

第20表 K-3号窯遺物観察表(7)

K-3号窯

No.	器種	法	量	器形・技法等の特徴	胎土・色別・焼成	残存状態・備考	
127	須恵器 坏	口 底	17.0	内外面共同転横ナデ 底部巨転糸切り	胎色 焼	砂粒少量含むC 灰色 やや不良	1/2 内外面自然灰胎附着 外面重ね焼き痕
			2.6~3.6				
128	須恵器 坏	口 底	11.3	内外面共同転横ナデ 底部巨転糸切り	胎色 焼	砂粒含むA 灰褐色 不良	3/5
			6.8 3.8				
129	須恵器 坏	口 底	12.4	内外面共同転横ナデ 底部巨転糸切り	胎色 焼	砂粒多量含むA 褐灰色 やや不良	1/2 内面自然灰胎附着 外面底部重ね焼き痕
			7.4 3.0~3.3				
130	須恵器 坏	口 底	—	内外面共同転横ナデ	胎色 焼	砂粒含むB 灰色 良	1/6 外面自然灰胎附着 坏破片融着 内面 重ね焼き痕
			7.0 3.0~3.5				
131	須恵器 坏	口 底	10.2	内外面共同転横ナデ 底部巨転糸切り	胎色 焼	粗砂粒含む 灰色	2/5
			7.0 2.6~4.1				
132	須恵器 坏	口 底	—	内外面共同転横ナデ 坏底部巨転糸切り	胎色 焼	砂粒少量含む 灰色 良	1/4 内面砂粒多量附着 内面蓋破片融着
			7.2 3.8				
133	須恵器 坏	口 底	—	内外面共同転横ナデ 底部巨転糸切り	胎色 焼	砂粒少量含むA 灰色 良	底部のみ 内外面自然灰胎附着
			6.5 1.1				
134	須恵器 坏	口 底	—	内外面共同転横ナデ 底部巨転糸切り	胎色 焼	砂粒含むA 灰色 良	底部1/4 内外面密着
			8.0				
135	須恵器 坏	口 底	11.8	内外面共同転横ナデ 底部巨転糸切り	胎色 焼	砂粒含む 灰色 良	底部1/2 外面坏融着
			8.0 1.8				
136	須恵器 坏	口 底	11.2	内外面共同転横ナデ 底部巨転糸切り	胎色 焼	砂粒少量含むA 灰色 良	1/2 内外面砂粒附着 内面坏破片融着
			7.0 2.9				
137	須恵器 坏	口 底	14.0	内外面共同転横ナデ	胎色 焼	砂粒含む 暗灰色 やや不良	底部と体部の一部 外面一部自然灰胎附着 不底密と底部で融着
			7.5 —				
138	須恵器 坏	口 底	6.8	内外面共同転横ナデ 底部巨転糸切り	胎色 焼	粗砂粒含む 灰色 良	底部のみ 内外面自然 灰胎附着
			2.0				
139	須恵器 坏	口 底	—	内外面共同転横ナデ 底部巨転糸切り	胎色 焼	砂粒含む 灰褐色 良	底部3/5
			6.5 2.3				
140	須恵器 坏	口 底	—	内外面共同転横ナデ 底部巨転糸切り	胎色 焼	砂粒含むA 灰色 良	底部のみ 内外面自然灰胎附着 外面重ね焼き痕
			6.6 1.4				
141	須恵器 坏	口 底	—	内外面共同転横ナデ 底部巨転糸切り	胎色 焼	砂粒少量含むA 灰色 良	底部のみ 内外面重ね焼き痕
			6.2 1.2				
142	須恵器 坏	口 底	—	内外面共同転横ナデ 底部巨転糸切り	胎色 焼	砂粒含むB 灰色 良	底部のみ 外面密着融着 外面底部重ね焼き痕
			7.4 2.1				
143	須恵器 坏	口 底	—	内外面共同転横ナデ	胎色 焼	砂粒含む 灰色 良	底部のみ 外面底部砂粒附着 坏破片融着
			7.0 1.7				
144	須恵器 坏	口 底	11.4	内外面共同転横ナデ 底部巨転糸切り	胎色 焼	砂粒含む 灰色 良	底部1/5 外面底部坏破片融着
			7.5 2.3				

第21表 K・3号窯遺物観察表(8)

K-3号窯

No.	器種	法	量	形状・技法等の特徴	胎上・色調・焼成	残存状態・備考
145	須恵器 環	口底 高	— 6.5 —	内外面共同転轆ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒含むB 灰色 焼良	底部1/3 外面自然灰釉付着 外面底部破片融着
146	須恵器 環	口底 高	— 6.5 3.0	内外面共同転轆ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒少量含む 灰色 焼良	環2個体融着
147	須恵器 環	口底 高	— — —	2個体共内外面共同転轆ナデ	胎色 砂粒少量含むA 灰色 焼良	内外面自然灰釉付着 環底部と底部で融着
148	須恵器 環	口底 高 碗	— 7.5 1.2	内外面共同転轆ナデ	胎色 砂粒含むA 灰色 焼良	内外面自然灰釉付着 砂粒付着 環と高台付 碗底部で融着
149	須恵器 環	口底共 高	— 6.8 —	内外面共同転轆ナデ	胎色 砂粒含む 灰色 焼良	内外面自然灰釉付着 環底部と底部で融着
150	須恵器 環	口底 高	— — —	内外面共同転轆ナデ	胎色 砂粒含むB 灰色 焼良	内外面砂粒付着 環底部と底部で融着
151	須恵器 環	口底共 高	— 7.5 —	内外面共同転轆ナデ 内面渦巻き	胎色 砂粒少量含む 灰色 焼良	砂粒一部付着 環底部と底部で融着
152	須恵器 環	口底 高	— — —	内外面共同転轆ナデ	胎色 砂粒含むB 灰色 焼良	内外面自然灰釉付着 環3個体融着
153	須恵器 環	口底 高	— — —	内外面共同転轆ナデ 内面渦巻き	胎色 砂粒含む 暗灰色 焼良	環底部に環1個体と破 片融着
154	須恵器 環	口底 高上	13.4 — 2.8	内外面共同転轆ナデ 内面渦巻き	胎色 砂粒少量含む 暗灰色 焼良	環底部と底部で融着
155	須恵器 環	口底 高	— — —	内外面共同転轆ナデ	胎色 砂粒含むC 灰色 焼良	環底部と底部で融着
156	須恵器 環	口底 高	7.5 — —	内外面共同転轆ナデ 内面渦巻き	胎色 砂粒含む 暗灰色 焼良	外面自然灰釉付着 窯壁融着 環底部と底部で融着
157	須恵器 環	口底共 高	6.2 — —	内外面共同転轆ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒少量含むA 灰色 焼良	環2個体融着
158	須恵器 環	口底共 高	— 7.3 —	内外面共同転轆ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒少量含むA 灰色 焼良	環底部と底部で融着
159	須恵器 環	口底共 高上	— 7.2 4.0	内外面共同転轆ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒含むA 灰色 焼良	外面自然灰釉付着 環2個体融着
160	須恵器 環	口底 高	— 7.0 —	内外面共同転轆ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒少量含む 暗灰色 焼良	内外面自然灰釉付着 砂粒付着 環6個体融着
161	須恵器 高台付碗	口底 高	15.6 8.2 6.2	内外面共同転轆ナデ 底部回転糸切り後付高台	胎色 砂粒少量含む 灰色 焼良	1/4 外面自然灰釉付着 重ね焼き痕
162	須恵器 高台付碗	口底 高	14.9 8.2 6.2	内外面共同転轆ナデ 底部回転糸切り後付高台	胎色 砂粒少量含む 灰色 焼良	1/3

第22表 K-3号窯遺物観察表(9)

K-3号窯

No	器種	法	量	型形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考	
163	須恵器 高台付碗	口底高	12.8 8.0 6.0	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り後付高台	胎色 砂粒少量含むA 灰色 良	1/4 外面自然灰釉付着	
164	須恵器 高台付碗	口底高	— 8.8 2.6	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り後付高台	胎色 砂粒含むA 灰色 良	底部と高台の1/2 内外面自然灰釉付着 砂粒付着	
165	須恵器 高台付碗	口底高	15.9 9.0 6.4	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り後付高台 内面渦巻き	胎色 砂粒含む 灰色 良	1/3 外面砂粒付着	
166	須恵器 高台付碗	口底高	— 9.0 2.8	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り後付高台 内面渦巻き 高台丘痕	胎色 砂粒含む 灰黄色 良	底部のみ	
167	須恵器 高台付碗	口底高	— 9.3 2.2	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り後付高台 内面渦巻き	胎色 砂粒多量含む 听灰色 良	底部のみ 高台外面自然灰釉付着 砂粒付着	
168	須恵器 高台付碗	口底高	— 8.1 2.9	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り後付高台	胎色 砂粒少量含む 灰色 良	胎色 砂粒少量含む 灰白色 良	胎色 砂粒少量含む 灰白色 良
169	須恵器 高台付碗	口底高	— 8.0~8.6 2.8	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り後付高台 内面渦巻き	胎色 砂粒少量含む 灰色 良	胎色 砂粒少量含む 灰色 良	胎色 砂粒少量含む 灰色 良
170	須恵器 高台付碗	口底高	— 7.9 4.8	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り後付高台	胎色 砂粒含むA 黄灰色 良	胎色 砂粒含むA 黄灰色 良	胎色 砂粒含むA 黄灰色 良
171	須恵器 高台付碗	口底高	— 9.0 3.2	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り後付高台	胎色 砂粒少量含むA 灰色 良	胎色 砂粒少量含むA 灰色 良	胎色 砂粒少量含むA 灰色 良
172	須恵器 高台付碗	口底高	— 8.3 3.8	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り後付高台 内面渦巻き	胎色 砂粒含む 灰色 良	胎色 砂粒含む 灰色 良	胎色 砂粒含む 灰色 良
173	須恵器 高台付皿	口底高	13.6 8.0 1.5~4.0	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り後付高台	胎色 砂粒含むB 灰色 焼 不	胎色 砂粒含むB 灰色 焼 不	胎色 砂粒含むB 灰色 焼 不
174	須恵器 蓋	口ツマミ高	14.0 4.0 4.6	内外面共同転横ナデ 天井部回転へら削り 中央突出リング状つまみ貼付	胎色 砂粒含むC 灰色 焼 不	胎色 砂粒含むC 灰色 焼 不	胎色 砂粒含むC 灰色 焼 不
175	須恵器 蓋	口ツマミ高	17.2 4.6 3.9	内外面共同転横ナデ 天井部回転糸切り 中央突出リング状つまみ貼付 ●	胎色 砂粒少量含む 褐色 焼 不	胎色 砂粒少量含む 褐色 焼 不	胎色 砂粒少量含む 褐色 焼 不
176	須恵器 蓋	口ツマミ高	15.6 3.5 3.5	内外面共同転横ナデ 天井部回転へら削り 中央突出リング状つまみ ●	胎色 砂粒少量含むA 灰色 焼 良	胎色 砂粒少量含むA 灰色 焼 良	胎色 砂粒少量含むA 灰色 焼 良
177	須恵器 蓋	口ツマミ高	16.0 — 4.2	内外面共同転横ナデ 天井部回転へら切り	胎色 細砂粒含むA 灰色 焼 良	胎色 細砂粒含むA 灰色 焼 良	胎色 細砂粒含むA 灰色 焼 良
178	須恵器 蓋	口ツマミ高	18.0 — 3.4	内外面共同転横ナデ 天井部回転へら切り	胎色 砂粒少量含む 褐色 焼 不良	胎色 砂粒少量含む 褐色 焼 不良	胎色 砂粒少量含む 褐色 焼 不良
179	須恵器 蓋	口ツマミ高	16.6 — 3.3	内外面共同転横ナデ	胎色 砂粒少量含む 灰白色 焼 良	胎色 砂粒少量含む 灰白色 焼 良	胎色 砂粒少量含む 灰白色 焼 良
180	須恵器 蓋	口ツマミ高	15.0 4.6 4.2	内外面共同転横ナデ 天井部回転糸切り後付回転へら削り 中央突出リング状つまみ貼付 ●	胎色 砂粒含むA 灰色 焼 良	胎色 砂粒含むA 灰色 焼 良	胎色 砂粒含むA 灰色 焼 良

第23表 K-3号窯遺物観察表(節)

K-3号窯

No.	器種	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
181	須恵器 蓋	コ 16.0	内外面共回転横ナデ 大井部ヘラ削り リング状つまみ貼付	胎 砂粒含む	1/2 内外面自然灰袖付着 重ね焼き痕
		ツマミ 4.0		胎 灰色	
		高 3.4		焼 やや不良	
182	須恵器 蓋	コ 16.8	内外面共回転横ナデ 天井部回転ヘラ削り リング状つまみ貼付	胎 砂粒少量含む	2/5
		ツマミ 3.7		胎 灰白色	
		高 4.9		焼 やや不良	
183	須恵器 蓋	コ 16.4	内外面共回転横ナデ 天井部回転糸切り一部回転ヘラ切り	胎 砂粒少量含む	
		ツマミ ー		胎 灰色	
		高 2.4		焼 良	
184	須恵器 蓋	コ 14.8	内外面共回転横ナデ 中央突出リング状つまみ貼付 ●	胎 砂粒含むB	2/3 内面自然灰袖付着 窯壁磨着
		ツマミ 4.0		胎 灰色	
		高 3.5		焼 良	
185	須恵器 蓋	コ ー	内外面共回転横ナデ 天井部回転糸切り 中央突出リング状つまみ貼付 ●	胎 砂粒含む	天井部とつまみ部
		ツマミ 4.3		胎 灰色	
		高 2.5		焼 良	
186	須恵器 蓋	コ ー	内外面共回転横ナデ 天井部回転ヘラ削り 中央突出リング状つまみ貼付 ●	胎 砂粒少量含む	つまみ部と天井部の一 部
		ツマミ 5.0		胎 色にぶい黄色	
		高 3.0		焼 不良	
187	須恵器 蓋	コ ー	内外面共回転横ナデ 中央突出リング状つまみ貼付	胎 砂粒少量含むA	1/4
		ツマミ 5.0		胎 灰色	
		高 ー		焼 良	
188	須恵器 蓋	コ 17.2	内外面共回転横ナデ 天井部回転ヘラ削り	胎 砂粒少量含むA	1/4 内面自然灰袖付着 内外面重ね焼き痕
		ツマミ ー		胎 灰色	
		高 3.8		焼 良	
189	須恵器 蓋	コ 16.2	内外面共回転横ナデ 天井部回転ヘラ削り 中央突出リング状つまみ貼付 ●	胎 砂粒少量含むA	ほぼ完形 内外面重ね焼き痕
		ツマミ 4.4		胎 灰色	
		高 3.0-5.3		焼 良	
190	須恵器 蓋	コ ー	内外面共回転横ナデ 天井部ヘラ削り 中央突出リング状つまみ貼付 ●	胎 砂粒含む	1/3 内面自然灰袖付 着 砂粒一部付着 蓋 破片埋着
		ツマミ 4.4		胎 暗灰色	
		高 3.8		焼 良	
191	須恵器 蓋	コ ー	内外面共回転横ナデ 天井部回転ヘラ削り 中央突出リング状つまみ貼付 ●	胎 粗砂粒含むA	つまみ部と天井部の 一部
		ツマミ 4.8		胎 灰色	
		高 2.5		焼 良	
192	須恵器 蓋	コ ー	内外面共回転横ナデ 天井部回転糸切り 中央突出リング状つまみ貼付 ●	胎 砂粒含む	つまみ部と天井部の一 部
		ツマミ 4.8		胎 黄色	
		高 2.2		焼 不良	
193	須恵器 蓋	コ ー	天井部回転ヘラ削り 中央突出リング状つまみ貼付 ●	胎 砂粒少量含むC	天井部とつまみ部
		ツマミ 4.3		胎 灰色	
		高 2.4		焼 良	
194	須恵器 蓋	コ ー	内外面共回転横ナデ 中央突出リング状つまみ貼付 ●	胎 粗砂粒含む	つまみ部と天井部の一 部 内面重ね焼き痕
		ツマミ 4.5		胎 暗灰色	
		高 2.0		焼 良	
195	須恵器 蓋	コ ー	内外面共回転横ナデ 中央突出リング状つまみ貼付 ●	胎 砂粒少量含む	1/4 外面砂粒付着
		ツマミ 4.5		胎 灰色	
		高 1.8		焼 良	
196	須恵器 蓋	コ ー	内外面共回転横ナデ 天井部回転ヘラ削り 中央突出リング状つまみ貼付 ●	胎 砂粒少量含む	1/3
		ツマミ 1.7		胎 灰色	
		高 ー		焼 良	
197	須恵器 蓋	コ ー	内外面共回転横ナデ 天井部回転ヘラ削り 中央突出リング状つまみ貼付 ●	胎 砂粒含むB	1/4 重ね焼き痕
		ツマミ 4.0		胎 灰色	
		高 2.4		焼 やや不良	
198	須恵器 蓋	コ ー	内面回転横ナデ 外面回転ヘラ削り リング状つまみ貼付 ●	胎 砂粒含む	1/8
		ツマミ 3.9		胎 灰白色	
		高 2.0		焼 やや不良	

第24表 K-3号窯遺物観察表(1)

K-3号窯

No.	器種	法量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考	
199	須恵器 蓋	口 ツマミ 高	— 4.2 1.9	内外面共同転換ナデ 天井部回転ヘラ切り 中央突出リング状つまみ貼付 ●	胎色 砂粒少量含む 灰色 焼良	1/2 内面重ね焼き痕
200	須恵器 蓋	口 ツマミ 高	— 4.2 2.4	内外面共同転換ナデ 天井部回転ヘラ切り 中央突出リング状つまみ貼付 ●	胎色 砂粒含む 暗灰色 焼良	1/3 内外面自然灰釉 付着 砂粒付着 素破 片瀝着

第25表 K-3号窯遺物観察表②

た面で、青灰色に還元化された面はほとんど残存していない。天井部分も、土層断面において確認することはできなかった。遺物は坏、高台付碗、蓋等が焼き台と共に出土した。

窯体の構造

前庭 前庭部には、直径約1.0mの円形ピットが存在する。遺存状態は悪く南半分は削平されてしまい、ピット内に灰層などは確認されなかった。

燃焼部 燃焼部の規模は、長軸0.55m、最大幅0.8mを計る。床面は一部分に青灰色に還元化された面が残っており、ほぼ水平に延びている。壁面は、ほとんど赤褐色に酸化されている。平面形はほぼ円形の影響となり、焼成部に向け開く形状となる。

焼成部 焼成部の規模は、長軸2.2m、最大幅1.15mを計る。燃焼部において水平を保っていた床面は、焼成部に至り急激な傾斜となり奥壁へと至る。焼成部の平面形は、中間に最大幅を持ち奥壁に向かい幅を狭める。床面、壁面ともに赤褐色に酸化されていて、青灰色に還元化された部分が所々に残っている。

奥壁・煙道部 奥壁の平面形はやや丸味を有し、確認面の地表からは深さ1mを計り、直線的に立ち上がる。

遺物出土状態

K-5号窯からは、坏、高台付碗、蓋等が出土している。図示した遺物は全て燃焼部、焼成部からの出土である。図示した以外に、坏・碗系305点、蓋50点、壺・皿系1点、壺・壺系13点の遺物が窯体内から出土している。

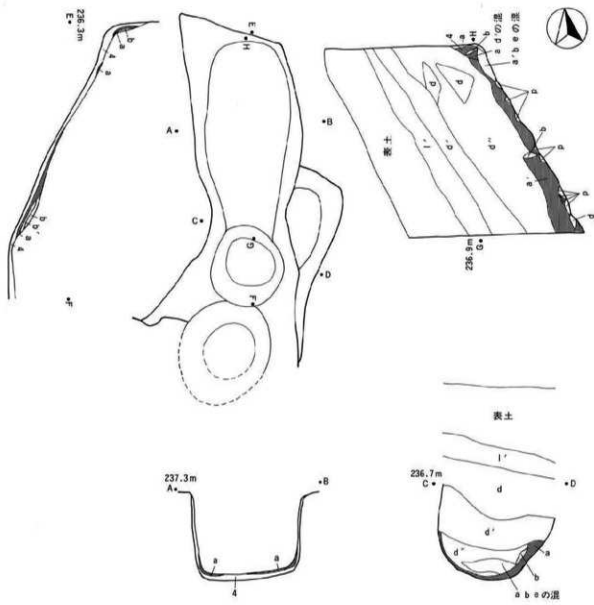
K-6号窯（第26・27・28・29図）

規模は、長軸7.85m、最大幅1.4m、方位は、N-5.5°-Eであり、今回の調査中最大規模の窯である。本窯は前庭部分まで依存し、天井は煙道部分に一部が残存していた。遺物は坏、高台付碗、壺、蓋、円面碗等が焼成時の重ね焼きの状態を良く残し、焼き台と共に出土した。

窯体の構造

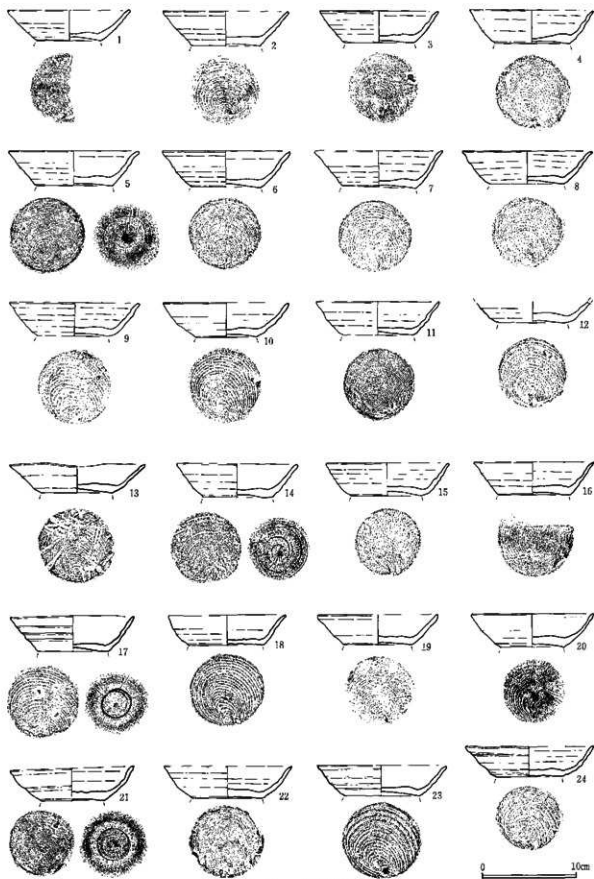
前庭 前庭部には、長軸約1.15m、短軸0.85mの楕円形ピットが存在する。前庭部ピット内には灰層が堆積していた。

燃焼部 燃焼部の規模は、長軸1.25m、最大幅1.1mを計る。床面は青灰色に還元化され、ほぼ水平に

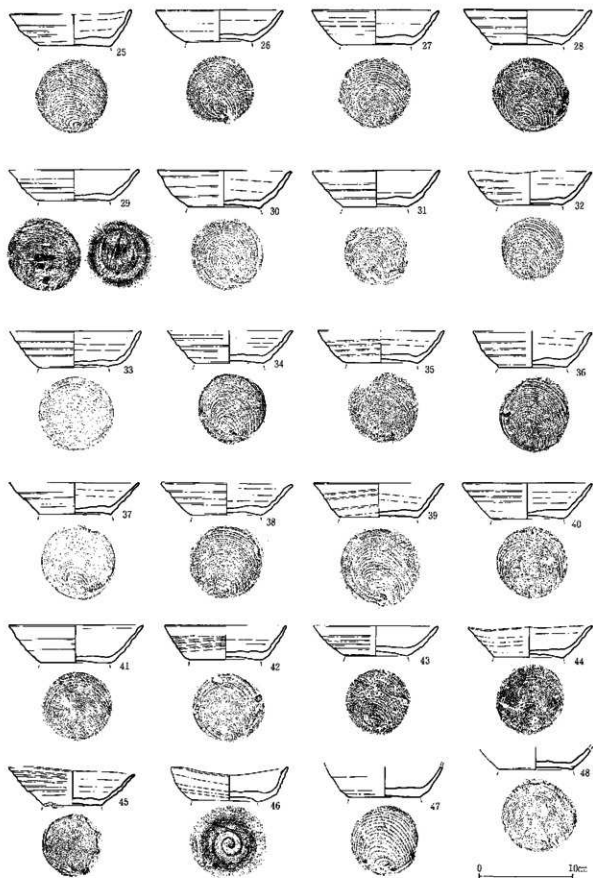


層別	層名	色調	しほり	粘性	埋入物				備考
					As-B	WP	炭化物	少糠	
1	黒褐色土層		△	×	○				As-B鈉層
1'	灰白色礫石層		△	×	◎				遺物多量に出土 (K-4号窯の裏庭及び惣焼部)
2	黒色土層		○	○		○			
3	黄褐色粘土層		○	○			△	○	
3'	黄褐色粘質土層	3 < 4	○	○					
4	黄褐色粘質土層		○	○		△			
5	白黄褐色粘質土層		○	○			○		
a	赤褐色土層		◎	×					酸化層
a'	赤褐色土層		×	×					酸化層
b	青褐色土層		×	×					還元層
d	黄褐色粘質土層		○	○			○	○	炭体腐落層
d'	黄褐色粘質土層		○	○			△	○	炭体腐落層
d''	黄褐色粘質土層		×	×			○	○	炭体腐落層
e	黒色土層		○	×			◎		灰層

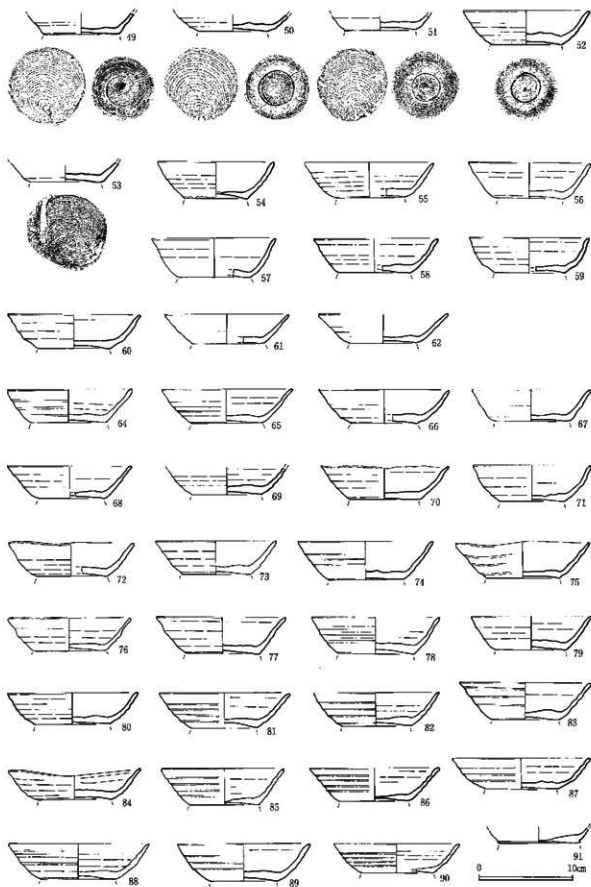
第21図 K-5号窯



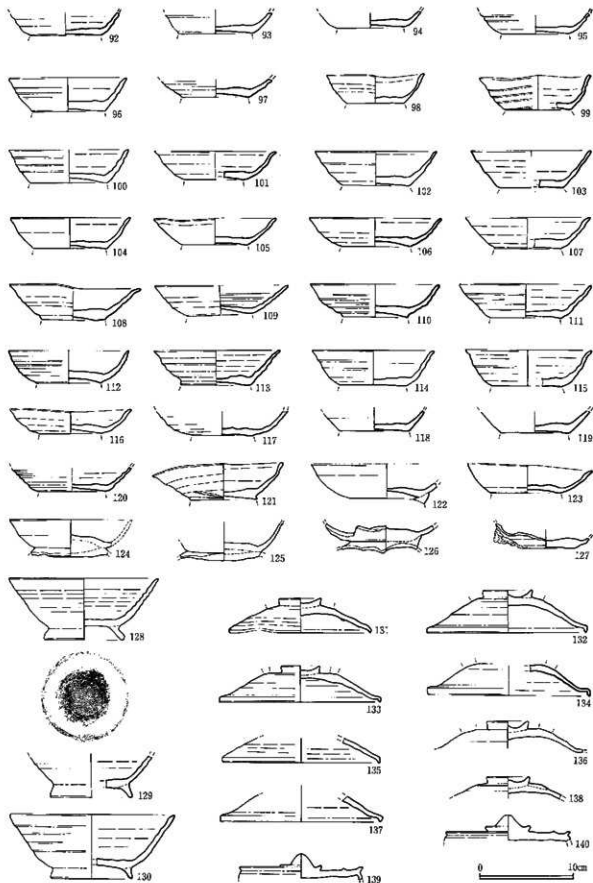
第22图 K-5号窑出土遗物(1)



第23图 K 5号出土物(2)



第24图 K 5号窑出土遗物(3)



第25图 K 5号墓出土遗物(4)

K-5号窯

No	器種	法	量	器形・技法等の特徴	胎土・色採・焼成	残存状態・備考
1	須恵器 坏	口底高	12.8	内外面共同転横ナデ	胎色焼 砂粒少量含む 灰黄色 やや不良	1/3
			7.2	底部回転糸切り		
			3.1	内面渦巻き		
2	須恵器 坏	口底高	13.2	内外面共同転横ナデ	胎色焼 砂粒少量含む 灰黄色 不良	1/2
			7.4	底部回転糸切り		
			3.7	内面渦巻き		
3	須恵器 坏	口底高	12.4	内外面共同転横ナデ	胎色焼 砂粒含む△ 灰オリーブ色 やや不良	1/2
			7.2	底部回転糸切り		
			3.4	内面渦巻き		
4	須恵器 坏	口底高	13.1	内外面共同転横ナデ	胎色焼 砂粒含む 褐色 不良	2/3 外面重ね焼き痕
			7.8	底部回転糸切り		
			3.6	内面渦巻き		
5	須恵器 坏	口底高	13.5	内外面共同転横ナデ	胎色焼 砂粒含む 灰黄色 やや不良	3/5
			7.9	底部回転糸切り		
			3.6	内面渦巻き		
6	須恵器 坏	口底高	13.5	内外面共同転横ナデ	胎色焼 砂粒含む 黄灰色 良	1/2
			7.4	底部回転糸切り		
			3.8	底部止痕		
7	須恵器 坏	口底高	13.5	内外面共同転横ナデ	胎色焼 砂粒含む 褐色 不良	1/2 外面重ね焼き痕
			7.8	底部回転糸切り		
			3.8	内面渦巻き		
8	須恵器 坏	口底高	13.6	内外面共同転横ナデ	胎色焼 砂粒含む にぶい褐色 不良	2/3 外面重ね焼き痕
			7.6	底部回転糸切り		
			3.5			
9	須恵器 坏	口底高	13.7	内外面共同転横ナデ	胎色焼 砂粒少量含む 褐色 不良	1/2 外面重ね焼き痕
			7.6	底部回転糸切り		
			3.5	内面渦巻き		
10	須恵器 坏	口底高	13.4	内外面共同転横ナデ	胎色焼 砂粒含む 黄灰色 やや不良	1/2
			6.5	底部回転糸切り		
			3.7			
11	須恵器 坏	口底高	13.4	内外面共同転横ナデ	胎色焼 砂粒含む にぶい褐色 不良	2/3
			7.4	底部回転糸切り		
			3.4			
12	須恵器 坏	口底高	—	内外面共同転横ナデ	胎色焼 細砂粒含む 褐色 やや不良	底部～底部
			7.2	底部回転糸切り		
			2.2	内面渦巻き		
13	須恵器 坏	口底高	14.5	内外面共同転横ナデ	胎色焼 砂粒少量含む 褐色 良	2/3 内外面重ね焼き痕
			7.7	底部回転糸切り		
			3.0~3.5	内面渦巻き底部止痕		
14	須恵器 坏	口底高	12.7	内外面共同転横ナデ	胎色焼 砂粒少量含む にぶい褐色 不良	2/3
			7.4	底部回転糸切り		
			3.5	内面渦巻き		
15	須恵器 坏	口底高	12.8	内外面共同転横ナデ	胎色焼 砂粒含む 褐色 不良	3/5 外面重ね焼き痕
			7.4	底部回転糸切り		
			3.5	内面渦巻き		
16	須恵器 坏	口底高	17.7	内外面共同転横ナデ	胎色焼 細砂粒含む 灰赤褐色 不良	1/2 内外面重ね焼き痕
			7.5	底部回転糸切り		
			3.5	底部止痕		
17	須恵器 坏	口底高	12.9	内外面共同転横ナデ	胎色焼 砂粒含む 灰褐色 不良	1/2
			7.4	底部回転糸切り		
			3.8	内面渦巻き		
18	須恵器 坏	口底高	12.5	内外面共同転横ナデ	胎色焼 砂粒含む にぶい赤褐色 やや不良	2/3
			7.8	底部回転糸切り		
			3.2	内面渦巻き		

第26表 K-5号窯遺物観察表(1)

K-5号窯

No.	須恵器	法	量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考	
19	須恵器 環	口 底 高	12.8	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り 内面渦巻き	胎 色 焼	砂粒少量含む 灰褐色 やや不良	3/5
			7.0 3.1				
20	須恵器 環	口 底 高	12.9	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 色 焼	砂粒含む 褐色 やや不良	1/2 外面自然灰釉付着
			6.7 3.5				
21	須恵器 環	口 底 高	13.4	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り 内面渦巻き	胎 色 焼	砂粒少量含む 灰色 良	2/3
			7.0 3.6				
22	須恵器 環	口 底 高	13.4	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 色 焼	砂粒少量含む 灰色 良	1/2
			7.6 3.4				
23	須恵器 環	口 底 高	13.7	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り 内面渦巻き	胎 色 焼	砂粒含む 褐色 不良	2/3 外面重ね焼き痕
			8.0 3.3				
24	須恵器 環	口 底 高	13.4	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 色 焼	砂粒少量含む 灰褐色 やや不良	3/5 外面重ね焼き痕
			7.0 3.3				
25	須恵器 環	口 底 高	12.7	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り 内面渦巻き	胎 色 焼	砂粒少量含む 褐色 不良	2/3
			7.5 3.2~3.9				
26	須恵器 環	口 底 高	13.6	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 色 焼	砂粒少量含む 淡褐色 やや不良	1/2 内外面重ね焼き痕
			7.0 3.3				
27	須恵器 環	口 底 高	13.4	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り 底部汗痕	胎 色 焼	砂粒含む にぶい褐色 不良	1/2
			7.5 3.7				
28	須恵器 環	口 底 高	13.4	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 色 焼	砂粒含むA 褐色 不良	1/2 外面重ね焼き痕
			7.5 3.7				
29	須恵器 環	口 底 高	13.7	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 色 焼	砂粒少量含む 褐色 不良	3/5
			7.6 3.4				
30	須恵器 環	口 底 高	14.2	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り 内面渦巻き	胎 色 焼	砂粒含む 褐色 不良	2/3 外面重ね焼き痕
			7.6 3.9				
31	須恵器 環	口 底 高	13.4	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り 内面渦巻き	胎 色 焼	砂粒少量含む にぶい褐色 不良	1/2
			6.8 3.9				
32	須恵器 環	口 底 高	13.0	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 色 焼	砂粒少量含む 灰褐色 やや不良	2/3
			6.6 3.5				
33	須恵器 環	口 底 高	13.9	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り 内面渦巻き	胎 色 焼	砂粒少量含むA 灰褐色 不良	ほぼ完形 内外面重ね焼き痕
			7.5 3.7				
34	須恵器 環	口 底 高	13.1	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り 内面渦巻き	胎 色 焼	砂粒少量含む 黄灰色 やや不良	2/3 外面重ね焼き痕
			7.2 3.5				
35	須恵器 環	口 底 高	13.4	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 色 焼	砂粒少量含む 灰褐色 やや不良	1/2
			7.5 3.6				
36	須恵器 環	口 底 高	12.5	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 色 焼	砂粒少量含む 褐色 不良	2/5
			7.2 3.8				

第27表 K 5号窯遺物観察表(2)

K-5号窯

No	窑 種	法 量	器形・技法等の特徴	胎土・色割・焼成	残存状態・備考
37	須恵器 坏	口 13.0	内外面共同転横ナブ 底部回転糸切り 内面渦巻き	胎色 胎粒少量含むC 灰黄褐色 不良	ほぼ球形 内外面重ね焼き痕
		底高 7.8			
		3.8			
38	須恵器 坏	口 13.9	内外面共同転横ナブ 底部回転糸切り	胎色 胎粒少量含む にぶい褐色 焼 やや不良	2/3
		底高 7.2			
		3.3			
39	須恵器 坏	口 13.8	内外面共同転横ナブ 底部回転糸切り 内面底部へこみ	胎色 胎粒少量含む 灰色 焼 やや不良	2/3 内外面重ね焼き痕
		底高 8.2			
		3.7			
40	須恵器 坏	口 13.7	内外面共同転横ナブ 底部回転糸切り 内面渦巻き	胎色 胎粒含むC 褐色 不良	2/3 内外面重ね焼き痕
		底高 7.5			
		3.8			
41	須恵器 坏	口 14.0	内外面共同転横ナブ 底部回転糸切り	胎色 胎粒少量含む 灰褐色 不良	1/2 外面重ね焼き痕
		底高 7.2			
		4.0			
42	須恵器 坏	口 12.8	内外面共同転横ナブ 底部回転糸切り 内面渦巻き	胎色 胎粒少量含む にぶい黄褐色 焼 やや不良	1/2
		底高 7.6			
		3.6			
43	須恵器 坏	口 13.3	内外面共同転横ナブ 底部回転糸切り 底部圧痕	胎色 胎粒少量含む 黒灰色 焼 良	3/5 内外面自然灰釉付着
		底高 6.6			
		3.2			
44	須恵器 坏	口 13.2	内外面共同転横ナブ 底部回転糸切り	胎色 胎粒少量含む 灰色 焼 やや不良	1/3 内外面自然灰釉付着
		底高 7.5			
		3.5			
45	須恵器 坏	口 13.4	内外面共同転横ナブ 底部回転糸切り 底部圧痕	胎色 胎粒含むA 黄灰色 焼 良	2/3 内外面自然灰釉付着
		底高 6.2			
		4.0			
46	須恵器 坏	口 12.3	内外面共同転横ナブ 底部回転糸切り 内面渦巻き	胎色 胎粒含むA 灰色 焼 不良	3/4 内外面自然灰釉付着 内外面重ね焼き痕
		底高 7.0			
		2.7			
47	須恵器 坏	口 —	内外面共同転横ナブ 底部回転糸切り 内面渦巻き	胎色 胎粒少量含む にぶい褐色 焼 不良	1/2
		底高 7.6			
		3.2			
48	須恵器 坏	口 —	内外面共同転横ナブ 底部回転糸切り	胎色 胎粒少量含む 褐色 焼 やや不良	1/2
		底高 7.8			
		2.3			
49	須恵器 坏	口 —	内外面共同転横ナブ 底部回転糸切り 内面渦巻き	胎色 胎粒少量含む にぶい黄褐色 焼 やや不良	底部と体部下位2/3
		底高 8.0			
		2.3			
50	須恵器 坏	口 —	内外面共同転横ナブ 底部回転糸切り 内面渦巻き	胎色 胎粒少量含む にぶい黄褐色 焼 不良	底部と体部の一部
		底高 7.4			
		1.5			
51	須恵器 坏	口 —	内外面共同転横ナブ 底部回転糸切り 内面渦巻き	胎色 胎粒少量含む にぶい黄褐色 焼 やや不良	底部と体部の一部
		底高 7.4			
		1.5			
52	須恵器 坏	口 13.7	内外面共同転横ナブ 底部回転糸切り 内面渦巻き	胎色 胎粒含む にぶい褐色 焼 不良	3/5 外面重ね焼き痕
		底高 7.7			
		3.6			
53	須恵器 坏	口 —	内外面共同転横ナブ 底部回転糸切り 内面渦巻き底部圧痕	胎色 胎粒少量含む にぶい赤褐色 焼 やや不良	底部と体部の一部
		底高 7.5			
		2.0			
54	須恵器 坏	口 12.1	内外面共同転横ナブ 底部回転糸切り 底部上痕	胎色 胎粒少量含むA 灰色 焼 良	1/4
		底高 6.6			
		3.9			

第28表 K-5号窯遺物観察表(3)

K-5号窯

No	器種	法	量	變形・技法等の特徴	胎上・色質・焼成	残存状態・備考	
55	須恵器 坏	口底高	13.6	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 焼	砂粒含む にぶい黄褐色 やや不良	1/4
			7.8				
			3.8				
56	須恵器 坏	口底高	12.8	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り 内面渦巻き	胎色 焼	砂粒含む にぶい黄褐色 やや不良	1/3
			8.0				
			3.8				
57	須恵器 坏	口底高	13.4	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 焼	砂粒含む 灰色 やや不良	1/3 内外面世ね焼き痕
			4.1				
58	須恵器 坏	口底高	13.2	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 焼	砂粒含む 褐色 不良	2/5
			7.6				
			3.7				
59	須恵器 坏	口底高	12.8	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 焼	砂粒含むA にぶい褐色 不良	1/4 外面噴ね焼き痕
			7.5				
			3.7				
60	須恵器 坏	口底高	13.9	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 焼	砂粒少量含むA にぶい褐色 不良	2/3 内面自然灰釉付着
			7.5				
			3.7				
61	須恵器 坏	口底高	13.0	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り 底部圧痕	胎色 焼	砂粒少量含む にぶい褐色 不良	1/4
			7.4				
			3.0				
62	須恵器 坏	口底高	13.7	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 焼	砂粒含む 黄灰色 やや不良	1/3
			7.2				
			3.1				
63							
64	須恵器 坏	口底高	13.0	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り 内面渦巻き底部圧痕	胎色 焼	砂粒少量含む 灰褐色 やや不良	1/3
			8.0				
			3.5				
65	須恵器 坏	口底高	14.0	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 焼	砂粒含む にぶい褐色 やや不良	1/4
			7.4				
			3.6				
66	須恵器 坏	口底高	13.6	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 焼	砂粒少量含む にぶい黄褐色 やや不良	1/4
			7.0				
			3.6				
67	須恵器 坏	口底高	12.6	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り 内面渦巻き	胎色 焼	砂粒少量含む にぶい褐色 不良	1/3
			7.7				
			3.3				
68	須恵器 坏	口底高	15.0	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 焼	砂粒少量含む にぶい褐色 やや不良	1/3
			6.8				
			3.4				
69	須恵器 坏	口底高	—	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 焼	砂粒少量含む にぶい黄褐色 やや不良	2/5
			7.4				
			2.8				
70	須恵器 坏	口底高	14.2	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り 口縁部圧痕	胎色 焼	砂粒含む にぶい黄褐色 やや不良	1/3
			7.4				
			3.4				
71	須恵器 坏	口底高	12.4	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り 内面渦巻き底部圧痕	胎色 焼	砂粒含む にぶい黄褐色 やや不良	3/5
			6.8				
			3.8				
72	須恵器 坏	口底高	13.3	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り 底部圧痕	胎色 焼	砂粒含む にぶい黄褐色 やや不良	3/5 内外面自然灰釉付着
			7.6				
			3.7				

第29表 K-5号窯遺物観察表(4)

K-5号窯

No	窯器	法	寸法	器形・技法等の特徴	胎・色・質・焼成	残存状態・備考
73	須恵器 坏	口底高	12.7	内外面共同転横ナブ 底部回転糸切り 内面渦巻き	胎色 焼	砂粒少量含む にぶい橙色 不良
			7.4			
			3.5			
74	須恵器 坏	口底高	14.2	内外面共同転横ナブ 底部回転糸切り	胎色 焼	砂粒含む にぶい橙色 不良
			8.0			
			4.0			
75	須恵器 坏	口底高	14.2	内外面共同転横ナブ 底部回転糸切り	胎色 焼	砂粒少量含む 橙色 不良
			7.8			
76	須恵器 坏	口底高	13.0	内外面共同転横ナブ 底部回転糸切り 内面渦巻き	胎色 焼	砂粒含む 灰色 不良
			7.1			
77	須恵器 坏	口底高	13.7	内外面共同転横ナブ 底部回転糸切り	胎色 焼	砂粒含む にぶい黄橙色 不良
			8.0			
78	須恵器 坏	口底高	13.5	内外面共同転横ナブ 底部回転糸切り 底部平直	胎色 焼	砂粒少量含む 褐色 不良
			8.0			
			3.9			
79	須恵器 坏	口底高	12.8	内外面共同転横ナブ 底部回転糸切り 内面渦巻き	胎色 焼	砂粒少量含む 灰褐色 不良
			7.5			
			3.6			
80	須恵器 坏	口底高	13.8	内外面共同転横ナブ 底部回転糸切り	胎色 焼	砂粒少量含む 橙色 不良
			8.0			
			3.3			
81	須恵器 坏	口底高	13.7	内外面共同転横ナブ 底部回転糸切り	胎色 焼	砂粒少量含む にぶい橙色 不良
			6.9			
			3.8			
82	須恵器 坏	口底高	13.0	内外面共同転横ナブ 底部回転糸切り 内面渦巻き	胎色 焼	砂粒少量含む にぶい黄橙色 不良
			7.2			
			3.7			
83	須恵器 坏	口底高	14.0	内外面共同転横ナブ 底部回転糸切り	胎色 焼	砂粒少量含む 暗灰色 やや不良
			7.0			
			4.0			
84	須恵器 坏	口底高	14.0	内外面共同転横ナブ 底部回転糸切り 内面渦巻き	胎色 焼	砂粒含むA 浅黄橙色 やや不良
			7.7			
			3.5			
85	須恵器 坏	口底高	13.0	内外面共同転横ナブ 底部回転糸切り	胎色 焼	砂粒少量含む 灰白色 不良
			7.4			
			3.9			
86	須恵器 坏	口底高	13.8	内外面共同転横ナブ 底部回転糸切り	胎色 焼	砂粒少量含む にぶい橙色 不良
			7.4			
			3.5			
87	須恵器 坏	口底高	14.8	内外面共同転横ナブ 底部回転糸切り 内面渦巻き	胎色 焼	砂粒含む にぶい橙色 やや不良
			7.6			
			3.4			
88	須恵器 坏	口底高	15.0	内外面共同転横ナブ 底部回転糸切り	胎色 焼	砂粒含むA 灰褐色 不良
			8.0			
			3.8			
89	須恵器 坏	口底高	14.0	内外面共同転横ナブ 底部回転糸切り 内面渦巻き	胎色 焼	砂粒少量含む 褐色 やや不良
			7.0			
			4.0			
90	須恵器 坏	口底高	13.2	内外面共同転横ナブ 底部回転糸切り	胎色 焼	砂粒含む 灰黄色 不良
			7.3			
			3.1			

第30表 K-5号窯遺物観察表(5)

K-5号窯

No	器種	法	量	器形・技法等の特徴	胎・色・釉・焼成	残存状態・備考
91	須恵器 坏	口 底 高	— 8.5	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 粗砂粒含む 色 浅黄褐色 焼 やや不良	1/2 内外面重ね焼き痕
92	須恵器 坏	口 底 高	— 7.5 2.5	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 砂粒少量含む 色 におい黄褐色 焼 やや不良	3/5 内外面重ね焼き痕
93	須恵器 坏	口 底 高	— 7.6 2.1	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り 内面満巻き底部圧痕	胎 砂粒少量含むA 色 におい黄褐色 焼 不良	底部のみ
94	須恵器 坏	口 底 高	— 7.2 1.5	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り 内面満巻き底部圧痕	胎 砂粒含む 色 におい黄褐色 焼 やや不良	1/3
95	須恵器 坏	口 底 高	— 7.4 2.0	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 粗砂粒含む 色 におい黄褐色 焼 不良	1/2
96	須恵器 坏	口 底 高	12.4 7.7 3.6	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 砂粒少量含む 色 におい黄褐色 焼 不良	1/2
97	須恵器 坏	口 底 高	— 7.0 2.0	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り 内面満巻き	胎 砂粒含む 色 灰白色 焼 やや不良	2/5
98	須恵器 坏	口 底 高	10.4 6.1 3.2	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 砂粒含む 色 暗灰色 焼 良	1/4 内外面自然灰釉付着
99	須恵器 坏	口 底 高	11.6 7.0 3.7	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 砂粒少量含む 色 灰色 焼 良	1/4 内外面自然灰釉付着
100	須恵器 坏	口 底 高	12.4 8.0 3.5	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 砂粒少量含む 色 灰褐色 焼 やや不良	1/3 内外面自然灰釉付着
101	須恵器 坏	口 底 高	13.0 6.2 3.0	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り 底部圧痕	胎 粗砂粒含む 色 灰色 焼 良	1/3 内外面自然灰釉付着
102	須恵器 坏	口 底 高	12.8 7.0 3.6	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 砂粒含む 色 黄灰色 焼 やや不良	1/4 内外面自然灰釉付着
103	須恵器 坏	口 底 高	12.7 6.7 3.9	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 砂粒少量含む 色 灰褐色 焼 良	1/4
104	須恵器 坏	口 底 高	12.8 7.6 3.3	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り 内面満巻き	胎 砂粒少量含む 色 灰褐色 焼 やや不良	2/5
105	須恵器 坏	口 底 高	13.0 7.0 2.8	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 砂粒少量含む 色 灰色 焼 やや不良	1/2 内外面自然灰釉付着
106	須恵器 坏	口 底 高	14.0 7.5 3.0	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 砂粒含むA 色 灰色 焼 良	1/2
107	須恵器 坏	口 底 高	12.7 6.6 3.4	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 砂粒少量含むA 色 灰色 焼 良	1/4 内面重ね焼き痕
108	須恵器 坏	口 底 高	14.0 6.8 3.7	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り 内面満巻き	胎 砂粒含む 色 におい赤褐色 焼 不良	3/4 内外面重ね焼き痕

第31表 K 5号窯遺物観察表(6)

K-5号窯

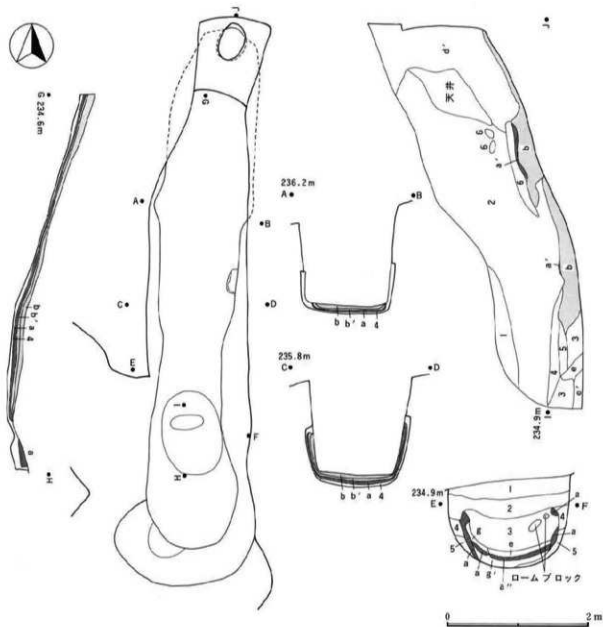
No.	器種	法	量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考	
109	須恵器 坏	┌底高	14.2	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 焼	砂粒含む にぶい赤褐色 やや不良	2/3 外面自然灰釉附着 重ね焼き痕
			7.0				
110	須恵器 坏	┌底高	13.6	内外面共同転横ナデ 外面回転糸切り	胎色 焼	砂粒含む 灰色 良	1/2 内外面自然灰釉附着 重ね焼き痕
			6.8				
111	須恵器 坏	┌底高	13.8	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 焼	砂粒含む 灰褐色 やや不良	1/2 内外面自然灰釉附着 重ね焼き痕
			7.3				
112	須恵器 坏	┌底高	12.7	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 焼	砂粒少量含む 灰色 良	1/2 内外面自然灰釉附着 内面重ね焼き痕
			6.8				
113	須恵器 坏	┌底高	13.4	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 焼	砂粒少量含む 灰褐色 不良	2/3 内外面自然灰釉附着
			7.6				
114	須恵器 坏	┌底高	12.8	内外面共同転横ナデ 内面渦巻き	胎色 焼	砂粒含むA 灰褐色 やや不良	2/3 内外面自然灰釉附着
			7.0				
115	須恵器 坏	┌底高	14.4	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 焼	砂粒含む 灰色 良	1/5
			7.4				
116	須恵器 坏	┌底高	13.0	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 焼	砂粒少量含む 灰色 良	1/3
			6.5				
117	須恵器 坏	┌底高	—	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り 内面渦巻き	胎色 焼	砂粒含む にぶい橙色 不良	底部と体部の一部
			6.5				
118	須恵器 坏	┌底高	—	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 焼	砂粒含むA 灰色 良	2/5 内外面自然灰釉附着
			7.5				
119	須恵器 坏	┌底高	—	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り 内面渦巻き	胎色 焼	砂粒少量含む 灰白色 やや不良	1/2 内外面自然灰釉附着
			7.3				
120	須恵器 坏	┌底高	—	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 焼	砂粒少量含む 灰色 良	底部と体部の一部
			7.0				
121	須恵器 坏	┌底高	13.8	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 焼	砂粒含むA 灰色 良	1/2 内外面自然灰釉附着
			7.2				
122	須恵器 坏	┌底高	—	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り 内面渦巻き	胎色 焼	砂粒含む 内赤褐色 外一灰焼	1/2 内外面自然灰釉 附着 重ね焼き痕 底部 部に高台脚部融着
			7.8				
123	須恵器 坏	┌底高	11.8	内外面共同転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 焼	砂粒少量含むA 灰褐色 やや不良	2/3 外面自然灰釉附着
			6.7				
124	須恵器 坏	┌底高	13.0	内外面共同転横ナデ	胎色 焼	砂粒含む 褐色 良	内外面自然灰釉附着 坏底部と底部で融着
			—				
125	須恵器 坏	┌底高	—	内外面共同転横ナデ	胎色 焼	砂粒含む 褐色 やや不良	内外面自然灰釉附着 坏底部と底部で融着
			8.0				
126	須恵器 坏	┌底高	—	内外面共同転横ナデ	胎色 焼	砂粒含む 灰褐色 良	内外面自然灰釉附着 坏底部と底部で融着
			—				

第32表 K-5号窯遺物観察表(7)

K-5号窯

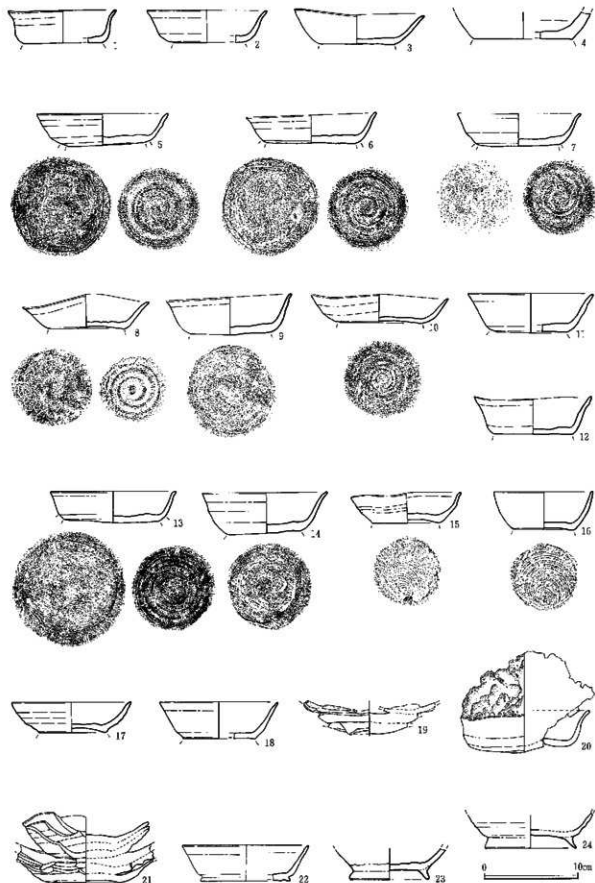
No.	器 種	法 量	形状・技法等の特徴	胎・色調・焼成	残存状態・備考
127	須 惠 器 坏	口 底 高 — 6.5 —	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎 色 焼 砂粒含むA 暗灰色 やや良	底部のみ 内外面自然欠陥付着 窯壁融着
128	須 惠 器 高台付碗	口 底 高 15.9 8.5 6.6	内外面共同回転横ナデ 底部回転糸切り後付高台 内面減色	胎 色 焼 砂粒少量含む 灰褐色 不良	1/3
129	須 惠 器 高台付碗	口 底 高 — 8.8 4.5	内外面共同回転横ナデ 底部回転糸切り後付高台	胎 色 焼 砂粒少量含むB 橙色 やや不良	底部～体部1/2
130	須 惠 器 高台付碗	口 底 高 17.4 8.5 6.8	内外面共同回転横ナデ 底部回転糸切り後付高台	胎 色 焼 砂粒少量含む 灰色 不良	1/3
131	須 惠 器 蓋	口 ツマミ 高 15.0 4.5 3.7	内外面共同回転横ナデ 天井部回転ヘラ削り リング状つまみ貼付	胎 色 焼 砂粒少量含む 灰色 良	1/2 内外面自然灰袖 付着 恵ね焼き痕 土 器破片融着
132	須 惠 器 蓋	口 ツマミ 高 16.7 5.1 4.5	内外面共同回転横ナデ 天井部回転ヘラ削り 中央突出リング状つまみ貼付	胎 色 焼 砂粒含む 浅黄褐色 不良	1/3 内面恵ね焼き痕
133	須 惠 器 蓋	口 ツマミ 高 17.2 4.2 3.9	内外面共同回転横ナデ 天井部回転糸切り後ヘラ削り 中央突出リング状つまみ貼付	胎 色 焼 砂粒含む にぶい橙褐色 不良	1/2 内外面恵ね焼き痕
134	須 惠 器 蓋	口 ツマミ 高 17.2 — 3.3	内外面共同回転横ナデ 天井部回転ヘラ削り	胎 色 焼 砂粒少量含む にぶい黄褐色 やや不良	1/5
135	須 惠 器 蓋	口 ツマミ 高 16.6 — 2.7	内外面共同回転横ナデ	胎 色 焼 砂粒少量含むB 淡褐色 やや不良	破片 内外面恵ね焼き痕
136	須 惠 器 蓋	口 ツマミ 高 4.3 4.3 3.4	内外面共同回転横ナデ 天井部回転ヘラ削り 中央突出リング状つまみ貼付	胎 色 焼 砂粒含む 淡褐色 やや不良	1/3
137	須 惠 器 蓋	口 ツマミ 高 17.2 — 2.8	内外面共同回転横ナデ	胎 色 焼 砂粒少量含む 灰白色 やや不良	1/3
138	須 惠 器 蓋	口 ツマミ 高 — 4.5 2.5	内外面共同回転横ナデ 天井部回転ヘラ削り 中央突出リング状つまみ貼付 ●	胎 色 焼 砂粒少量含む 橙褐色 やや不良	天井部～何部2/3
139	須 惠 器 蓋	口 ツマミ 高 13.1 — —	内外面共同回転横ナデ 宝珠状つまみ貼付	胎 色 焼 砂粒含む 黄灰色 良	1/2
140	須 惠 器 蓋	口 ツマミ 高 13.2 4.7 —	内外面共同回転横ナデ 宝珠状つまみ貼付 ●	胎 色 焼 細砂粒含むA 黄灰色 良	1/2

第33表 K-5号窯遺物観察表(8)

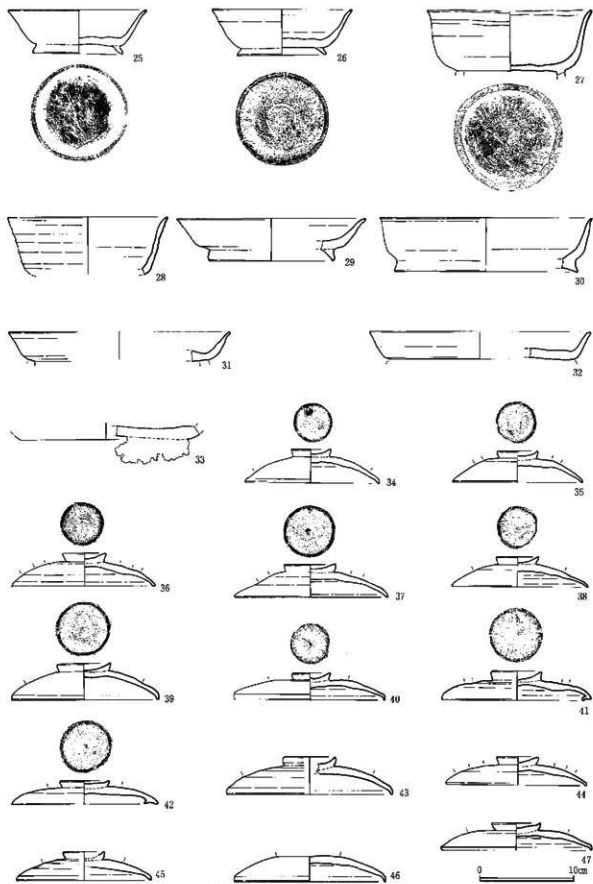


順	層名	色調	シロ	粘性	混入物			備考
					Aa-B	WP	炭化物 少微	
1	黒褐色土層		△	×	○			Aa-B純層 遺物多量に出土 (K-4号室の前庭及び燃焼部)
2	赤褐色土層		△	×	○			
3	黄褐色粘土層		○	○			△	
4	黄褐色粘質土層	3<4	○	○				
5	白黄褐色粘質土層	4<5	○	○				
6	黄褐色粘質土層	4<5	○	○				
a	赤褐色土層		○	×				酸化層
a'	赤褐色土層		×	○				酸化層
a''	灰赤褐色粘質土層		×	○				酸化層
b	青褐色土層		×	○				還元層 室内内側近くに埋着した粗砂粒層
d	黄褐色粘質土層		×	○			○	室内前庭層
e	黒色土層		×	×			○	灰層
e'	黒色土層		×	×			○	灰層
k	灰色砂礫層		×	×			○	
g	灰色砂礫層	E>K	×	×			△	

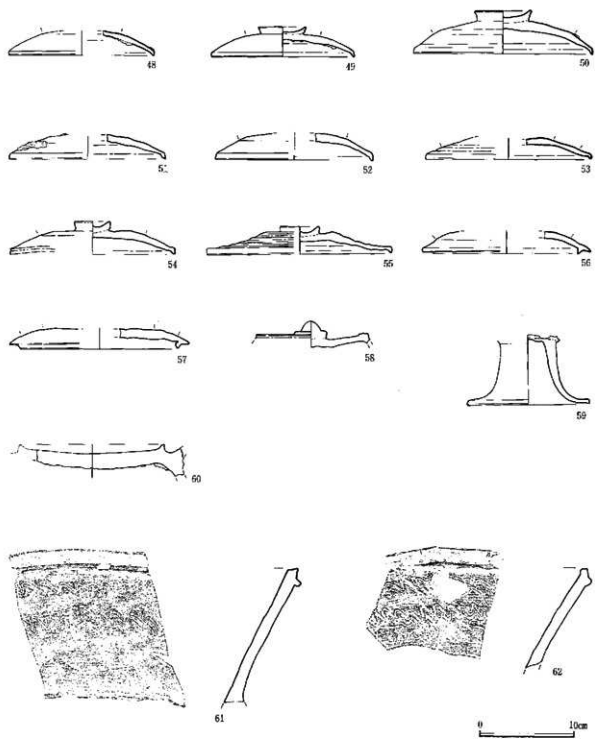
第26図 K-6号室



第27图 K-6号出土器物(1)



第28图 K-6号墓出土遗物(2)



第29图 K-6号窑出土遗物(3)

K-6号窯

No.	窯型	法	量	型形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
1	須恵器 環	コ 底高	11.0	内外面共同転横ナデ 底部ヘラ削り	胎色 砂粒少量含むA 灰色 やや不良	1/5 内外面自然灰釉付着
			8.6 3.5			
2	須恵器 環	コ 底高	12.6	内外面共同転横ナデ 底部回転ヘラ削り	胎色 砂粒少量含むA 灰色 良	1/4
			8.0 3.4			
3	須恵器 環	コ 底高	13.7	内外面共同転横ナデ 底部回転ヘラ削り	胎色 砂粒含む 灰白色 良	1/2 内面重ね焼き痕
			7.8 3.7			
4	須恵器 鉢	コ 底高	—	内面共同転横ナデ 外面形め方底ヘラ削り 底部回転ヘラ削り	胎色 砂粒多量含む 灰色 良	体底部1/5
			10.5 —			
5	須恵器 環	コ 底高	13.8	内外面共同転横ナデ 底部回転ヘラ削り後手持ちヘラ削り 外周ヘラ削り 内面滑き	胎色 砂粒少量含む 灰青色 良	壳形
			9.5 3.0~3.7			
6	須恵器 環	コ 底高	13.8	内外面共同転横ナデ 底部回転ヘラ削り後手持ちヘラ削り 外周ヘラ削り 内面滑き	胎色 砂粒含む 灰白色 良	ほぼ壳形
			9.5 2.6~3.3			
7	須恵器 環	コ 底高	13.0	内外面共同転横ナデ 底部回転ヘラ削り後手持ちヘラ削り 周辺ヘラ削り 内面滑き	胎色 砂粒少量含む 灰白色 良	壳形
			8.5 3.4			
8	須恵器 環	コ 底高	13.3	内外面共同転横ナデ 底部回転ヘラ削り後手持ちヘラ削り 内面滑き	胎色 砂粒含む 灰色 良	4/5
			8.0 2.7			
9	須恵器 環	コ 底高	13.4	内外面共同転横ナデ 底部回転ヘラ削り後手持ちヘラ削り 内面滑き	胎色 砂粒含む 灰白色 良	ほぼ壳形 内外面自然灰釉付着
			8.5 3.5~4.4			
10	須恵器 環	コ 底高	14.4	内外面共同転横ナデ 底部回転ヘラ削り後手持ちヘラ削り 内面滑き	胎色 砂粒少量含む 灰色 良	ほぼ壳形 内外面自然灰釉付着
			9.0 2.7~4.1			
11	須恵器 環	コ 底高	13.1	内外面共同転横ナデ 底部回転ヘラ削り後手持ちヘラ削り 内面滑き	胎色 砂粒含む 灰色 やや不良	1/3 外周自然灰釉付着
			7.8 4.1			
12	須恵器 環	コ 底高	12.5	内外面共同転横ナデ 底部回転ヘラ削り後手持ちヘラ削り 内面滑き	胎色 砂粒含む 灰色 良	1/2
			8.4 3.9			
13	須恵器 環	コ 底高	13.1	内外面共同転横ナデ 底部回転ヘラ削り後手持ちヘラ削り 内面滑き	胎色 砂粒含む 灰色 良	4/5
			10.2 3.2			
14	須恵器 環	コ 底高	13.2	内外面共同転横ナデ 底部回転ヘラ削り後手持ちヘラ削り 内面滑き	胎色 砂粒含むB 灰色 良	ほぼ壳形 内外面自然灰釉付着
			8.0 4.4			
15	須恵器 環	コ 底高	11.6	内外面共同転横ナデ 底部回転ヘラ削り後手持ちヘラ削り 内面滑き	胎色 砂粒含むB 灰白色 良	4/5 内外面自然灰釉付着 外面重ね焼き痕
			7.0 3.1			
16	須恵器 環	コ 底高	11.3	内外面共同転横ナデ 底部回転ヘラ削り	胎色 砂粒多量含むA 灰白色 良	1/3 内外面自然灰釉付着 外面重ね焼き痕
			6.5 4.0			
17	須恵器 環	コ 底高	12.8	内外面共同転横ナデ 底部回転ヘラ削り	胎色 砂粒含むA 灰色 やや不良	1/2 内外面自然灰釉付着
			7.0 3.2			
18	須恵器 環	コ 底高	12.6	内外面共同転横ナデ 底部回転ヘラ削り	胎色 砂粒少量含むB 暗灰色 良	1/4 内外面重ね焼き痕
			7.5 3.9			

第34表 K-6号窯遺物観察表(1)

K-6号窯

No.	器種	法	量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
19	須恵壺 坏	口底高	— —	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り	胎色 砂粒少量含むC 灰色 焼良	内外面自然灰釉付着窓 壁融着 不潔部と底部 及び坏破片産着
20	須恵壺 坏	口底高	— 3.5	内外面共回転横ナデ 底部回転ヘラ切り後ヘラ削り	胎色 砂粒含む 灰色 やや良	2/3 内面窓壁少量融着 内外面自然灰釉付着
21	須恵壺 坏	口底高	— —		胎色 砂粒含む 灰色 焼良	内外面自然灰釉付着
22	須恵器 高台付坏	口底高	13.5 9.5 3.8	内外面共回転横ナデ 底部窪り出し高台	胎色 砂粒含むB 灰色 焼良	口縁部～底部1/5 内外面自然灰釉少量付着 内面重ね焼き痕
23	須恵器 高台付碗	口底高	— 8.4	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り後付高台	胎色 砂粒少量含む 灰白色 焼良	底部と体底部の一部
24	須恵器 高台付碗	口底高	— 9.6 3.7	内外面共回転横ナデ 底部回転糸切り後付高台 内面裏巻き 高台圧痕	胎色 砂粒少量含む にぶい橙色 焼不良	底部～体部下位1/2
25	須恵器 高台付碗	口底高	14.6 9.5 4.6	内外面共回転横ナデ 底部ヘラ削り後付高台	胎色 砂粒含む 灰白色 やや不良	ほぼ完形
26	須恵器 高台付碗	口底高	14.7 9.4 4.7	内外面共回転横ナデ 底部回転ヘラ切り後付高台	胎色 砂粒含む 灰白色 焼良	完形
27	須恵器 底台付碗	口底高	17.3 11.5 6.5	内外面共回転横ナデ 底部回転ヘラ切り後付高台	胎色 砂粒含む 灰色 焼良	2/3 内外面自然灰釉少量付着
28	須恵器 碗	口底高	17.0 — 6.0	内外面共回転横ナデ	胎色 砂粒含む 灰白色 焼良	口縁部～体底部2/5
29	須恵器 底台付盤	口底高	20.0 13.2 4.5	内外面共回転横ナデ	胎色 砂粒含む 灰色 やや不良	1/8
30	須恵器 高台付盤	口底高	— — 5.8	内外面共回転横ナデ	胎色 砂粒含むA 灰色 焼良	破片 外面自然灰釉付着 内面重ね焼き痕
31	須恵器 盤	口底高	— — 3.1	内外面共回転横ナデ 底部ヘラ削り	胎色 砂粒含む 褐色 焼良	破片
32	須恵器 盤	口底高	23.4 19.6 2.9	内外面共回転横ナデ	胎色 砂粒含む 灰色 焼良	破片 内外面自然灰釉付着
33	須恵器 盤	口底高	— — 18.0	内外面共回転横ナデ	胎色 荒砂粒含むB 灰黄褐色 焼良	底部1/2 内外面自然灰釉付着 外面窓壁融着
34	須恵器 蓋	口ツマミ高	14.1 4.1 3.6	内外面共回転横ナデ 天井部回転ヘラ削り後ヘラナデ ボタン状つまみ貼付	胎色 砂粒含む 灰白色 焼良	完形 内面自然灰釉少量付着 外面重ね焼き痕
35	須恵器 蓋	口ツマミ高	13.8 4.3 3.3	内外面共回転横ナデ 天井部回転ヘラ削り後ヘラナデ ボタン状つまみ貼付	胎色 砂粒含む 灰白色 焼良	9/10
36	須恵器 蓋	口ツマミ高	15.0 4.4 3.5	内外面共回転横ナデ 天井部回転ヘラ削り ボタン状つまみ貼付	胎色 砂粒少量含む 灰白色 焼良	完形 内外面自然灰釉少量付着

第35表 K-6号窯遺物観察表(2)

K-6号窯

No.	機種	法	量	成形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
37	須恵器 蓋	口	16.3	内外面共同転横ナデ 大井部回転ヘラ削り後ヘラナデ ボタン状つまみ貼付	胎色 砂粒含むA 灰白色 焼良	2/3
		ツマミ	5.4			
		高	3.5			
38	須恵器 蓋	口	14.4	内外面共同転横ナデ 天井部回転ヘラ削り ボタン状つまみ貼付	胎色 砂粒含む 灰白色 焼良	ほぼ完形 内面自然灰釉少量付着
		ツマミ	4.4			
		高	3.0			
39	須恵器 蓋	口	15.6	内外面共同転横ナデ 天井部回転ヘラ削り後ヘラナデ ボタン状つまみ貼付	胎色 砂粒含むA 灰色 焼良	完形 外面重ね焼き度
		ツマミ	5.5			
		高	3.8			
40	須恵器 蓋	口	16.0	内外面共同転横ナデ 天井部回転ヘラ削り 中央突出リング状つまみ貼付 ●	胎色 砂粒含む 灰色 焼良	2/3 外面自然灰釉少量付着 内面重ね焼き痕
		ツマミ	4.0			
		高	2.9			
41	須恵器 蓋	口	15.8	内外面共同転横ナデ 天井部回転ヘラ削り後ヘラナデ ボタン状つまみ貼付	胎色 砂粒含む 灰色 焼良	1/2 内外面自然灰釉付着
		ツマミ	5.3			
		高	3.1			
42	須恵器 蓋	口	15.3	内外面共同転横ナデ 天井部回転ヘラ削り ボタン状つまみ貼付	胎色 砂粒含む 灰色 焼良	1/2 内外面自然灰釉付着
		ツマミ	5.2			
		高	2.4			
43	須恵器 蓋	口	17.7	内外面共同転横ナデ 天井部回転ヘラ削り リング状つまみ貼付	胎色 砂粒含む 灰色 焼良	1/3 内外面自然灰釉付着 内面窯壁融着
		ツマミ	—			
		高	4.0			
44	須恵器 蓋	口	14.7	内外面共同転横ナデ 大井部回転ヘラ削り ボタン状つまみ貼付	胎色 砂粒含む 灰白色 焼良	ほぼ完形 外面重ね焼き痕
		ツマミ	4.4			
		高	3.0			
45	須恵器 蓋	口	14.4	内外面共同転横ナデ 天井部回転ヘラ削り リング状つまみ貼付 ●	胎色 砂粒含むA 灰色 焼良	1/2 外面自然灰釉少量付着
		ツマミ	4.5			
		高	3.2			
46	須恵器 蓋	口	16.0	内外面共同転横ナデ 天井部回転ヘラ削り後ヘラナデ	胎色 砂粒含むA 灰白色 焼良	1/2 内外面自然灰釉付着 内面重ね焼き痕
		ツマミ	—			
		高	—			
47	須恵器 蓋	口	15.8	内外面共同転横ナデ 天井部ヘラ削り ボタン状つまみ貼付	胎色 砂粒少量含む 暗灰色 焼良	1/2 内外面自然灰釉付着 外面窯壁融着
		ツマミ	5.2			
		高	2.9			
48	須恵器 蓋	口	15.4	内外面共同転横ナデ 天井部回転ヘラ削り	胎色 砂粒少量含む 灰色 焼やや不良	1/3 内外面自然灰釉 窯壁融着 外面重ね焼 き痕 破片融着
		ツマミ	—			
		高	2.5			
49	須恵器 蓋	口	15.1	内外面共同転横ナデ 天井部ヘラ削り後ヘラナデ リング状つまみ貼付 ●	胎色 砂粒含むA 灰 一部褐灰 焼良	4/5 内面自然灰釉付 着 窯壁融着 外面重 ね焼き痕
		ツマミ	4.9			
		高	3.2			
50	須恵器 蓋	口	18.9	内外面共同転横ナデ 天井部回転ヘラ削り リング状つまみ貼付 ●	胎色 砂粒含む 灰色 焼良	1/2 内外面自然灰釉付着 窯壁融着
		ツマミ	5.9			
		高	4.5			
51	須恵器 蓋	口	16.4	内外面共同転横ナデ	胎色 砂粒少量含む 灰色 焼良	1/3 外面自然灰釉付着 窯壁融着
		ツマミ	—			
		高	—			
52	須恵器 蓋	口	16.7	内外面共同転横ナデ 天井部回転ヘラ削り	胎色 砂粒含むA 灰色 焼良	1/6 内外面自然灰釉付着
		ツマミ	—			
		高	—			
53	須恵器 蓋	口	17.6	内外面共同転横ナデ 天井部回転糸切り後回転ヘラ削り	胎色 砂粒少量含む 灰白色 焼やや不良	1/3
		ツマミ	—			
		高	2.3			
54	須恵器 蓋	口	17.6	内外面共同転横ナデ 天井部回転ヘラ削り リング状つまみ貼付 ●	胎色 砂粒含むA 灰色 焼やや良	1/8 内外面自然灰釉少量付 着
		ツマミ	3.8			
		高	3.4			

第36表 K 6号窯遺物観察表(3)

K-6号窯

No.	器種	法	量	変形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	残存状態・備考
55	須恵器 蓋	口 ツマミ 高	19.6 4.2 2.9	内外面共回転横ナデ 天井部回転糸切り後回転ヘラ削り 中央突出リング状つまみ貼付	胎 細砂粒含む 色 色に濃い橙 焼 不良	1/4
56	須恵器 蓋	口 ツマミ 高	15.2 — —	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒少量含むA 色 灰色 焼 良	1/3 内外面自然灰釉少量付 着
57	須恵器 蓋	口 ツマミ 高	19.2 — —	内外面共回転横ナデ 天井部回転ヘラ削り	胎 砂粒含むA 色 灰色 焼 良	1/3
58	須恵器 蓋	口 ツマミ 高	11.8 3.4 2.0	内外面共巨転横ナデ 宝珠状つまみ貼付	胎 砂粒含む 色 灰白色 焼 良	ほぼ成形
59	須恵器 円面椀	口 底 高	15.0 — —	内外面共回転横ナデ	胎 砂粒多量含むB 色 灰黄色 焼 良	海部と陸部（各々に突 帯）外面自然灰釉付着 窯壁面着
60	須恵器 高 盤	口 底 高	— 13.0 6.5	内外面共巨転横ナデ	胎 砂粒含む 色 灰色 焼 良	胴部のみ
61	須恵器 壺	口 底 高	— — 14.0	内外面共回転横ナデ 口辺部波状紋	胎 砂粒含むA 色 灰黄色 焼 良	口辺部～頸部の一部
62	須恵器 壺	口 底 高	— — —	内外面共回転横ナデ 口辺部波状紋	胎 砂粒多量含むA 色 灰色 焼 良	口辺部～頸部の一部

第37表 K 6号窯遺物観察表(4)

延びている。壁面も青灰色に還元化され、側壁は燃焼部に入り幅を狭め、焼成部との境にくびれを持つ平面形態となる。

焼成部 焼成部の規模は、長軸3.8m、最大幅1.4mを計る。燃焼部において水平を保っていた床面は、焼成部に至り傾斜を持ちながら奥壁へと至る。床面、壁面共に青灰色に還元化され、燃焼部との境にくびれを持った倒壁は、奥壁との中間部分に最大幅を持つ形態となる。燃焼部、焼成部の土層断面には、天井部分と考えられる赤褐色土層の崩落を部分的に確認することができた。

奥壁・煙道部 奥壁の平面形は、やや丸味を持っている。煙道部は天井が残っており、煙道部の形状が良くわかる良好な資料である。煙道は、長径0.5m、短径0.35mの楕円状の平面形を呈し、地上から確認することができた。奥壁はほぼ垂直に立ち上がり、地上から1.6mを計る。

遺物出土状態

K 6号窯からは、坏、高台付碗、盤、蓋、円面碗等が焼き台などと共に出土している。図示した遺物は全て燃焼部、焼成部からの出土で、自然灰釉や窯壁の融着により、燃焼時の製品の重ね焼きの状態を知ることのできる資料を多く得ることができた。

竪穴状遺構（第30図）

K・1号窯、K-4号窯の西側に斜面をカットし、平坦な床面を作り出している竪穴状遺構を検出した。現況においての規模は、長軸2.7m、短軸0.9mである。竪穴状遺構北東隅には、礫によって組まれた竪穴の施設を確認した。床面及び周囲に柱穴等の掘り込みは確認できなかった。また床面が南に延びる可能性も考えられてが、現状において確認することはできなかった。

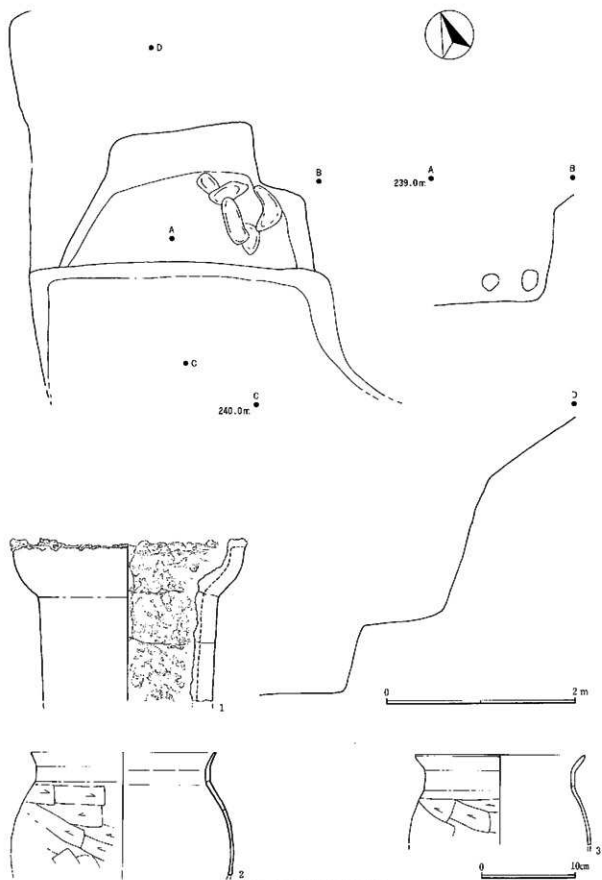
遺物は、竪穴の施設周辺から検出された。Na1の煙突を思わせる遺物は、内外面共にかなり熱を受けていて、特に内面については発泡したガラス状の付着物に厚く覆われている。高温状態にさらされていたことを推測させる。

竪穴状遺構と各窯跡の位置関係や出土遺物から、窯の操業時に同時存在していたことが考えられる。窯の操業に何らかの関係を持った施設と推定しておきたい。

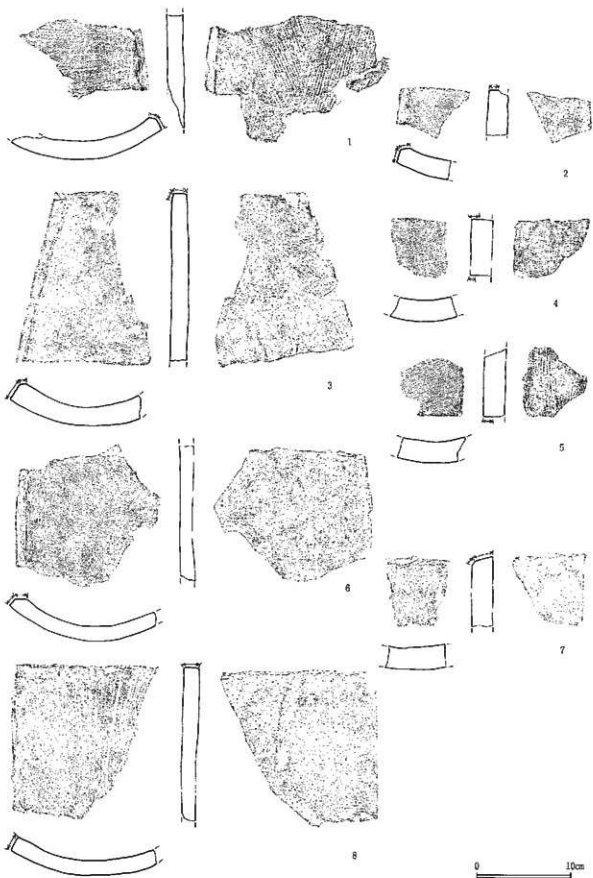
竪穴状遺構

No.	層 位	法 量	器形・技法等の特徴	胎土・色割・焼成	残存状態・備考
1	?	先端 25.0 胴部 18.3 高 16.5	土管状の形器で被熱が強く調整等は不明	胎色 黒褐色 焼 良	外面被熱により煤が付着 内面は被熱により発泡したガラス質の付着物に覆われる
2	上 部 器 窯	口 19.8 底 — 高 13.0	外面口縁部横ナデ — 体部横なしし斜ヘラケズリ 内面横ナデ	胎色 赤褐色 焼 良	口縁部から体部にかけての一部
3	下 部 器 窯	口 18.0 底 — 高 9.5	外面口辺部横ナデ 胴上部斜ヘラケズリ 内面横ナデ	胎色 赤褐色 焼 良	口縁部から体部にかけての一部

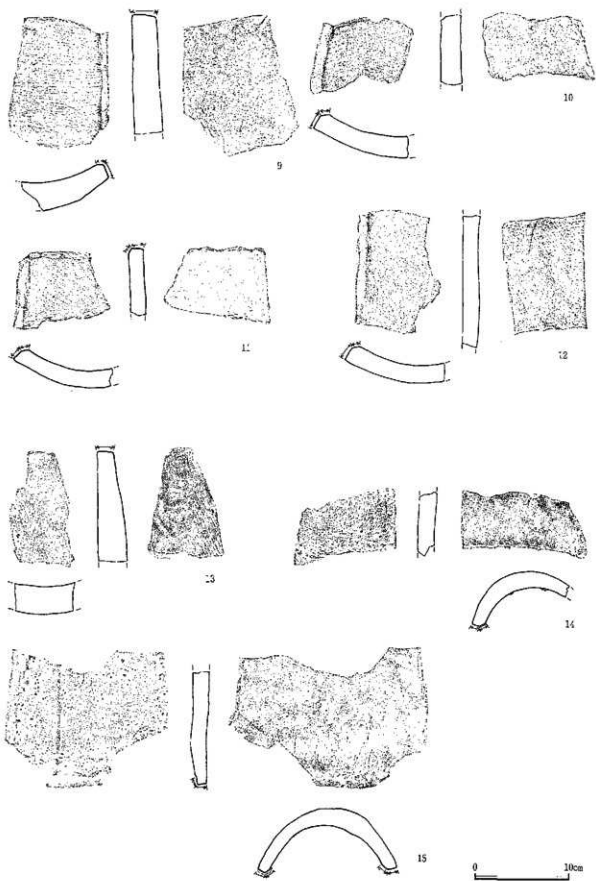
第38表 竪穴状遺構出土の遺物



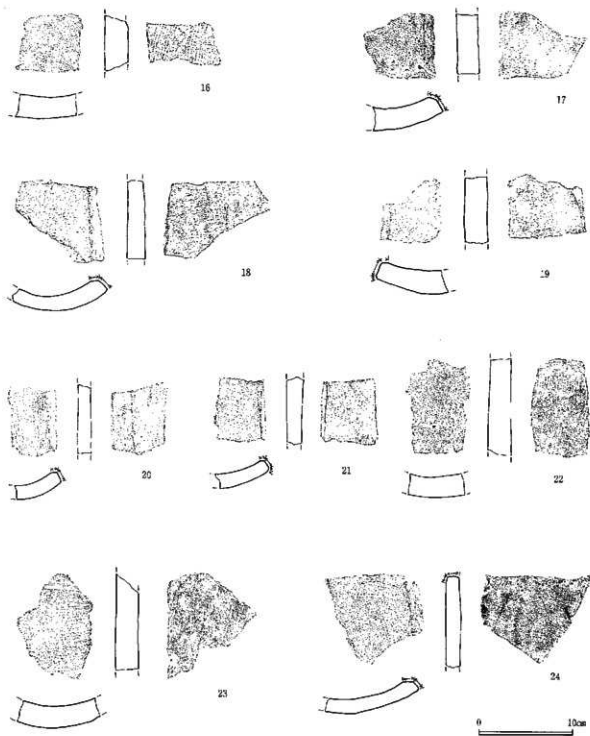
第30区 竖穴状遺構出土遺物



第31図 二反田遺跡出土の瓦(1)



第32図 二反田遺跡出土の瓦(2)



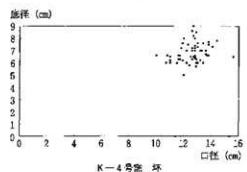
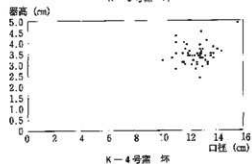
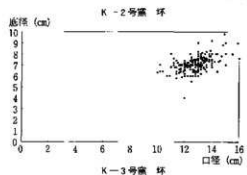
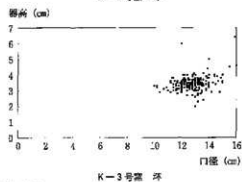
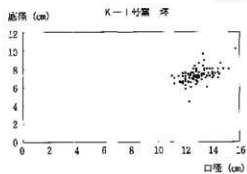
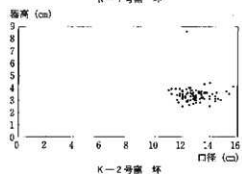
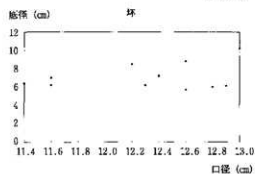
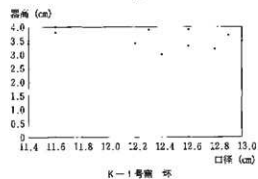
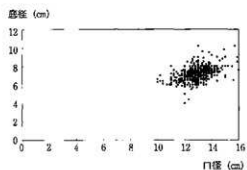
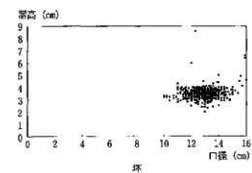
第33図 二反田遺跡出土の瓦(3)

瓦No	出土位置	法 量	器形・技法等の特徴	色割・焼成	残存状態・備考
1	K-1	狭 広 長 厚 — — — 1.8	叩き 斜目 8 布目 6×6	色 灰白色 焼 不良	破片
2	K-1	狭 広 長 厚 — — 2.0~2.2	叩き 斜目 7 布目 6×7	色 灰色 焼 良	破片
3	K-1	狭 広 長 厚 — — 1.8~2.2	叩き 斜目 8 布目 5×6	色 灰白色 焼 不良	破片
4	K-3	狭 広 長 厚 — — 2.4	叩き 布目 6×6	色 灰色 焼 良	破片
5	K-3	狭 広 長 厚 — — 2.2~2.3	叩き 縦目 7 布目 6×7	色 灰白色 焼 やや不良	破片
6	K-4	狭 広 長 厚 — — 1.6	叩き 布目 6×6	色 灰色 焼 良	破片
7	K-4	狭 広 長 厚 — — 2.3	叩き 縦目 6 布目 6×6	色 灰色 焼 良	破片
8	K-4	狭 広 長 厚 — — 1.7	叩き 横目ないし斜目 6 布目 5×6	色 灰色 焼 良	破片
9	K-4	狭 広 長 厚 — — 3.0	叩き 斜目 4 布目 5×5	色 灰色 焼 良	破片
10	K-4	狭 広 長 厚 — — 2.3	叩き 布目 6×6	色 灰色 焼 良	破片
11	K-4	狭 広 長 厚 — — 1.8	叩き 布目 5×6	色 灰色 焼 良	破片
12	K-4	狭 広 長 厚 — — 1.8	叩き 斜目 9 横目 7 布目 5×5	色 灰色 焼 良	破片
13	K-4	狭 広 長 厚 — — 1.8~3.3	叩き 斜目 8 布目 6×6	色 灰色 焼 良	破片
14	K-4	狭 広 長 厚 — — 1.7	叩き 布目 5×6	色 暗灰色 焼 良	破片 砂粒付着

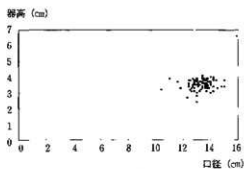
第39表 二反田遺跡出土瓦観察表(1)

瓦№	出土位置	法 量	器形・技法等の特徴	色調・焼成	残存状態・備考
15	K-4	狭 — 広 — 長 — 厚 2.0	叩き 布目 6×6	色 灰色 焼 良	破片 砂粒付着
16	K-4	狭 — 広 — 長 — 厚 2.3~2.5	叩き 斜目8 布目 6×6	色 灰色 焼 良	破片
17	K-6	狭 — 広 — 長 — 厚 2.1~2.4	叩き 布目 6×7	色 灰色 焼 良	破片
18	表探	狭 — 広 — 長 — 厚 1.9	叩き 布目 6×6	色 灰色 焼 良	破片
19	表探	狭 — 広 — 長 — 厚 2.4	叩き 布目 6×6	色 灰色 焼 良	破片
20	表探	狭 — 広 — 長 — 厚 —	叩き ヘラ削り 布目 6×7	色 灰色 焼 良	破片
21	表探	狭 — 広 — 長 — 厚 1.8	叩き 布目 6×6	色 灰色 焼 良	破片
22	表探	狭 — 広 — 長 — 厚 2.5	叩き 縦目6 布目 6×6	色 焼 良	破片
23	表探	狭 — 広 — 長 — 厚 2.3~2.5	叩き 布目 5×6	色 灰色 焼 良	破片
24	表探	狭 — 広 — 長 — 厚 1.6	叩き 布目 6×7	色 灰色 焼 良	破片

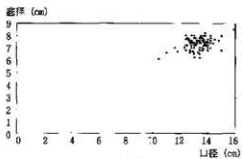
第40表 二反田遺跡出土瓦観察表(2)



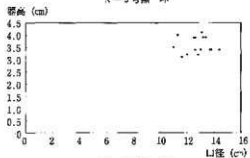
第34图 法量分布图(1)



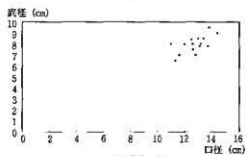
K-5号塞环



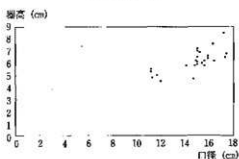
K-5号塞环



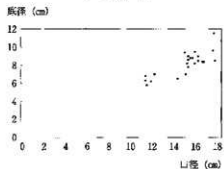
K-6号塞环



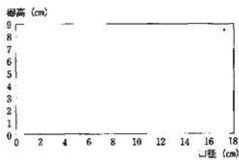
K-6号塞环



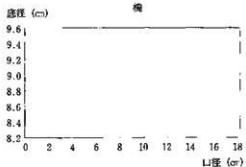
环



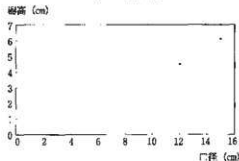
环



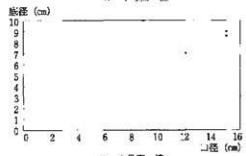
K-1号塞环



K-1号塞环

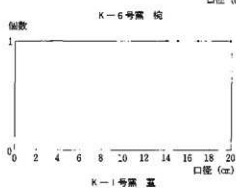
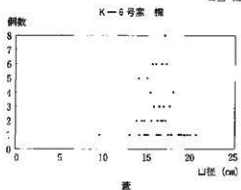
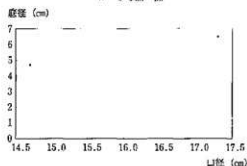
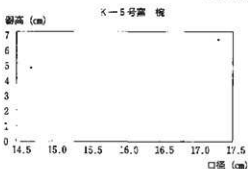
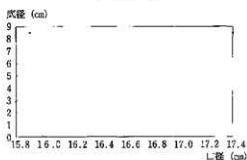
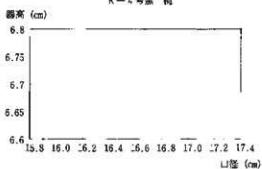
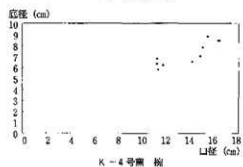
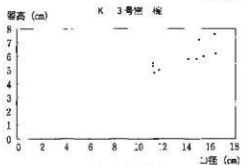
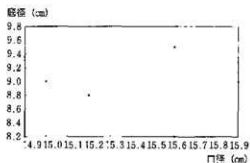
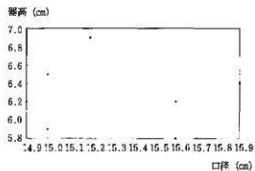


K-2号塞环

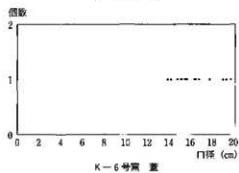
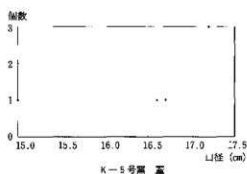
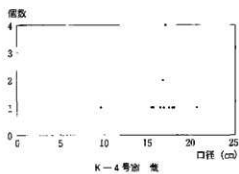
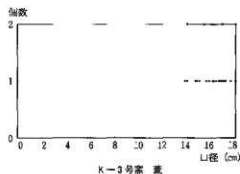
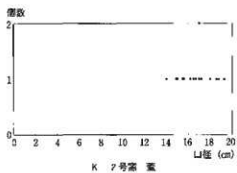


K-2号塞环

第35图 流量分布图(2)



第36图 法量分布图(3)



第37区 法量分布図(4)

VII 成果と問題点

秋間古窯跡群の様相

上野において最も古い須恵器生産は、太田金山窯跡群の6世紀初頭の窯窯と考えられている。そして、5世紀末から6世紀初頭の須恵器を見ると、西毛地域においても生産が行われていることが推測されている。西毛地域には安中市秋間古窯跡群、藤岡市藤岡古窯跡群、吉井町吉井古窯跡群、高崎市・吉井町にまたがる栗附・観音山古窯跡群等が存在し、中でも秋間古窯跡群は東西約7km、南北約3kmにかけて分布して、約50の支群を持ち、面積においては県下最大規模を誇っている。

秋間古窯跡群の操業は、榛名町炭原古墳群49号墳・53号墳から7世紀初頭頃の坏が出土しており、現在においてこの資料が最も古いため7世紀初頭の操業と推定されている。しかし、この時期の窯跡の確証はされていない。現在確認されているものでは、下秋間相水谷津に7世紀第3四半期の相水谷津A支群（小型蓋坏・盤・長頸壺等出土）、吉ヶ谷津に吉ヶ谷津支群（坏・平瓶・長頸壺・壺等出土）がある。7世紀初頭段階の窯跡が確認されず、7世紀第3四半期に入ると支群が確認されることから、単独窯に近い小規模単位の操業であったものから、量産規模への操業の拡大があったものと推測されている。7世紀第4四半期には、前橋市山王廃寺の創建瓦を生産する八重巻支群がある。8世紀以降9世紀までは、東谷津古窯跡群（川原喜久治氏発見）、東上秋間神水遺跡等の多くの支群が確認され、須恵器、瓦共に大規模な操業、量産がなされていたと推測され、二反田遺跡の支群もこの拡大期にあっている。その後9世紀後半には窯跡等の資料が見られず、秋間古窯跡群はこの時期において終息すると考えられている。

遺物の流通状況を見ると、量産がなされた8世紀以降、遺物は周辺地域以外にもおよび、旧東西洋馬郡南部、片岡、碓氷郡一帯に主体窯として存在していたことが考えられている。また、山王廃寺との関係から、上毛野の中心勢力と深く関係し、窯業経営にもそれらの勢力が深く関与していたことが推測されている。

須恵器坏底部切り離し技法について

須恵器坏の底部切り離し及び調整技法については、ヘラ起こし+全面ヘラ削り→回転糸切り+底部周辺回転ヘラ削り→回転糸切り無調整という変化がある。

二反田遺跡出土の坏を各窯跡毎に見ると、K-1号窯では遺物は少ないが、ヘラ削りと回転糸切り両者が見られる。K-2号窯では回転糸切りが主体を占め、ヘラ削り及び回転糸切り+底部周辺回転ヘラ削りが数点見られる。K-3号窯からは多数の坏を確認したがヘラ削りは1点のみで、残りは全て回転糸切りである。K-4号窯は回転糸切りが主体を占めるが、ヘラ削り及び回転糸切り+底部周辺回転ヘラ削りも見られる。K-5号窯では全て回転糸切りであった。K-6号窯はヘラ削りが多く認められ、回転糸切りは少数である。

回転糸切り技法の西毛地域への導入は、8世紀第2四半期の可能性が指摘されているが、窯資料として西毛地域において初めて確認されたのは、ヌカリ沢A窯跡であり、8世紀第3四半期とされている。西毛地域の集落遺跡出土の資料を見ると、8世紀第3四半期以降に回転糸切り技法の坏が主体的になる。しかし同時に、8世紀後半までヘラ起こしによる製品も確認されている。桜岡正信氏によれば、回転糸切り技法の導入が、底部周辺及び体部下端の笥削りを伴う段階であったとすると、これらの製品が生産

されたのはごく短期間であった可能性が高く、西毛地区においては、回転糸切り技法の導入直後に底部回転無調整へと変化したのではないかとされ、この糸切り技法は、先行地域である武蔵からの技術導入であるとされている。回転糸切り+底部周辺回転ヘラ削り→回転糸切り無調整という変化の中で、回転糸切り+底部周辺回転ヘラ削りはごく短期間で回転糸切り無調整へ移行するという流れは、二反田遺跡出土の資料中からも推測することができる。

特徴的須恵器形態について

須恵器の形態について、上野においていくつか特徴的に見られるものが指摘されている。ここではそれぞれの形態について、二反田遺跡出土の須恵器とともに概観したい。

(1) 坯蓋リング状(環状)つまみ

リング状つまみの蓋は上野系とされ、7世紀末に出現し、8世紀には広域に供給されている。リング状つまみは、蓋の天井部に円盤状の粘土を押しつけながら貼り付けられている。押しつけられた中心部が小さな突起(中央突出リング状つまみ)として残り、梨宝珠状の形態のものもある。また粘土紐を貼り付け、リング状のつまみを作るものも8世紀の中葉には出現している。

二反田遺跡の各窯跡出土の蓋は、K-6号窯にボタン状つまみとリング状つまみ両形態が確認された以外、ほとんどがリング状つまみである。技法面においても、中央突出リング状つまみ、粘土紐によるリング状つまみと各形態が出土している。

この他、天井部とつまみの貼付外周部の調整痕について記しておきたい。以前より渡辺一氏等により指摘されていたものであるが、遺物観察表で調整痕が確認されたものに関しては●により表示した。つまみを貼り付けた最終段階に、ヘラまたは竹管状の工具によってつまみと天井の貼付部分を押さえるように調整を行っている。観察した中には、つまみと天井部の境に沈線状のしっかりとした圧痕が観察されるものもあった。

(2) 上野型有蓋短頸蓋

上野型有蓋短頸蓋は、8世紀第1四半期に祖形が現れ8世紀第2四半期に成立したと考えられている。蓋の天井端部に凸帯及び鋳を有する形態である。リング状つまみと同様に他地域からの系譜が求められず、上野特有の形態と考えられている。

上野型有蓋短頸蓋の生産窯としては梁附・観音山古窯跡群、ヌカリ沢A窯跡、月夜野窯跡群沢入A支群、大胡地区ハヶ窪窯跡等がある。秋間地区では、東谷津古窯跡群において確認され、二反田遺跡においてもK-5号窯、K-6号窯から検出されている。

(3) 削り出し高台

削り出し高台は7世紀末に出現し、8世紀初頭にはなくなる限定的な技法として知られている。生産地は、中毛・西毛地域の集落遺跡を中心に出土例が見られ、藤岡市下日野・金井SY-14や、吉井古窯跡群末沢1号窯等に見られるため、西毛地域の窯跡群と想定されている。二反田遺跡においては、K-6号窯より1点検出された。

この他にも頸部凸帯の壺、堀広がりの瓶類の高台等が古墳時代から続くものとして特徴付けられてい

る。

このような形態的特徴を持つ須恵器の動きを迫ることにより、周辺地域との相互関連がいくつか指摘されている。

まず、二人派遣や工人間交流の可能性を指摘されているのが、下野の三義窯と、常陸木葉下窯である。

下野の三義窯には強い影響を与えていると考えられ、三義窯の北山・八幡窯にはリング状つまみの蓋、削り出し高台坏と皿(盤)、頸部凸帯の壺、裾広がりになる瓶類の高台が確認されている。また、坏の底部ヘラ切りや、古井窯末沢1号窯と同様の頸部書き波状文の壺が認められるなどの共通要素が多く、西毛諸窯との工人の派遣が推測されている。

常陸木葉下窯では、8世紀前半にリング状つまみの蓋が認められ、坏底部のヘラ切りなどからも、供膳具に限って工人間の交流が想定されている。

次に、工人派遣ではなく物を媒介としての交流が指摘されているのが武蔵地域である。武蔵の南比企窯ではリング状つまみの蓋、1法量の大形無台坏など供膳具に関しては上野からの系譜と捉えられているが、三義窯のように各機種導入されていないため、物を媒介としての考え方が示されている。また、坏の底部同転糸切り技法については、武蔵国が先進地域であり、武蔵国から上野国への技術導入があったと考えられている。

そしてこの様な工人の交流については時限的であるが、物を媒介としての交流は継続的な関係が窺えたとされている。

重ね焼きについて

窯跡の調査における特徴の1つとして、須恵器の重ね焼きを示す出土状況が上げられる。重ねられたままの状態で融着してしまったものや、土器の外面あるいは内面に重ね焼き痕を有するものなど、二反田遺跡の各窯跡からも多くの資料が検出された。以下に重ね焼きの状態について概観してみたい。

(1) 土器の融着 (第38図)

二反田遺跡出土資料の観察の結果、須恵器同士の融着のパターンを次のように分類することができる。

A類 坏と坏が重なるもの

B類 坏の底部同士が重なるもの

C類 坏と蓋が重なるもの

D類 坏と高台付碗が重なるもの

E類 蓋と蓋が重なるもの

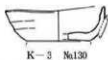
A類は坏と坏が積み重ねられるように重なったもので、K-3号窯No160が(坏が6個体重ねられ融着)その状態を顕著に表している。他の出土例は破片の状態のものも多く、2~3個体が重ねられている。

B類は坏同士の重なるのうち、底部と底部が重ね合わされているものを分類した。坏の底部と底部を重ね合わされていることから、焼成時の焼き台と製品の坏が融着してしまったものとも推測される。

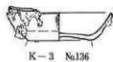
C類は坏と蓋が重ねられたものである。K-3号窯No132は坏に蓋が逆位に重ねられたもので、坏と蓋との間に窯壁などの融着も見られる。K-3号窯No181、K-3号窯No188は外面端部に坏の口唇部の一部が融着している。K-3号窯No200は実割岡は逆位に取っかけてしまっているが、坏に蓋が逆位に重ねられている。K-6号窯No21は坏に逆位の蓋2個体が重ねられ、さらにその上に坏が3個体重なっている。ま



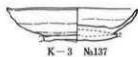
A類模式図



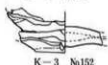
K-3 No.130



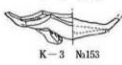
K-3 No.136



K-3 No.137



K-3 No.152



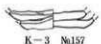
K-3 No.153



K-3 No.156



K-3 No.146



K-3 No.157

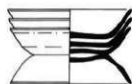


K-3 No.159



K-3 No.160

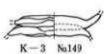
融着A類



B類模式図



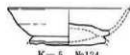
K-3 No.147



K-3 No.149



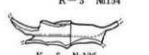
K-3 No.150



K-5 No.124



K-5 No.125



K-5 No.126



K-6 No.19

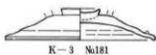
融着B類



C類模式図



K-3 No.132



K-3 No.181



K-3 No.200



K-3 No.188



K-6 No.21

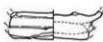
融着C類



K-6 出土状態



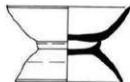
D類模式図



K-3 No.148



E類模式図



K-5 No.122



K-3 No.190

融着E類

融着D類

第38図 土器融着分類

たK-6号窯からは、写真のように坏が3個体重ねられた上に蓋が逆位に2個体重ねられ、その上に坏1個体さらにその上に逆位の蓋1個体が重ねられるという出土状況を確認した。K-3号窯No181、K-3号窯No188の場合も坏に蓋が逆位に重ねられていたものと思われ、坏と蓋の重ね焼きの場合、正位の坏に逆位の蓋を重ねるといった方法が取られているように推測される。

D類は坏と高台付椀が重ねられたものであるが、出土は2点と少ない。K-3号窯No148は坏の内側に高台付椀が重なる状態が見られる。K-5号窯No122は坏の底部に高台部分のみ融着しているため、坏と高台付椀が底部で重なっているものと思われ、土器の焼成状態を見ると高台部はかなり自然灰釉の融着が見られるため、高台付椀を焼き台として焼成されていたものと推測される。

E類は蓋と蓋が重ねられたものである。確認されたのはK-3号窯No1901点のみだが、蓋の内面に蓋の折り返しの部分が融着していて、内面同士がずれて重なっていたことが観察された。

(2) 土器の重ね焼き痕 (第39図)

土器同士の融着以外にも、重ねられて焼かれた土器の外表面及び内面に重なった部分の焼成温度差などが生じ、それが焼きムラなどになり重ね焼き痕として観察される例を多く確認した。土器の融着と同じように重ね焼き痕についても幾つかのパターンを見ることができる。なお、重ね焼き痕の付き方の推測をより精度の高いものにするため、陶芸家であり現在秋間に於いて自性寺焼きの制作を行っている青木昇氏の協力を得た。

A類 坏の内面底部と口唇部から胴部の一部にかけて自然灰釉がかかるもの

B類 坏の内面口唇部に自然灰釉、ススの吸着が見られるもの

C類 蓋の外表面折り返し上部に自然灰釉がかかるもの

D類 蓋の内面中央付近から口唇部にかけて自然灰釉がかかるもの

E類 蓋の内面に唇部内側に自然灰釉がかかるもの

A類については、土器の融着A類の様に坏と坏または坏と高台付椀などの重なりによって付いたものと推定される。自然灰釉が付いていない部分は坏同士が接していて、隙間の生じた部分に自然灰釉がかかったものである。

B類は模式図のように坏同士が内面あわせで多少ずれて重ねられたものや、土器の融着C類のように蓋が重ねられ、その蓋がずれた状態などが推定される。蓋の場合は坏よりも径が大きくなるため、ずれた場合はかなり斜めに切れ上がる痕が付くものと思われる。

C類は土器の融着C類と同様に、坏あるいは高台付椀の上に蓋が逆位に重ねられたものと考えられ(坏の口径と重ね焼き痕がほぼ一致)、K-6号窯No49などは、重ね焼きの1番上に置かれたものと思われ、蓋の内面に自然灰釉や窯壁の融着が著しい(下の製品を守るため1番上の製品はそれらのガード役という考え方も可能)。

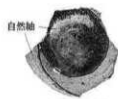
D類は坏の底径と重ね焼き痕がほぼ一致することから、模式図のようにC類の状態に重ねられた上に坏や高台付椀などが重ねられたものと考えられる。

E類は重ね焼き痕の径をみると坏の径と合うため、坏の上に正位に蓋を重ねられたものか、あるいは模式図のように蓋同士が内面あわせで重ねられた状態も推定される。

重ね焼き痕は、上記の様に顕著なもの以外に解釈不可能なものも多数存在する。実際の窯の中で、灰や灰がとてども複雑に製品の間を回り回っていることを伺い知ることができる。



A類模式図



K-2 No.43



K-2 No.44



B類模式図



K-2 No.63



K-5 No.37



B類模式図



K-5 No.46



K-2 No.52



C類模式図



K-2 No.67



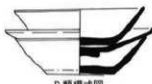
K-6 No.39



K-6 No.48



K-6 No.49



D類模式図



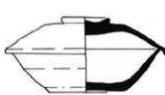
K-3 No.180



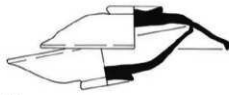
K-3 No.181



K-3 No.200



E類模式図



スス



K-6 No.46

第39図 重ね焼き痕分類

重ね焼きについて、土器同士の融着例や土器に残った重ね焼き痕から、窯詰め時における製品の重ね方を概観してみた。模式図で示したように幾つもの重ね方のパターンが存在することがわかった。また、これ以外にも多くの重ね方があることは容易に推測することができ、この結果は重ね方のほんの一部にすぎないことを付け加えなければならない。

まとめ

土器の融着、重ね焼き痕の観察には、前記したように陶芸家の青木氏に協力をお願いした。実際に遺物を見てもらい、また氏には現地調査時に窯跡を見てもらっていることから、遺物・遺構の両面を踏まえ、実際に登り窯を使い作品を制作している制作者の目からの疑問点や指摘を聞かせていただいた。それは実際に経験のない者にとって新鮮な意見であり、またあまりにも当たり前のことに気づいていないことに対し、目から鱗ということも多々あった。

最後に青木氏の意見を踏まえ、土器の融着や窯の構造等について考えまとめとした。

（窯詰めと土器の融着について）

窯跡から出土する土器は、その性格上当然のごとく融着や変形したものが多い。融着や変形はどのようにして起こるのであるか。一般的に粘土の耐火温度、窯内部の温度の上がりすぎ等が考えられる。青木氏の話では、秋間産の粘土は珪酸分が多く温度変化に弱いため割れやすく、現在の制作上においても温度管理が難しいとのことである。特に斜面に穴を掘って作った窯での温度管理は難しく、燃焼部では焚かれた火に近い部分で温度が上がり、運道近くでは温度が低い状態となり、1つの窯の中で製品にかなりのばらつきが生じるはずであるとの指摘を受けた。火に近い部分の製品が特に融着、変形等を起こしやすかったのであろう。氏によれば、それらを回避する方法として、窯詰め時に薪が入る程度中央を空け製品を積み、焼成時に薪をできるだけ中に投げ込めるようにする方法がとられるのではないかとのものであった。実際の遺物出土状況において、そのような状態を確認することはできなかったが、窯詰め時に何らかの工夫がされていた事は容易に推測できる。

また温度変化に弱い粘土のため、1度に温度を高くすることができず、焼成には4日から5日の時間をかけているであろうこと、製品の重ね方についてもいろいろなパターンがあり、壺の上があいてるから坏を乗せる、と言うような実際に窯詰めしながら空いているスペースを有効に利用する、などの事が行われているであろうとの指摘を受けた。

その他、興味深かったのが珪砂の存在である。珪砂は現在も融着などを防ぐために使用されており、粘土の精製時にできる非常に細かい白色粒子である。現在は窯の床面にまいたり、製品の間に使用し製品の融着を防いでいる。土器の融着B類で見たように、焼き台として坏を使用する以外に床面に珪砂をまき、製品を直接置くことも十分に考えられるであろう。窯跡の土層堆積の中でb層、c層の表面付近に見られた砂質層は、この珪砂の可能性が推測される。また製品中にも融着した窯壁や、自然灰釉の中に細かな砂質土を観察できることから、製品の間にまかれた珪砂の可能性が考えられる。氏の話では、秋間地区のゴルフ場造成地の斜面に、珪砂の層を確認した事があるそうである。

（窯の構造）

窯の規模は幅約1m、長さ約3～5mを計る（K 6号窯は多少大きい）。現在私たちの目にする2連

3連につながった登り窯の印象からすれば全体的に小振りである。青木氏によれば、前記した温度管理の点や窯自体の強度を考えた時、経験的にも妥当な大きさとのことであった。炎は天井付近を抜けていく性格があるため、天井を高くすると上下の温度差に対処が難しくなり、長くなれば前後の温度差の調整が難しくなるのである。窯の規模からすると人1人がやっと入れるほどの大きさである。製品の窯詰め時には、腹這い状態で中に入り土器を並べたのであろう。

この他、今回の調査では溝などの窯の周りの施設を確認することはできなかったが、排水溝や上屋などが作られていたことが考えられる。焼成に数日かかり、また1つの窯を数回使用した場合、雨などから窯を守らなければならない。青木氏によれば、1度窯の内部に水が入ってしまうと、後の処理が非常に大変とのことである。また、氏からの指摘で1つ興味深かったのが、煙突の存在である。煙道部分の地表面上に、煙突状の施設が考えられるとのことである。煙突を高く上げればその分窯の中の空気の引きが良くなり温度を上げやすく(温度管理しやすく)なる。現在も温度管理は煉瓦1枚の厚さで煙突を調整しているそうである。また、外部からの水を窯の中に入れられない為にも煙突は必要であると指摘された。二反出遺跡の調査において煙道は確認されたものの、煙突状の施設については確認することはできなかった。しかし、これも上屋などと同様に存在していた可能性は高いであろう。

(焼成回数)

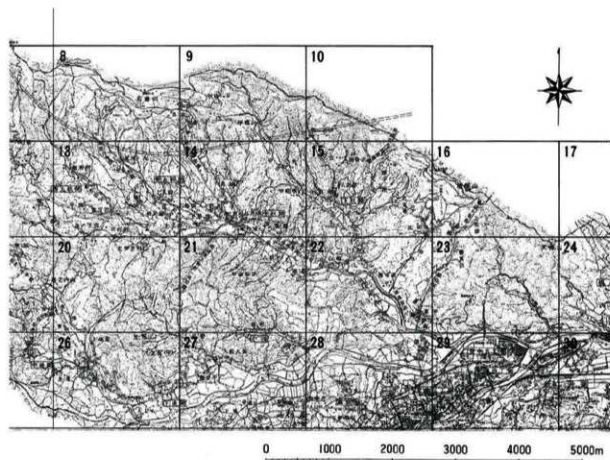
1つの窯において焼成回数はどれくらいだったのであろうか。残念ながら、今回の調査においてははっきりとした結果を得ることはできなかった。窯跡の土層断面中に見られる窯壁と思われる青灰色の還元化層と、その外側を取り巻く赤褐色の酸化層、窯壁を改修し塗り直ししながら何度か焼成を行えば、この二枚の層が焼成回数を示してくれるわけだが、二反出遺跡の各窯跡は、依存状態の良好な窯でもそれぞれ一枚確認されただけである。しかし、これをもって焼成は一回であると結論付けるのは危険であろう。窯壁の部分的な補修のみで焼成を繰り返すことは十分に可能であり、その場合土層断面において確認することは困難である。実際に現地にて窯跡を見ている青木氏も、あまり多くはないが1回という事はないのでとはの見解を示している。

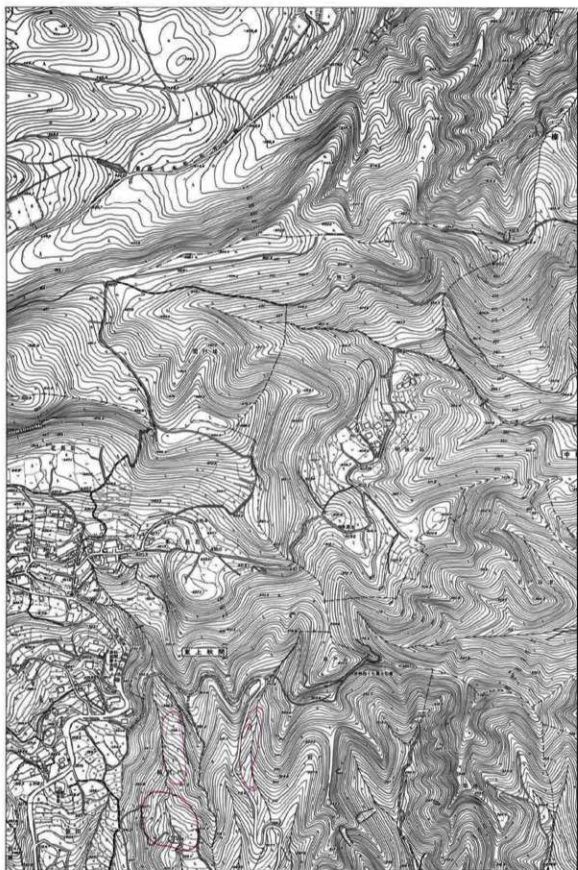
以上のように、青木氏の見解は実際に登り窯で焼き物を製作している立場からの生の意見であり、窯体構造、焼成方法などについて大変貴重な指摘をしていただいた。

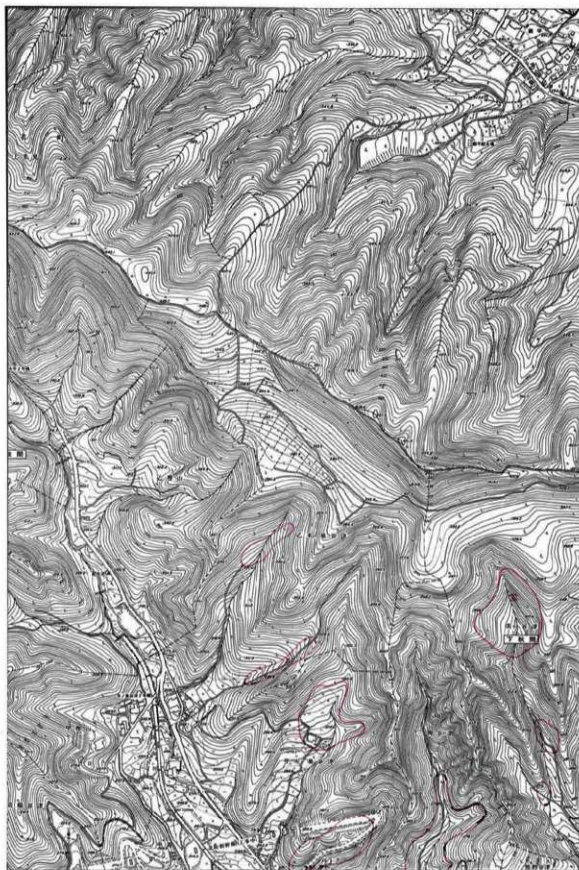
二反出遺跡の作業時の風景を思うと、上屋施設を持った2～3基の窯が煙を上げ、工人達が斜面の上の平場において作業に従事している。そんな場面が思い浮かべられる。また目を転じれば、秋間の谷のあちこちに須臾器窯の細い煙が上がっていたのであろう。そして時はまさに律令制の時代であり、高度な技術が必要とする窯業経営の背景には、国家による中央集権の政治的意図が色濃く存在しているのである。

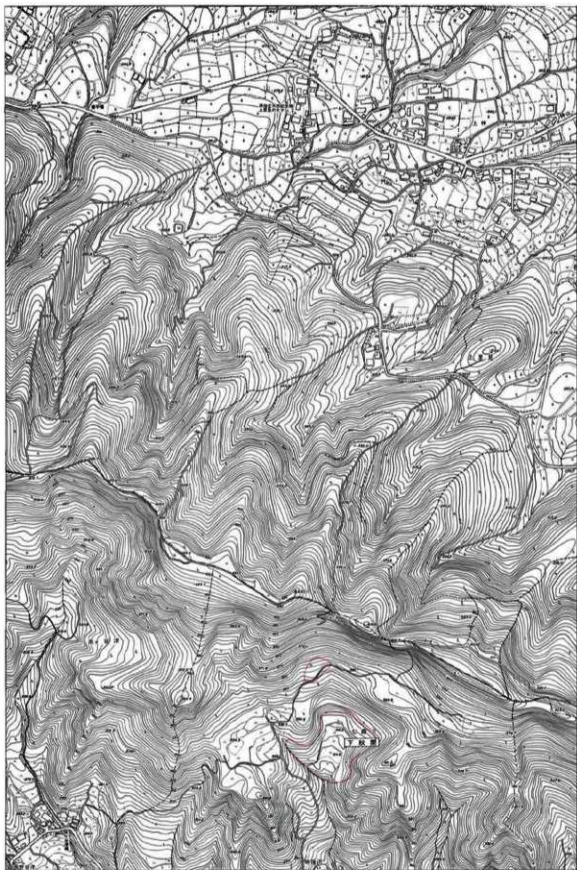
VIII 秋間古窯跡群分布図

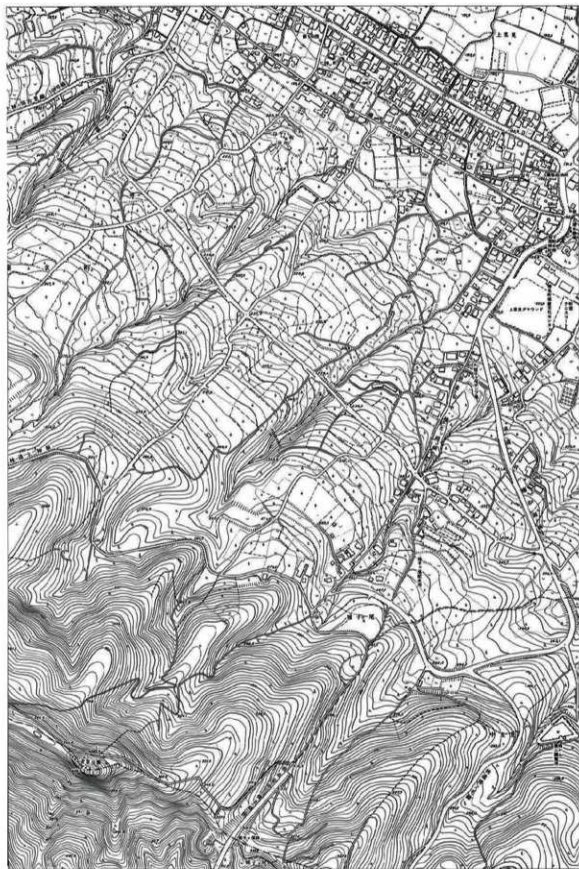
秋間古窯跡群の分布調査は、1989年大江正行氏らに委託し実施した。実際に天井崩落などにより窯を確認できた部分、また窯跡は確認できなかったが、遺物の採集や立地条件などから窯の存在の可能性の高い場所等の確認調査を行ってもらった。以下にこの調査による成果に基づいて作成した分布図を掲載する。なお分布図中■は窯跡、赤線で囲まれた部分は窯の可能性が高い場所を示す。

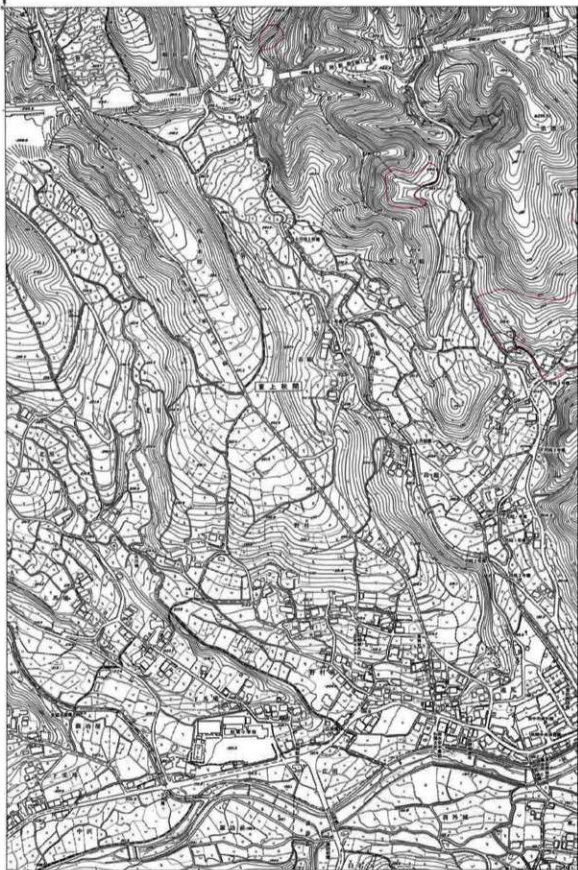


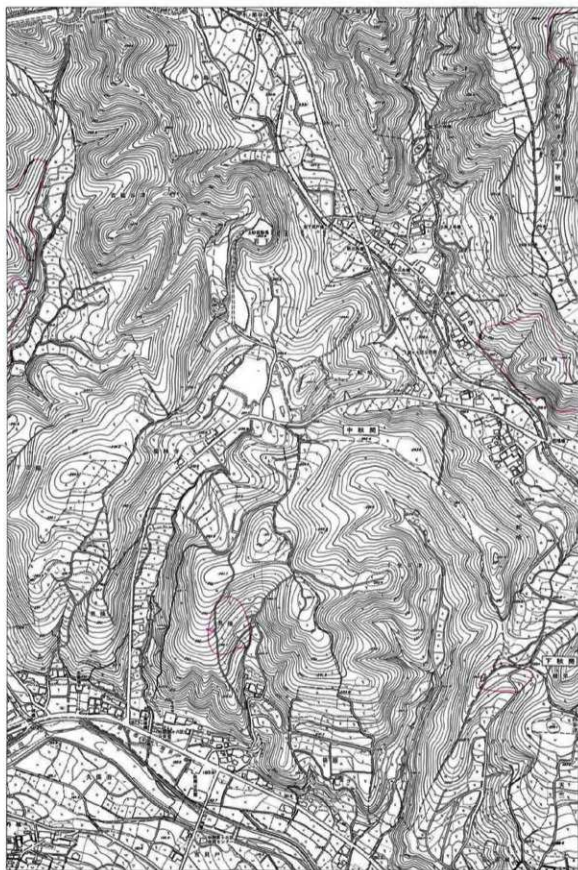












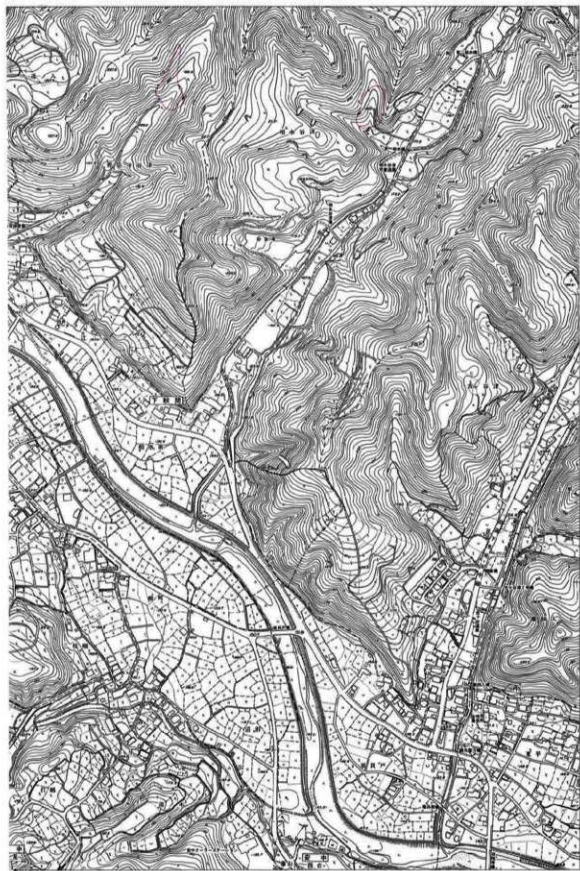


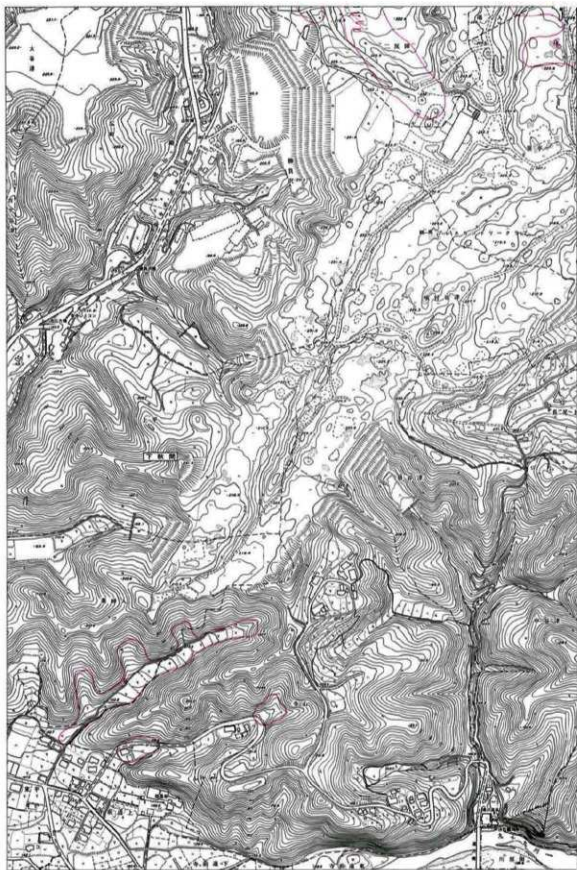


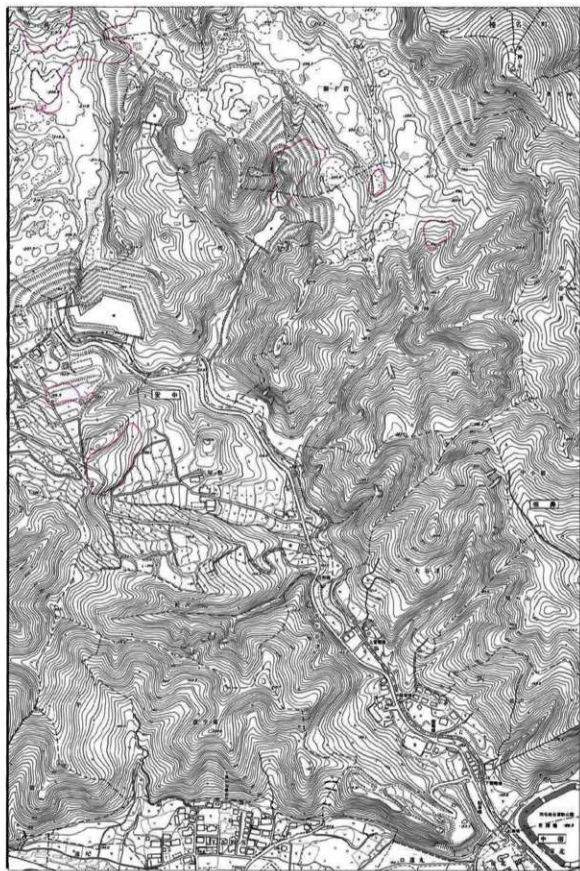












引用・参考文献

- 茂木山行 1995『メカリ沢A竪穴発掘調査報告書』群馬県多野郡吉井町教育委員会
- 神谷生明 1997「律令制成立期の須恵器の系譜―群馬県―」『古代生産史研究会 '97シンポジウム 東国の須恵器―関東地方における歴史時代須恵器の系譜―』古代生産史研究会
- 桜岡正行 1997「律令制変遷期の須恵器の系譜―群馬県―」『古代生産史研究会 '97シンポジウム 東国の須恵器―関東地方における歴史時代須恵器の系譜―』古代生産史研究会
- 津野 仁 1997「須恵器技術・工人編成と系譜」『古代生産史研究会 '97シンポジウム東国の須恵器―関東地方における歴史時代須恵器の系譜―』古代生産史研究会
- 田中一郎・渡辺一哉 1988「鳩山窯跡群1」鳩山窯跡群演跡調査会
- 大江正行 1991「窯業」『群馬県史通史Ⅱ、群馬県史編さん委員会

写 真 图 版



二反田遺跡全景



二反田遺跡全景

图版 2



K-2号窟全景



K-3号窟全景



K-4号窟全景



K-5号窟全景



K-6号窟全景



K-4号窟遗物出土状态

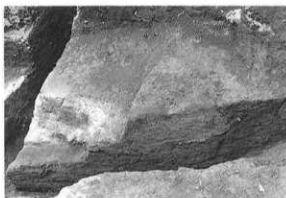


K-4号窟遗物出土状态



K-6号窟遗物出土状态

图版 4



K-3号窑土层断面



K-4号窑土层断面



K-4号窑土层断面



K-5号窑土层断面



K-5号窑土层断面



K-6号窑土层断面



K-6号窑土层断面



K-6号窑土层断面



調査前スナップ



調査スナップ



調査スナップ



調査スナップ

图版 6



K-1号窟 坏 No.1



K-1号窟 坏 No.6



K-1号窟 高台付碗 No.7



K-1号窟 高台付碗 No.9



K-1号窟 盖 No.12



K-1号窟 盖 No.13



K-1号窟 凹面硯 No.14



K-1号窟 鉢 No.17



K-1号窟 高盤 No.18



K-2号窟 坏 No.1



K-2号窟 坏 No.6



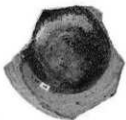
K-2号窟 坏 No.7



K-2号窟 坏 No.9



K-2号窟 坏 No.18



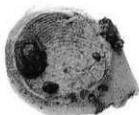
K-2号窟 坏 No.43



K-2号窟 坏 No.44



K-2号窑 环 No.52



K-2号窑 环 No.58



K-2号窑 环 No.63



K-2号窑 高台付椀 No.64



K-2号窑 盖 No.67



K-2号窑 盖 No.69



K-2号窑 钵 No.73



K-2号窑 钵 No.74



K-3号窑 环 No.9



K-3号窑 环 No.10



K-3号窑 环 No.12



K-3号窑 环 No.16



K-3号窑 环 No.17



K-3号窑 环 No.18



K-3号窑 环 No.23



K-3号窑 环 No.36



K-3号窑 环 No.93



K-3号窑 环 No.112

图版 8



K-3号窑 坏 No131



K-3号窑 坏 No132



K-3号窑 坏 No136



K-3号窑 坏 No142



K-3号窑 坏 No146



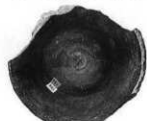
K-3号窑 坏 No151



K-3号窑 坏 No152



K-3号窑 坏 No154



K-3号窑 坏 No156



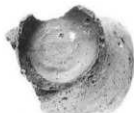
K-3号窑 坏 No160



K-3号窑 高台付椀 No162



K-3号窑 高台付椀 No165



K-3号窑 高台付椀 No170



K-3号窑 蓋 No176



K-3号窑 高台付皿 No173



K-3号窑 蓋 No180



K-3号窑 盖 No181



K-3号窑 盖 No183



K-3号窑 盖 No189



K-3号窑 盖 No200



K-4号窑 环 No1



K-4号窑 环 No2



K-4号窑 环 No11



K-4号窑 环 No12



K-4号窑 环 No16



K-4号窑 环 No28



K-4号窑 环 No31



K-4号窑 环 No44



K-4号窑 环 No60



K-4号窑 高台付碗 No69



K-4号窑 高台付碗 No70



K-4号窑 高台付碗 No95



K-4号窑 高台付碗 No.81



K-4号窑 高台付碗 No.82



K-4号窑 皿 No.94



K-4号窑 皿 No.95



K-4号窑 盖 No.96



K-4号窑 盖 No.98



K-5号窑 坏 No.4



K-5号窑 坏 No.5



K-5号窑 坏 No.8



K-5号窑 坏 No.9



K-5号窑 坏 No.18



K-5号窑 坏 No.21



K-5号窑 坏 No.23



K-5号窑 坏 No.33



K-5号窑 坏 No.46



K-5号窑 坏 No.37



K-5号窑 坏 No.77



K-5号窑 坏 No105



K-5号窑 坏 No111



K-5号窑 坏 No114



K-5号窑 坏 No122



K-5号窑 坏 No124



K-5号窑 坏 No126



K-5号窑 坏 No127



K-5号窑 高台付碗 No128



K-5号窑 高台付碗 No130



K-5号窑 盖 No131



K-5号窑 盖 No137



K-5号窑 盖 No140



K-6号窑 坏 No1



K-6号窑 坏 No2



K-6号窑 坏 No10



K-6号窑 坏 No11



K-6号窑 坏 No12



K-6号窑 坏 No13



K-6号窑 坏 No15



K-6号窑 坏 No17



K-6号窑 坏 No19



K-6号窑 高台付坏 No22



K-6号窑 盘 No33



K-6号窑 盖 No36



K-6号窑 盖 No38



K-6号窑 盖 No39



K-6号窑 盖 No40



K-6号窑 盖 No41



K-6号窑 盖 No42



K-6号窑 盖 No44



K-6号窑 盖 No46



K-6号窑 盖 No48



K-6号窑 盖 No49



K-6号窑 円面硯 No59



K-6号窑 盖 No58



竖穴状遺構 甕



K-6号窑 高盤 No60



竖穴状遺構 甕



竖穴状遺構



K-1号窑 瓦 No.3



K-4号窑 瓦 No.6



K-4号窑 瓦 No.8

图版14



K-4号窯 瓦 No 9

K-4号窯 瓦 No14

K-4号窯 瓦 No15

発掘調査報告書抄録

ふりがな	にたんだいせき
書名	二反田遺跡
題名	株式会社群馬プレスカントリークラブゴルフ場建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	千口茂雄
編集機関	安中市埋蔵文化財発掘調査団
編集期間所在地	379-0192 群馬県安中市安中一丁目23 13
発行年	西暦1998年12月25日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °' "	東経 °' "	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
にたんだいせき 二反田遺跡	あんなかししほせき 安中市千秋 間字「反出」	102113	B-2			19900416 } 19900720		ゴルフ場建設 事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
二反田遺跡	生産跡	平安時代	須恵器窯跡 竈穴状遺構	6基 1基 須恵器	秋間古窯跡群の発掘 調査

二反田遺跡

— 株式会社群馬プレスカントリークラブ
ゴルフ場建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

発行日 平成10年12月25日

編集・発行 安中市埋蔵文化財発掘調査団
群馬県安中市安中1丁目23-13

印刷 朝日印刷工業株式会社